

2024年度 活動報告書

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT



目 次

はしがき

アクション / プラン

新編入生お助け隊2024!! ～広大な学内にちらばる新編入生のみなさんへ～ (23022A)	1
Hack My Tsukuba 2024 (24002A)	5
Hack My Tsukuba 2024_Winter (24018A)	9
CAMPUS-Asia6 の音楽祭 — Musication Night 2024— (24002P)	13
令和 6 年度日韓青少年対話型交流事業 (24003A)	16
リベンジ! Tsukuba Mikoshi Club (24006A)	20
StartupWeekend つくば 12th (24007A)	24
StartupWeekend つくば 13th (24017A)	27
筑波大学りんごの棚プロジェクト (24009A)	31
ライフル射撃サークル (24010A)	36
「平砂カスミから、春日 4 丁目への道」落ち葉処理 (24011A)	39
「ちかん、盗撮、誰のせい? ～ちかん対策ポスターを作り直そう～」 (24013A)	41
筑波大学開学50周年記念オリジナルヘッドマーク車両で行く水海道車両基地見学 (24014A)	45
旧宿舎からの脱出 (24015A)	48
Medical Map for Foreigners vol.2 (24016A)	52
展示会を身近にしよう (24019A)	54
自分だけの紅茶タペストリーを作ろう! (24020A)	58
院生ひろば: 大学院生同士がつながる場の模索 (24021A)	61
新生活応援フリーマーケット (Flea market to support your new life) (24022A)	65
写真展「2021-2025」(24024A)	70

ボランティア

学内の放置自転車を一緒に減らそう！プロジェクト vol.3（3～4月）(23020V)	72
つくばの森づくり 森林保全ボランティア体験！参加者募集（24007V）	73
つくばの街で外遊び＆居場所づくりをしよう！（24008V）	74
チャリティーサンタつくば支部 運営スタッフ募集（24009V）	75
池の水を抜いて守ろう！生態系再生大作戦！（24013V）	76
ゴールドリボン 啓発イベント in つくば 2024（24014V）	77
工作実験講座イベントのサポートスタッフ募集（24018V）	78
つくばの魅力探究★まちなかキャンプ in 研究学園（24020V）	79
常陸 LEAPDAY 2024 ～動き、動かせ～（24021V）	80
令和6年度 茨城県警察大学生サポーター（24022V）	81
第3回 みんなで向き合うガンロコモウォーク（24024V）	82
「矢中の杜（旧矢中邸）」の保存活用（21002V）	83
2024年度 実施状況報告	84
編集後記	

※活動報告では、成長度（自分はどのくらい成長できたと感じますか？）と充実度（やりたいことができた充実感はありましたか？）を5段階で自己評価している。

※学生の学年は活動報告書提出時のものである。

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(2025年11月発行)』が完成しましたので、ここにお届け申し上げます。

本プロジェクトは、2008年度(平成20年度)に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択されて以来、学生の自主性と社会性の育成を図ることを目的として活動を展開してまいりました。2025年度(令和7年度)の今年度で、18年目を迎えます。この間、多くの方々に支えられてきたことを、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

本報告書には、T-ACTで実施された企画・活動のうち、昨年度(2024年度)に「活動報告書」が提出された取り組みの内容が掲載されています。そのうち、T-ACTアクション・プランの企画が20件、T-ACTボランティアの活動が12件です。一昨年度の活動では、前者が20件、後者が9件でしたので、ほぼ例年通りということになります。しかし、注目すべきは数ではありません。本報告書に収められた各企画・活動の内容を見ていただければわかるとおり、そこには学生の創意と工夫、そして努力が詰まっています。注目すべきはこちらの方で、ぜひとも学生の創意・工夫・努力を感じ取りながら、本報告書をお読みいただければと思います。

先にお話をさせていただきましたが、T-ACTは2025年度で18年目を迎えます。そして、T-ACTアクション(学生の立案による活動)・T-ACTプラン(教職員の立案による活動)・T-ACTボランティア(地域活動団体へのボランティア活動への自発的参加活動)の3つのT-ACTを合わせると、毎年、30件を超える取り組みが実施されています。実際には、コロナ禍等の影響もあって、単純には計算できないのですが、これまでに概ね500件を超える取り組みが展開されてきたことになります。もちろん、取り組みへの学生の関わり方は多様です。しかし、共通して育みたい力を設定し、それを念頭に置き、学生の取り組み18年、支え続けてまいりました。次の5つの力が、それに該当します。

1. 参加力：活動に積極的に参加し取り組む力
2. 体験力：その場でさまざまな物事を感じ取る力
3. コミュニケート力：協調して他者と関わる力
4. 統率力：目標に向かって仲間をまとめ上げて率いる力
5. 企画力：アイデアを実現させ、新たなものを創り出す力

これらの力は、現代社会を生き抜くために、われわれが必須で身に付けなくてはならない力です。では、学生はそれぞれの力を各企画・活動のどの場面で、どのように発揮したのでしょうか。そのような視点より、学生の取り組みを読み解くこともまた、大変興味深いことであるのかもしれません。

最後に、本年度、また来年度以降も、みなさまの変わらぬご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。来年度の今頃にも、多くの成果が報告できることをお約束いたします。

2025年11月

T-ACT推進室室長

唐木 清志

● 新編入生お助け隊2024!! ～広大な学内にちらばる新編入生のみなさんへ～ (23022A)

T-ACT プランナー 岡本 瞬 (情報科学類3年)

活動目的

新たな環境に身を置く際は、誰でも少しは不安に感じることがあると思います。新1年生には、1年次必修科目であるファーストイヤーセミナーがあり、図書館や施設の利用方法、経済支援、学類生同士の交流などの情報提供の場があります。その授業が編入生にはないことや、先輩後輩同士の交流の機会が少ない、または学類によっては全くないところもあり、情報を得る機会が少ないです。

編入生は毎年100名程度入学しますが、各学類の構成人数を考えると、新編入生に対して大学が公式に手厚い補助を行うのは、難しいという問題があるように推察します。そこで、私たちが新編入生に対して「スタートのサポート」をすることで、不足している情報を共有したり、相談相手になったりすることを目的に、新編入生向けのセミナーを開催することを考えました。活動内容として、4月に、単位認定／履修／学生生活 etc を説明し、また編入生同士での交流を深めることを目的とした新編入生の歓迎会を実施します。

今回の運営に携わるメンバーは、2023年度の編入新歓で歓迎されたメンバーです。2023年度に T-ACT アクション企画を通して初めて編入新歓が実施され、悩みの解消やスムーズな大学生活のスタートにつながったと実感しています。さらに横のつながりや縦のつながりが活性化されることで、大学での人間関係が希薄なものではなく、精神的に良好な学生生活を送る補助となりました。このことから、2024年度も実施するべきであると考え、企画立ち上げに至りました。

具体的な活動計画

まず、編入生特有の大変さや、困りごと、その解決法などを現役編入生からアンケート調査を実施し、歓迎会で共有すべき内容を検討する。

例：履修申請、単位認定、研究室配属、就職、人間関係など

【スケジュール】

- 2月中旬：アンケート調査の枠組み立案、メンバー募集
- 2月中旬～下旬：アンケート調査の実施と回収
- 3月：イベント計画、広報
- 4月：広報、新編入生向けの事前申し込みフォームの送信、イベント実施
2024/4/5（オリエンテーション）～2024/4/15（授業開始）のどこかで歓迎会イベントを実施
現在は4/11（木）を予定。
- 5月以降～ 振り返りと来年度のための人員確保や引き継ぎ、定期的な交流会や相談会の実施

【イベント内容】

- ・実施日：4月5日のオリエンテーション～授業開始の4月15日までの1日間
（現在は4/11（木）の夕方を予定）
- ・歓迎会イベントのタイムスケジュール（予定）
18:00～18:30
運営の自己紹介、学生生活および manaba などの説明、一人暮らしや筑波大学に関する Tips の共有
18:30～19:30
履修と単位認定の説明。
同学類の編入生の3年生と4年生同士で入学書類とPCを持参して、一緒に履修申請や事前登録などの必要な手続きを一緒に行う。単位認定について相談する。学類特有のキャリアパスなどの悩みを共有する。
19:30～20:30
編入生同士の交流＝フリートーク・ミニゲームを実施する。縦と横のつながりを横断的に得られるように構成する。
 - ・参加対象：新編入生
 - ・参加方法：事前申し込みをしてもらう
新編入生向けの事前申し込みフォーム <https://forms.gle/Dp5B7DQvCuJYot9R7>
 - ・当日の運営メンバー：
新2～4年次の学類生（編入生＋人数不足の学類は編入生以外にも依頼を検討）

活動場所

学内の空き教室 3A2xx の100名以上入る教室を予定

活動期間

2024/02/01～2024/07/31

対象

学生・教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：細井敬斗（応用理工学類 3 年）

P：杉江征（人間系）

備考

本企画は、承認番号22024A、2023年度の編入生歓迎会企画「新編入生お助け隊!! ～広大な学内にちらばる新編入生のみなさんへ～」の継続企画となります。本企画の主旨は新編入生への情報提供の場とすることです。

しかし、新四年生になる学生の方も現在進行形で進路や就職、研究室配属について悩んでいることや困っていること、その他についての悩みがある方もいらっしゃるかと思います。そのような悩みの共有や解決の場とすること、また筑波大学での学生生活の1年間を振り返り、大変だったことを労う場、入学して楽しかったことや良かったことなどを共有する場となることも目的としています。つまり、新編入生同士、先輩後輩同士、在学生同士の情報共有の場としたいと思います。

また、学類によっては入学者が数名の学類もあるため、1人もとりこぼさないためにも多くの方にご協力いただきたく思います。編入生ではない方でも情報提供していただける方、交流会にお手伝いいただける方を募っておりますので、ご協力していただきたいです。

編入試験を実施している学類は、

社会学類
生物学類
生物資源学類
地球学類
数学類
物理学類
化学類
応用理工学類
工学システム学類
社会工学類
情報科学類
情報メディア創成学類
知識・情報図書館学類
医学類
看護学類
医療科学類

になります。

新編入生向けの事前申し込みフォームは、以下のリンクとなっております。

<https://forms.gle/Dp5B7DQvCuJYot9R7>



こちらの企画をお友達に紹介していただくだけでも、直接、プランナー（岡本）に連絡いただける形でも構いません。学生の在籍数は多いですが、少人数が各学類に散らばって在籍しているために全数把握が難しい状況です。心細い気持ちで入学される新入生のためにも多くの方のご協力を募っております。

また、学類が豊富な方がきっと楽しい企画になると思います！ご連絡をお待ちしております、是非よろしくお願いたします！

活動報告

実際の活動内容

筑波大学には年間100名程度の「編入生」が編入学している。

編入生は、3年生（2年生）から筑波大学に入学することになるが、1年生から入学する「新入生」と比べると、大学公式で行われるオリエンテーションやセミナー系の授業が不足しているだけでなく、先輩や同級生に相談できる機会が少ないという問題がある。

そこで、「新編入生」を対象に、1年前に編入学した先輩となる学生達が情報提供及び交流の場を提供する必要があると考え、本企画が企画された。「新編入生」向けに、筑波大学とつくばでの生活に関する便利情報が記載されたパンフレットを、各学類ごとの編入生向けオリエンテーションで、エリア支援室協力のもと、配布を行った。

さらに、4月11日（木）に、編入生70名以上が参加した交流会を実施し、縦横のつながりが活発化することとなった。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒100%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

歓迎会の運営をやってくれるといていた学生が当日に3人ドタキャンした。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

解決できなかった。困りました。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

この活動は、私にとって「挑戦と成長の場」そのものでした。最初は編入生として感じた孤独や不安からスタートしましたが、同じ境遇の仲間と出会い、支え合う中で「誰かの役に立ちたい」という思いが自然と生まれました。その結果、情報発信や歓迎会の企画を通じて、多くの新編入生を支援することができたことは、大きな達成感をもたらしました。

一方で、自分の限界を感じる場面もありました。特にパンフレット作成や当日の運営において、多くのタスクが重なり、自分に負荷をかけすぎてしまったことは反省点です。しかし、それらを乗り越える中で「物事を最後までやり遂げる力」や「他者と協力して何かを成し遂げる喜び」を学ぶことができました。

この経験を通して、私は単に「編入生を支援する」という役割を超えて、自分自身もまた、新しい環境で挑戦する力を得たと感じています。この活動が、多くの人にとっても「羽休め」の場となり、さらに次の一步を踏み出す力となったのであれば、これ以上嬉しいことはありません。



参加者への影響

この活動を通じて、一緒に運営した仲間や参加者にもさまざまな変化が見られました。まず、一緒に運営を行った仲間たちは、当初は「手伝うだけでいい」という感覚だった人も多かったのですが、活動が進むにつれて「どうすれば新編入生がもっと楽しめるか」「何が役に立つ情報になるか」と積極的に意見を出し合うようになりました。その結果、パンフレット作成やゲーム企画などの場面では、メンバー全員が主体的に関わる雰囲気が生まれ、強いチームワークが築かれました。

また、活動に参加した新編入生たちの多くは、最初は緊張や不安を抱えていましたが、歓迎会を通じて同じ境遇の仲間と出会い、次第に表情が明るくなっていく様子が印象的でした。事後アンケートでは「同じ編入生と話せて安心した」「大学生活のイメージが掴めた」という声が多く寄せられ、活動が彼らの新しいスタートを支える一助となったと感じました。特に、歓迎会で仲良くなった人たちがその後も自主的に集まって交流を続けている様子を見たとき、この活動が単なるイベントに留まらず、参加者たちの「繋がり」を生むきっかけとなったことを実感しました。

未来のプランナーに伝えたいことがあれば自由どうぞ

イベント開催系は、とにかく運営メンバーを集める、継続的に仕事をしてもらうことが大変です。モチベーションが同じくらいの仲間を見つけることが何よりも重要だと思います。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

T-ACT を利用することで、自由度の高い活動を企画・運営できたことが大きな魅力でした。特に、支援を受けながら、自分のアイデアを具体的な形にできる環境が整っていたことは素晴らしいかったです。教職員のサポート、そしてエリア支援室の協力は、企画を円滑に進める上で非常に助けになりました。

また、T-ACT の枠組みを通じて、活動に対する責任感が生まれたことも大きな収穫でした。単なるボランティアではなく、正式な企画として承認を得ることで、自分自身の計画力や運営力を試す場となりました。結果として、他の学生や教職員との交流が深まり、コミュニケーション能力やリーダーシップの向上にも繋がったと感じています。

自分はどのくらい成長できたと感じますか?⇒4

やりたいことができた充実感ありましたか?⇒4

歓迎会の様子

ピクトグラムの作品



激しい+会話



楽しい+病院



大きい+雨

Hack My Tsukuba 2024 (24002A)

T-ACT プランナー 宗野 桂太（社会工学学位プログラム博士前期課程2年）

活動目的

現在、世界は VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）な状況にあります。新型コロナウイルスの地球的な流行や頻繁な自然災害など、不確実性が高まっています。これらの要因は、科学技術の進歩に伴うグローバルな移動や生産活動の複雑化によるものとされています。

このような状況下で、地域社会の安全や生活の質を維持することが大きな課題です。また、持続可能な未来を確保するためには、地球規模での持続可能性の推進が不可欠です。これらの課題に対処するためには、地域社会の結束や対話が必要です。

Hack My Tsukuba は、地域社会を強化し、対話と共同意思決定を通じて生活の質を向上させることを目的としたオープンなプラットフォームとして2017年から活動してきました。参加者は、議論やアイデアの共有を通じて、地域コミュニティの課題に対処する解決策を見出し、実行していきます。

Hack My Tsukuba の目的は大きく 3 つあります。

1. 市民参画の場

市民自身がデータから現状を知り、つくば市の住み良さの向上を目指す選択や意思決定を行えるような場を共創する

2. 市民の気付き・発見の場

ワークショップによる出会いと対話によってアイデア創出を行う

・自分事として考え、つくば市の地域課題の探索・発見と構造的把握を行う。

3. 市民の研究開発の場

シチズンサイエンスに結び付くきっかけをつくる

・筑波大学及び周辺の研究機関や企業と市民が共に研究開発を行う。

2024年度の Hack My Tsukuba はつくばサイエンスシティ構想におけるヘルスケアに関する部分をディスカッションテーマに据えます。2024年5月に開催する第1回のテーマは「つくば市民の命を救おう！～救急搬送の現場から」。急な緊急事態に直面した際、どんな行動をとりますか？救急搬送の現場において、医師や救急隊が果たす役割は極めて重要です。そこで、つくば市のリアルなデータをもとに、市民の命を守るための適切なアプローチを共に考える機会を考えます。そして9月、12月にも第2回、第3回のイベントを開催します。

具体的な活動計画

【イベント内容】

5月に実施する第1回のテーマは「つくば市民の命を救おう！～救急搬送の現場から」。つくば市消防本部職員及び筑波大学医学医療系教授を招きライトニングトークを実施し、それを踏まえて参加者はテーマの異なる複数のグループに分かれます。各グループはそれぞれのテーマについてホワイトボードや模造紙、ポストイットなどを用いてグループワークを行い最後に発表します。

T-ACT 参加者メンバーはイベントに向けたプロジェクトマネジメント及び当日のファシリテーション役を担います。例えば、イベントに向けた参加者をグループに分けるために事前にテーマの選定から、イベント開催の準備や広報など多岐にわたって携わることができます。

なお、2024年度は3回実施予定です。

第1回（5月25日） つくば市民の命を救おう！～救急搬送の現場から

第2回（9月実施予定） セルフメディケーション（仮）

第3回（12月実施予定） 人生の最終段階？？（仮）

※第3回については別途 T-ACT 起案を予定

【スケジュール】

○第1回（5月25日実施）

4月中旬：T-ACT 企画申請準備・申請

第1回目イベントへの参加市民募集開始

4月下旬～5月中旬：ワークショップテーマ選定とその工夫の検討

SNS 等を使った広報

イベントに向けた準備

5月25日：Hack My Tsukuba 当日、振り返り

5月下旬：ホームページ記事作成と資料アーカイブ、第2回イベントに向けた方針策定

○第2回（9月実施予定）

7月上旬～8月中旬：ワークショップテーマ選定のための
リサーチとその工夫の検討

8月上旬：参加市民募集

8月上旬～9月上旬：SNS等を使った広報
イベントに向けた準備

9月X日：Hack My Tsukuba 当日、振り返り

9月下旬：ホームページ記事作成と資料アーカイブ

※2024年度は12月にも実施予定。

【イベント当日の流れ（仮）】

- ・15分：挨拶
- ・20分：ライトニングトーク①
- ・20分：ライトニングトーク②
- ・10分：ワーク説明（テーマの説明）
- ・30分：ワールドカフェ（メンバーを変えながら複数のグループを回る）
- ・30分：全体シェア（講評を含む）
（適宜休憩を含み全体3時間程度）

大学会館などを利用。

活動場所

つくば市役所コミュニティ棟会議室

活動期間

2024/05/01～2024/10/31

対象

学生・教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：吉田智美（社会工学学位プログラム博士後期課程）

P：川島宏一 教授（システム情報系）

備考

■本企画の企画・運営スタッフを積極的に募集しています！

予定希望人数の詳細

5人～7人 ※企画・運営スタッフとして

5人程度 ※イベント当日の手伝いとして

企画・運営や手伝いは難しいが、イベント自体には興味があるという方はぜひ参加者としてご参加ください！



活動報告

実際の活動内容

Hack My Tsukuba を 5 月 25 日に実施した。テーマは「つくば市民の命を救おう！～救急搬送の現場から」と設定し、つくば市消防本部の職員の方より救急車の台数、出動回数などから現場に到着する部分をデータでお示しいただき、筑波大学医学医療系教授よりより医療現場の映像を交えつくば市の救急救命センターの役割、現場で働く医療スタッフの状況をお話いただきました。それを踏まえて以下の 3 つのグループに分かれ、グループワークを行った。

- ・救急処置：目の前に倒れている人を助けるために、私たちは何をすべきだろうか。
- ・医療リソース（救急車・病院・在宅診療）：人生の最終段階に本人の意思を尊重するためにはどうすればいいのだろうか。
- ・小児・乳幼児：突然、熱・下痢などで親が心配になって夜間外来に連れてきてしまう話題提供やワールドカフェを踏まえての参加者の主な意見は、以下のとおりでした。（「つくばで何をすべきか」に対するアンケート回答より）
- ・軽症患者の救急車利用を減らすべき。
- ・議論、情報共有の場は、いろいろな立場から重要である。
- ・市民を巻き込んで社会課題に対する解決策を模索しながら、行政の側は機敏に対応していけるとよいとおもいます。
- ・市民として、救急医療の一旦を担えるように、AED の位置の把握など自分のできることを小さなことでもやっいていこうと思った。
- ・行政としては、救急車の逼迫や AED の使用率など、現状の問題に対して、今回の会のような形で早急に解決策を作り出すべきだと思った。
- ・事業者としては、地域の救急には様々な問題点があることを認識しつつ、行政の穴を埋めるような事業の開発ができると良いと思った。
- ・市民は、お互い様であったり、自分の住む街を好きになるべき。行政は、街づくりや人の生活を守って欲しい。事業者は、専門的なことで、地域に貢献して欲しい。人がいい。住みやすい。能力を活かしやすい。つくばらしいと思う。
- ・自分：興味のある講演会等に時間が許せば積極的に参加をして、問題意識や人脈形成を行う。行政：市民との話し合の場を多くし、意見を吸い上げる機会を増やす。使いやすい、必要なアプリをつくる。情報の発信の仕方を考える。
- ・（市民）できることを PR する（行政）プラットフォームを作ること。モチベーションを出す（事業者）複数の行政で事業化できることを探す。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒50%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

今回の Hack My Tsukuba は参加募集人数を 30 人程度としていたが、1 週間前になっても半数程度しか募集の枠が埋まっておらず、当日の参加人数を充足させることに苦労した。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

Hack My Tsukuba のポスターを作成し、以下の取組みを実施することで、当日は約 30 人が参加する状況をつくることができた。

○効果があったか不明であるが、実施した取組み

- ・ T-ACT の掲示版、ポスター置き場にポスターを設置したこと
- ・ 大学内の各エリアの掲示版にポスターを設置したこと

○効果があった取組み

- ・ スーパーマーケットのカスミの情報掲示版にポスターを設置したこと（このポスターを見て参加してくれた人がいた）
- ・ 過去に Hack My Tsukuba に参加していた方に今回の Hack My Tsukuba を実施する旨の連絡をしたこと

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

今回のテーマである「つくば市民の命を救おう！～救急搬送の現場から」のアイデアはそもそも私が現在研

究している AED や心肺停止から派生して決まったものであったのだが、これまで自分自身では AED のことについて消防本部の方や救急救命士の方と話すことによって理解が深まっていたと感じていたが、実際に今回の Hack My Tsukuba を経て、住民の方がどのように感じているのか、どこに問題意識を持っているのかについて生の声を聴くことができ、これまでにはなかった別の視点で考えることができたのが私にとってとてもいい経験となった。

また、今回の反省点としては、先述の裏返しでもあるが、テーマが我々起点であり、つくば市の市としての取り組みや政策への意味づけが不十分だった点があり、つくば市のコミットメントが少なくなってしまったことである。そのため、今後実施する際には、つくば市の政策への意味づけや、Hack My Tsukuba をどういう位置づけにするのか、十分な議論が偽善に必要となる。

さらに、今回の参加者は約半数が一般市民、別の約半数が学生という構成であったが、Hack My Tsukuba を市の政策に位置付けるとなれば、これだけでは不十分だろう。例えば、市役所の方や企業の方（つくば市は企業の中でも研究機関が多いのでそれを考慮してもいいかもしれない）として（一般市民としてではなく）参加することで、より未来を向いた、かつ現実的な取り組みに結びつけることができるかもしれないと考える。

参加者への影響

先述の通り、今回の参加者は約半数が一般市民、別の約半数が学生という構成であった。一般市民、学生ともに、日常的には関わらない関係性であるため、双方に刺激を受けることができたという点が大きい。一般市民は現場感覚が鋭く、学生は医学系の学生が多く参加したことから専門的な知識を多く持っていたことから、双方のアイデアから「だったらこういう案はどうだろう」と建設的なディスカッションをすることができた。実際のアンケート結果でも学生はどういうことを考えているのかしらることができてよかったという声もあった。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

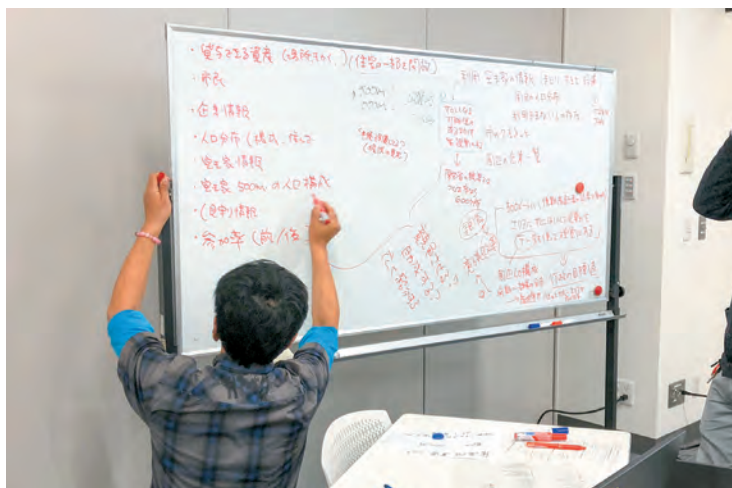
私は今回初めて T-ACT を活用しましたが、活用してよかったと思いました。まず、コンサルタントの方をはじめ、相談すると、できない理由探しではなく、どうやったらそれを実現できるのか一緒になって考えてくれます。そして、T-ACT を活用してメンバーを募集することで普通に大学生活を送っていたら関わることのない人々と接することができ、彼らだからこそ持っている考え方や視点をもとに、プロジェクトをより良いものにすることができます。私は、今回幸いにもやりたいことは決まった状態で相談に行きましたが、やりたいことはもやっとしている状態でもそれがどういうことなのか具現化してくれることでしょう！自分はできていないのですが、定期的に（週 1 や月 1 など）コンサルタントの方と進捗状況とかを共有する場があると、双方で課題や問題点、これからの進め方について相談できるのでとてもいいのかなと思います。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

T-ACT を活用してやりたいことを実現している人は多くいます。私は偶然、T-ACT の授業で他の T-ACT の取り組みを知ることができたほか、T-ACT の部屋で他の取り組みをしている方と話すきっかけがあったのですが、そういう人がいると、自分も頑張ろうと励みになります。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



Hack My Tsukuba 2024_Winter (24018A)

T-ACT プランナー 宗野 桂太（社会工学学位プログラム博士前期課程2年）

活動目的

【Hack My Tsukuba とは】

現在、世界は VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) な状況にあります。新型コロナウイルスの地球的な流行や頻繁な自然災害など、不確実性が高まっています。これらの要因は、科学技術の進歩に伴うグローバルな移動や生産活動の複雑化によるものとされています。

このような状況下で、地域社会の安全や生活の質を維持することが大きな課題です。また、持続可能な未来を確保するためには、地球規模での持続可能性の推進が不可欠です。これらの課題に対処するためには、地域社会の結束や対話が必要です。

Hack My Tsukuba は、地域社会を強化し、対話と共同意思決定を通じて生活の質を向上させることを目的としたオープンなプラットフォームとして2017年から活動してきました。参加者は、議論やアイデアの共有を通じて、地域コミュニティの課題に対処する解決策を見出し、実行していきます。

【Hack My Tsukuba2024のテーマと目的】

2024年度の Hack My Tsukuba はつくばサイエンスシティ構想における大テーマは「つくばヘルスケア」です。2025年1月に実施する第2回のテーマは「人生100年、つくば市での私らしい暮らし」とし、以下を目的とします。

★データを繋ぐ前に人を繋ぐ

- ・民間業者、大学関係者、住民（学生含む）、医療・ヘルスケア関係者などの将来、つくば市の課題解決に取り組んでくれる人材の交流を活性化させます。
- ・しいては、つくばスーパーサイエンスシティ構想で解決すべき課題に紐づけ、新サービス創出、推進に繋がっていきます。

★想定から具体的な課題の認識、そして解決へ

- ・住民の意見をもとに課題を再確認。解決策の検討に紐づけます。
- ・具体的に何を解決すべきかを明確に官・民・学・住で共通意識もと、今後（来年度以降）の取り組みに紐づけていきます。

【Hack My Tsukuba2024第1回（5月実施）からバージョンアップ】

Hack My Tsukuba は2024年5月にも実施し、その際は準備期間が短かったことから十分な周知ができずに限られた参加者での実施に留まってしまい、また、開催時に得られた知見についてもその場限りのものとなってしまいました。そのため、Hack My Tsukuba winter では、以上の反省点を踏まえて以下の点をバージョンアップして実施します。

★官（市）・民（民間）・学（学生）・住（一般市民）で参加者を構成する

- ・今回の Hack My Tsukuba の目的を明確にしたうえで相当な余裕を持って多様な市民に参加を促し、当日においては、何が課題なのか、解決するべき課題は何か共通認識を作ります。

★つくば市との連携

つくば市が掲げるつくばスーパーサイエンスシティ構想で掲げられている「医療介護分野～つくばヘルスケア」と連動させ、市民の声を拾い上げ、具体的な新サービスの創出、推進に繋げ、イベントをその場限りのものではなく、次につなげます。

具体的な活動計画

【スケジュール】

- 11月：ワークショップテーマ選定のためのリサーチとその工夫の検討
- 12月中旬：参加市民募集、SNS 等を使った広報
- 12月下旬：イベントに向けた準備
- 1月14日：Hack My Tsukuba 当日、振り返り
- 1月下旬：ホームページ記事作成と資料アーカイブ
- 2月～3月：来年度の Hack My Tsukuba に向けて

【イベント当日について】

概要：「つくば市での私らしい暮らし」を実現する上で、データを活用した医療や健康の新サービス創出・推進には何が必要か、市民目線でディスカッションをします。

日時：2025年1月14日（火）10時30分～17時00分

場 所：つくば市民センター「コリドイオ」(つくばセンタービル内)

対 象：データを利活用した医療・ヘルスケアに興味のある市民

～当日の Program ～

①開会挨拶・趣旨

- ・筑波大学 システム情報系 教授 川島 宏一
- ・(一社)つくばスマートシティ協議会 代表理事 平山 雄太
- ・つくば市 政策イノベーション部 部長 高橋 安大

②話題提供 つくば市民の健康を支える医療・ヘルスケアサービス

- ・つくばスーパーサイエンスシティ構想 アーキテクト / 筑波大学 システム情報系 系長 鈴木 健嗣
- ・つくば市 保健部 国民健康保険課 参事補 鈴木 愛
- ・株式会社 リーバー 代表取締役 伊藤 俊一郎

③ワークショップ シチズンジャーニーマップをつくろう

シチズンジャーニーマップとはカスタマージャーニーマップを文字った言葉で、一般市民が経験しうるプロセスでの出来事を洗い出し、そのときの行 動や感情を考え、そして市民の生活を向上させるサービスについて図示化したものです。

④講評・まとめ

【T-ACT 参加者の関わり方】

T-ACT にて Hack My Tsukuba に関わる際には主に 2 通りのかわり方がります。

① Hack My Tsukuba の参加者として参加する

②運営メンバーとしてイベントに向けたプロジェクトマネジメントを担う。(例えば、イベントに向けた参加者をグループに分けるために事前にテーマの選定から、イベント開催の準備や広報など多岐にわたって携わることが出来ます。)

昨年度まではコロナのため小規模にしか開催できていませんでしたが、本年度から本格的に取り組み始めており、今年度に留まらず来年度以降も実施できるようなプラットフォームづくりにも試行錯誤しながら取り組んでいます。

そのため、運営メンバーに「これ」と決まった仕事はなく、ご自身の得意なことや興味のあることのみに携わっていただくことでも大歓迎です。

活動場所

通常の打ち合わせ：筑波大学第3エリア内、オンライン

イベント当日：つくば市民センター「コリドイオ」(つくばセンタービル内)

活動期間

2024/11/01～2025/04/30

対象

学生

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：吉田智美（社会工学学位プログラム博士後期課程）

大野哲成（社会工学類）

P：川島宏一 教授（システム情報系）



活動報告

実際の活動内容

Hack My Tsukuba を1月14日（火）につくば市市民センター「コリドイオ」にて実施した。テーマは「人生100年、つくば市での私らしい暮らし」と設定し、人生100年時代につくば市で生き生きと自立して暮らせるにはどうすればいいか、設定したペルソナのライフスタイルを題材に議論した。



話題提供としてスーパーサイエンスシティ構想の概略やつくば市の医療介護データの分析、また実装のための実証実験の取り組みについてお話をいただいた。そのうえで、市民の行動分析をするためのフレームとしてシチズンジャーニーマップを作成した。話題提供やシチズンジャーニーマップの作成を踏まえての参加者の主な意見は、以下のとおりであった。

- ・幅広い年代や背景を持つ参加者と自由なディスカッションができ、様々な視点や知見を得られる貴重な機会となった。
- ・データ活用やスーパーサイエンスシティ関連のテーマを通じて学びが得られた一方で、ワークショップの進行やファシリテーションについて改善の余地があると感じた。
- ・全体的には有意義で満足度の高いイベントであった。

前回の反省点として、つくば市の市としての取組みや政策への意味づけが不十分で、つくば市のコミットメントが少なくなってしまうことがあった。今回は、つくば市科学技術戦略課と事前にすり合わせを行い、市側の意向を組んだ形で企画をした。話題提供で産官学それぞれの取り組みを紹介し、データ連携の取り組みを紹介することで参加者はスーパーサイエンスシティ構想の理解が進んだと考えられる。

さらに、今回は民間事業者や行政の方が前回より多く参加したことによって、より未来を向いた、かつ現実的な取り組みに結びつけることができたと考えられる。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒100%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

- ①例えば受付業務で座席の案内や質問への対応をしていると、次に来る参加者の受付対応の人員が不足してしまうということなど、参加者の困り事等に対応していると、手薄になってしまう業務が生じてしまった。
- ②演者の話が伸びてしまい、予定していた進行通りに進められなかった。
- ③班の割り振りに偏りがあった。民間事業者（NEC）の方が多くいたグループでアプリ開発の話題に偏り過ぎだと感じられることがあった。
- ④グループファシリテーターが不足していたためすべてのグループに目が行き届かないことも生じてしまった。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

※上記設問の「実施中に困ったこと」の番号と対応しています。

【工夫して解決したこと】

- ①ワークショップに慣れているスタッフも多くいたため、当日は各自が臨機応変に対応していた。一方で、今後は、人員不足が生じた業務に関して、参加者の困り事への対応要員や補助の要員も含めて役割分担を明確に振っておくことが求められる。
- ②演者の話が伸びてしまったことに関して、他のグループワーク等の時間を短縮した対応した。結果、問題なくグループワークを実施でき、時間内にワークショップを終えることができた。

【今回解決できなかったが、今後に活かしていきたいこと】

- ③班の割り振りについて、参加者の業務などを事前アンケート項目に入れることも考慮してもよかったのではないと思われる。
- ④ファシリテーターの不足に関して、ファシリテーションに関心のある参加者がいたので、参加者から募ってもよかった。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

私は、今回ワークショップの運営だけでなく、ワークショップの参加自体が初めてであった。ワークショップへの参加に関しては、他の参加者と同じように、幅広い年代や背景を持つ参加者と自由なディスカッションができ、様々な視点や知見に触れ、実際に困りごとを抱える市民の方からお話を伺う重要性を実感した。特に、つくば市で現役の民生委員の方が感じていた「共助」を促す支援の重要性や、重度の障がい者の子をもつ保護者の方が感じていた自分の予定と子の予定の兼ね合いが難しいという「スケジューリングの問題」が印象的だった。

「共助」に関しては、地域での交流が希薄化している現代において、どのように共助を促進すればよいか、解決策を考え、サービス開発につなげることが求められると思った。また、「スケジューリングの問題」は、障がいがなくとも育児や介護等の問題にも通ずる問題である。育児や介護で大変なことは多々あるが、その一つにスケジューリングの難しさがあることは考えたことがなかった。

イベント運営に関しては、会場・演者の確保やフライヤーの作成、参加者の募集、機材・物品の確保等、やらなければならないこととその流れを実際に体験し、イベントの運営について理解を深めることができた。また、実際の運営に関わることで自己理解につながった。具体的には、フライヤーの作成で自分自身にはなかった視点のデザインを目にしたり、活動報告等の作成で自身の頭の中の言語化に困ったりと、自身の未熟さを痛感した。今後はデザインセンスと文章作成能力を鍛えたいとポジティブに捉えている。

参加者への影響

日常的にはあまり関わらない関係性の参加者が、双方に刺激を受けることができたという点が大きい。理由として、今回の参加者は年齢のバランスや一般市民・事業者・研究者のバランスの良い構成であったためであると考えられる。具体的には、一般市民はつくば市での生活から得られる実体験を持っており、事業者・研究者は専門的な知識や現場の情報を持っていたことから、双方のアイデアから建設的なディスカッションをすることができた。そのため、実際のアンケート結果でも様々な視点や知見を得られる貴重な機会となったという声が多くなったのだと思う。

未来のプランナーに伝えたいことがあれば自由どうぞ

T-ACTを通じて多様な背景を持つ人々の考え方や視点をもとに、プロジェクトをより良いものにすることができる。私はT-ACTのホームページからこの企画の前身を知り、今回新たに本企画に参加した。自分はできていないが、申請前の相談だけでなく、定期的に（週1や月1など）コンサルタントの方と進捗状況とかを共有しながら、課題や問題点、これからの進め方について相談しに行ってもいいのではないかなと思う。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

本企画は2度目のT-ACTの活用だったが、やはり活用してよかった。T-ACTを活用してやりたいことを実現している人は多くいる。私は、T-ACTの授業で他のT-ACTの取組を知ることができたほか、T-ACTの部屋で他の取組をしている方と会う機会があった。そのような人がいると、自分も頑張ろうと励みになる。また、機材や物品を無料で貸し出していただけのも非常にありがたかった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感ありましたか？⇒5



CAMPUS-Asia6 の音楽祭 — Musication Night 2024 — (24002P)

T-ACT プランナー 角谷 恵子 (人間エリア支援室：世界展開力強化事業 プログラムコーディネーター)

活動目的

世界展開力強化事業 (CAMPUS-Asia6) のプログラムでは、現在アジア各国 (中国、韓国、タイ、インドネシア、マレーシア) から第 3 期生として 20 名の留学生が来日しており、地球規模課題解決のための教育政策へ繋げるための学際的・国際的協働の研究交流活動について筑波大学で学んでいます。

<https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/>

2022 年にはじめて T-ACT のご協力のもと開催した音楽祭は大変好評で、心に残るものになりました。昨年も第 2 期生と楽しく心温まるひと時を過ごしました。第 3 期生を迎えた今年も、「音楽は世界共通言語」を合言葉に音楽祭を企画しました。椅子取りゲーム、ハンドベル、今年もやります！ミュージック＋コミュニケーション＝Musication ♪ で皆さんの笑顔が増えますように！

Currently, in the CAMPUS-Asia6 program, 20 students from Asian countries (China, Korea, Thailand, Indonesia and Malaysia) are visiting the University of Tsukuba and studying interdisciplinary and international collaborative research exchange activities to apply this knowledge to educational policies for solving global issues.

<https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/>

The music festival, which was first held in 2022 with the support of T-ACT, was a great success and left a lasting impression. Last year, we also spent a warm and enjoyable time with the second batch of participants. This year, welcoming the third batch, we have once again planned the festival under the motto "Music is a Universal Language." Musical chairs, handbells—we're doing it again! We hope that Musication, combining music and communication, will bring even more smiles to everyone's faces!

具体的な活動計画

[活動内容]

- ・活動内容：CAMPUS-Asia6 留学生や関係者を対象に音楽（楽器、歌、合唱、ダンス）などの発表や紹介を通じてコミュニケーションを図る
- ・出演者・参加者：CA6 留学生、日本人学生、事務局員、関係教職員
- ・対象人数：35 名位まで
- ・日時：2024 年 12 月 10 日（火）18:00～20:00
- ・場所：2A 棟 306 室（音楽室）
- ・練習日時：11 月～当日までのあいだに 3 回程度 音楽室の空日を予約
- ・プログラム内容（案）：ピアノ、ダンス、コカリナ、ウクレレ、ハンドベル、各国の歌、合唱 他

[活動準備]

1. CA6 学生を中心に参加者（出演者、参加者）を募り、「事前登録制」とする
2. プログラムとポスターを作成する
3. 練習については練習場所と時間、感染症対策も含めた使用時の注意事項を告知する
4. 開催 2 週間後に T-ACT 推進室に報告を行う

[Activities]

- ・Activities: Communication through presentations and introduction of music (instruments, songs, chorus, dance, etc.) for Campus Asia6 international students and related people.
- ・Performers/participants: CA6 students, Japanese students, administrative staff, related faculty staff, etc.
- ・Number of participants: Up to about 35 people
- ・Date: Tuesday, December 10, 2024, 18:00-20:00
- ・Place: Bldg. 2A, Room 306 (Music Room)
- ・Practice dates: Approximately three times starting in November, on days when the music room is available.
- ・Draft program: Piano, dance, kocarina, ukulele, handbells, international songs, chorus, etc.

[Preparation]

1. Call for participants (performers and attendees), mainly CA6 students, and "pre-register" all.
2. Prepare the program and posters
3. As for practice, announce the place and time of practice, and precautions for its use, including infection control.
4. Report to the T-ACT Promotion Office two weeks after the event

活動場所

2A棟 306室（音楽室）

活動期間

2024/11/20～2024/12/10

対象

学生・教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：Unarat Wantipa・Sarakan Paritchaya

CAMPUS-Asia6プログラム学生（人間総合科学学術院教育学学位プログラム）

P：大手昇一（人間エリア支援室）、宮本有美・北村恵子（世界展開力強化事業事務局）



活動報告

実際の活動内容

世界展開力強化事業の CAMPUS-Asia6プログラムでは、2024年度に第3期生を迎えました。今年度は中国、韓国、タイ、インドネシア、マレーシアから20名の大学院生がプログラムに参加しました。

普段はプログラム A、B、C と研究分野により分かれて活動しているため、全員が揃うイベントは貴重な機会です。留学3ヶ月目に入り皆打ち解けてはいますが、音楽を通じて更に絆を深めてほしいと願いこの音楽祭を企画しました。メインの出し物として所属する大学別にパフォーマンスをお願いしました。

課題で忙しい中にもかかわらず、音楽室まで足を運んで練習してくれた学生もいれば、寮でスライドの準備や踊りの練習をしてくれた学生もいます。私たち事務局チームも短い時間ながら練習を重ね本番を迎えました。

T-ACT を通じて開催したおかげで一般の学生の参加申し込みをいただきました。チューター、教職員含め総勢30名が歌って踊って楽しい時間を過ごしました。

当日は留学生たちの手により音楽室が華やかに飾りつけされました。事務局チームによるピアノ、コカリナ、ハンドベルの合奏に始まり、タイチームは母国で大人気だというムーデン（カバ）に扮してダンスを披露し、続くインドネシアチームは伝統衣装のバティックを身に着け、伝統民謡を歌ってくれました。それぞれ違う島から来ており、島ごとに違う柄とのことで華やかでした。韓国チームは流行の歌で行うゲームを紹介し、参加した全員がその後何日かはその音楽が頭の中で鳴り続けたのではないかと思います。教職員も思わず曲に合わせて踊りました！さらにリコーダーでのソロ演奏があり、美しい千と千尋の神隠しの曲に聴き入りました。最後の中国チームは中国伝統の歌を披露してくれました。国を超えたりコーダーとギターのコラボも聴くことができました。

後半は毎年恒例の「椅子取りゲーム」で熱い戦いを繰り広げたあと、学生全員参加によるハンドベルでのきら星の合奏、そして最後は全員で「カントリーロード」を歌ってお開きとなりました。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒90%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

皆忙しく、音楽室での練習時間があまり取れなかったこと。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

寮などで各グループが工夫して練習してくれたが、来年度はもっと早く計画し、音が出せる練習時間を確保したい。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

今回3回目の音楽祭ということで、前例があったものの、業務後の時間での準備にあまり時間が取れず参加者への連絡も遅れがちになってしまいました。オーガナイザーである留学生2人が仲間に連絡をしたり、楽譜を配布したり、当日の準備も中心となって動いてくれて準備期間後半はスムーズに進めることができました。普段の留学生とは違う面を見ることができたことも喜びでした。

参加者への影響

仲間のパフォーマンスに聴き入り、応援し、交流を更に深めている様子をうれしく思いました。後日、ある留学生から音楽祭がプログラムに参加した中で一番心に残ったと聞き、音楽の素晴らしさを再確認するとともにやはり音楽は共通言語だと強く感じました。参加者全員で創り上げた Musication Night はお互いを知る大変よいコミュニケーションの機会となりました。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

1人で気負わずとも皆が助けてくれます。なんとかなります！

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

- ・いつでも相談のっていただけるという安心感があること
- ・学内にポスターを掲示できたこと
- ・興味をもってくれたプログラム以外の学生に周知できたこと
- ・機器（アンプとマイク）をお借りできたこと

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



CAMPUS-Asia6

音楽祭

Musication Night 2024

・日時: 2024年12月10日(火)
18:00~20:00

・場所: 2A棟 306室(音楽室)

・参加方法: 事前登録制
プランナー各谷宛にご連絡下さい。
<sumiya.keiko.gn@un.tsukuba.ac.jp>
(収容定員35名程度)

・内容: CA6留学生や関係者による音楽交流
(歌、合唱、ダンス、ピアノ、ハンドベル、ウクレレ、コカリナ 等)

※ご参加の際はウイルス感染対策へのご協力をお願いいたします。

世界展開力強化事業 (CAMPUS-Asia6)
https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/

のプログラムでは、現在アジア各国(中国、韓国、タイ、インドネシア、マレーシア)から第3期生として20名の留学生が筑波大学で学んでいます。ミュージック・コミュニケーション・Musication♪で国や文化を超えた交流をしませんか？

T-ACT

許可済
2024.11.27
The Bullseye

申込番号: 240229
印刷 2024.12.10 18:00

令和6年度日韓青少年対話型交流事業 (24003A)

T-ACT プランナー 寶積 應公 (社会・国際学群社会学類2年)

活動目的

この活動は、当時メディアを中心に最も厳しい日韓関係と言われていた令和4年に、独立行政法人日本学生支援機構や駐横浜大韓民国総領事館の支援下で開催した「日韓高校生文化PRアワード2022 presented by 三養ジャパン」を出発点とします。令和5年度は「日韓みらいファクトリーアワード2023」として、筑波大学の創基151年開学50周年記念冠事業、公益財団法人日韓文化交流基金・人物交流助成事業、及び一般社団法人茗溪会・令和5年度学生活動支援事業の枠組みで開催いたしました。令和4年は20チーム計32名だった参加者は、令和5年度は24チーム計141人（日本67校、韓国42校、海外2校の計111校）の学生が参加するに至りました。

このように事業が成功裏に終了したことを受け、令和6年度も「日韓の未来を担うグローバル人材を育成し両国交流の発展に貢献する」ことを目的として、本活動・プログラムのあるべき姿（ビジョン）を「境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流プラットフォーム」としたいと思います。筑波大学を拠点に、高大接続、産官学連携を積極的に推進し両国 No.1日韓交流教育プログラムへと躍進してまいります。

具体的な活動計画

■事業枠組み

創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業
公益財団法人日韓文化交流基金令和6年度人物交流助成事業

■概略

単純な交流だけ、議論だけに終わらない「探究型*国際交流プログラム」を提供いたします。昨年に引き続き探究学習の観点を導入します。今年度も「日韓のときめく未来」を活動の基本軸としつつも、参加する学生たちが主体的にテーマを考えて各自で課題を発見します。チームやキャンブメンバーとの議論を通じて解決方法を模索し、プレゼンテーション形式の最終発表でその成果を発表することを予定しております。また、産官学の皆様と連携し学生たちから発表されたアイデアの実現（社会実装）に向けた支援も新たに行って参ります。プログラムでは、実際に日韓を舞台に先導的に活躍する産官学の方を講師としてお招きし、特別講義をしていただきます。参加者は特別講演における学びや講師との対話を通じて自分たちのアイデアをブラッシュアップすることができる機会となります。

さらに、令和5年度に行った活動では約2ヶ月にわたってオンライン及びハイブリット形式で実施したが、令和6年度はプログラムを全面的に対面形式へと切り替え、合宿形式といたします。そのために、今年度は韓国の学生を日本に招聘します。オンライン形式では実現し得ない文化体験等を導入することで我が国に対する理解を深めていくとともに、国際相互理解を増進するべく、両国の青少年交流を積極的に推進してまいります。

※令和6年度のプログラム教育部分【探究活動】に該当する事項は国際産学連携本部より監修協力いただく予定です。令和5年度は学外の民間企業より教育部分に関する資源を提供いただき進行しました。

■参加対象

日韓の大学生各40名（日本が韓国の大学に在籍する学生、国籍不問）

■募集方法

本事業ホームページよりオンライン出願（様式に必要事項を入力し伝送）

■開催日程

令和6年8月19日～令和6年8月22日（3泊4日）

■プログラムの流れ・構成の概要（対面研修部分）

0日目（8/19）：集合・宿舎入所、オリエンテーション
1日目（8/20）：コンセプト作成
2日目（8/21）：フィールドワーク（インタビュー等検証作業）、発表準備
3日目（8/22）：宿舎退所、アイデア発表

（内容）

- ・探究教育 課題発見、課題解決のための議論、アイデア構想・発表
- ・特別講演 日韓を舞台に最先端で活躍される講師の方との対話
- ・文化交流 参加者同士と寝食を共にし、真の人的交流を実現

■スケジュール

- 令和6年2月22日 令和6年度事業計画案作成
 令和6年3月1日 支援事業者様受付開始、助成金申請
 令和6年4月1日 事業委員会・事務局設置
 T-ACT 及び150周年記念事業の申請準備開始
 令和6年5月8日 参加者募集開始
 令和6年7月12日 参加者選抜結果通知 参加者向け案内開始
 令和6年7月下旬（未定）事前研修【オンライン】：オリエンテーション
 令和6年8月19日～8月22日 対面研修【3泊4日・合宿形式】
 令和6年10月上旬（未定）事後研修【オンライン】：参加学生による一般者向けの報告会

■事業運営

- 事業委員会を設置し、運営いたします。
 令和6年度 日韓青少年対話型交流事業委員会
 筑波大学日韓青少年対話型交流事業事務局（計10名）
 業運営責任者……………寶積 應公（筑波大学）
 運営支援チーム長…………野田 健祐（筑波大学）
 第1チーム長……………松村 陽和（筑波大学）
 第2チーム長……………尹 珠恩（筑波大学）
 韓国事務所チーム長……文 恵人（韓国 国立釜慶大学）

●活動場所

- 活動場所
 本学東京キャンパス（134教室等）
 〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目29-1
 ○宿泊場所
 国立オリンピック記念青少年総合センター（A棟）
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

●活動期間

2024/04/01～2024/10/01

●対象

学生・教職員・学外者



●T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：野田健祐（理工学群応用理工学類4年）
 松村陽和（社会・国際学群国際総合学類4年）
 尹 珠恩（人文・文化学群比較文化学類4年）
 P：申 貞恩（人文社会系 助教）、秋山 肇（人文社会系 助教）

●備考

- 航空券及び国内移動に関わる公共交通費は参加者各自の負担となります。
 ○行事保険等に事務局で一括加入します。なお本学学生は学生教育研究災害傷害保険に必ず加入するものとしての限りではありません。
 <関連リンク>
 ○令和6年（2024）度プログラムについて
 <https://miraefactory.jp/2024/>
 ○事業事務局トップ
 <https://miraefactory.jp/>
 ○ブランドサイト
 <https://miraefactory.jp/project/>
 ○ニュースルーム
 <https://miraefactory.jp/newsroom/>
 ○令和5年度事業 大学発表（広報局）
 <https://www.tsukuba.ac.jp/news/20240227153307.html>

○活動広報動画

<https://www.youtube.com/watch?v=HXMdi1rodJY>

○令和5年度T-ACTページ

<https://www.t-act.tsukuba.ac.jp/project/view/?seq=667>

○令和4年度事業報告書

<https://www.u.tsukuba.ac.jp/~s2311948/report2022jp.pdf>

活動報告

実際の活動内容

両国の青少年を対象に異文化コミュニケーションとアントレプレナーシップ教育の観点に基づく、探求型国際交流プログラムを提供しています。オンラインで実施されるオリエンテーション1回、事前研修1回、事後研修1回、活動報告会1回に加えて、合宿形式で東京にて進行される3泊4日の対面研修で構成されています。参加者は、課題発見・解決型のチーム活動を実施し、SDGsの観点から日韓に共通する課題について考え、より良い将来のために共に解決するアイデアの構想をゴールに、関係機関による特別講演などを通じて学びを深めました。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒95%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

行政機関等からの認可取得、スタッフの継続した動機づけ

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

この活動の形態について行政機関へ丁寧に説明を行い、双方が上手くいく処理方法を考えました。スタッフとの疎通を強化するために、一週間に一回程度のオンラインミーティングを行い、必要に応じて対面でのミーティングも実施し、情報の共有に最善を尽くしました。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

2021年の活動開始以降、大部分の作業を一人で行っていたが今回は、自分にとっては大きな試みとなるチームでの活動でした。これまでの活動では、参加者と支援事業者をステイクホルダーとしていたが、今回活動を通じてチームメンバーが新たなステイクホルダーとなりました。全てのステイクホルダーが満足できる内容（サービス）を提供するためには、それぞれの方面を注視しなければならず、またその核心部分はチームメンバーでした。事業全体の目的地（ありたい姿）を定め、そこに向かって行く過程を理念と共にすることは、非常に重要なことであるということに気づきました。また、これに関連し「ブランドストーリー」の確立と発信及び共有も活動を推進する上で最重要すべき事項であると感じています。ブランドストーリーとは例えば「なぜこの活動をして行くのか」、「この活動は何を目指しているのか」、「この活動はどのような背景と共に成長してきたのか」、「この活動を通じて社会に何を提供したいのか」があります。その一つ一つを常に活動の土台とし、それらを全てのステイクホルダーに向けて発信及び疎通することで、活動の価値を最大化することができ、活動の持続可能な成長へと繋がると考えました。それぞれのステイクホルダーとの最適なコミュニケーションを模索することは、私にとって挑戦でありました。参加者にはSNSやWebサイト上のビジュアル・イメージ、オリジナル・キャラクターを活用することで、ブランドへ親しみを持ってもらい参加者の一番近いところに寄り添う活動としての席を確立するように努力しました。支援事業者に対しては、ニュースルームサイトを通じたリアルタイムの新着情報発信及びメールマガジンを実施しました。ニュースルームサイトでは「お知らせ」のみを掲示するのではなく、「参加者へのインタビュー」などのコンテンツも充実させ、支援を受けた学生たちの姿を共有しました。また、チームメンバーとの疎通は週に一回のミーティングを定例化することに始まり、できるだけ対面で行うことを心がけ、近況の共有など活動を越えたフラットな組織づくりを目指しました。さらに、オンライン仕事プラットフォームを韓国事務所を含む全てのチームメンバーに導入しスピーディーな意思決定を実現し、活動における「ムリ・ムダ・ムダ」を削減することに努めたことで、顧客支援の品質向上にもつながり、当初想定を上回る成果を実感しました。

これからも、今回活動における学びを活かし、全てのステイクホルダーとの疎通を忘れず、ブランドストーリーを基盤に、No.1日韓交流プラットフォーム「境界を超えて、皆で共に創る、新しい日韓交流空間」になるべく最善を尽くしたいと考えています。

参加者への影響

この活動は、韓国から選抜した大学生を日本に招へいし、日本の学生と「衣食住」を含めて疎通することを通じて、日本に対する理解の促進を図り、もって、「日韓の未来を担うグローバル人財を育成し、持続可能な両国交流の発展に貢献する」ことを目的としています。特に、日韓の未来を担うグローバル人財を「日韓の文化を理解し双方の文化、例えば新しい価値観や考え方に対応することができる人財」とであると定義しております。探求型国際交流プログラムを通じて、異なる背景を持つ人々が出会い、交流する過程（共同作業、議論、文化体験）において、アントレプレナーとしてのマインドセット、自信や力を獲得すると同時に、異文化コミュニケーションの主体と化することで、異文化対応力を身につけ、柔軟な思考や行動達成できる異文化変容を遂げることを期待しております。事前研修から事後研修時、1ヶ月後に実施した効果測定の結果を概観すると、参加者が前述の目標を概ね達成することができたことが推察されます。今後は、産官学連携の深化並びに強化、及びプログラム構成の更なる品質向上を図っていく考えてございます。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

プランナーは基本的に孤独であり、時には少々難しい決断をする場面に直面します。しかし、プランナーと一緒に考えて共に考え行動して下さるオーガナイザーの仲間や、T-ACT フォーラムの先生、教職員の方がいらっしゃいます。そのような恵まれた環境に感謝することを忘れずに、「一人で近い目標」はなく、「チームで通り目標」を目指して努力し続けることが重要であると感じました。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

T-ACT フォーラムを通じてきめ細かな支援を受けることができました。先生や職員の方と継続的に疎通し、活動を実施する上で、どのような点が不安要素になっているのかをその都度洗い出し、解決を図るべく対策を講じることができました。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒4



● リベンジ！Tsukuba Mikoshi Club (24006A)

T-ACT プランナー 田中 結葵（応用理工学類4年）

活動目的

お神輿を通じて、留学生と日本人学生が交流できる場、日本文化を体験できる場を作りたいという思いから企画を立案しました。

私はこれまで、いくつかのお祭りに参加しお神輿を担ぐ機会を頂いてきました。その中で、お神輿を担ぐ楽しさを知りました。また、日本の文化について考えたり留学生と交流したりするきっかけも生まれました。そこで、お神輿を担ぎにお祭りに参加する活動を行い、お神輿の面白さや感動を共有できる仲間を増やしたいと考えています。留学生にもぜひ参加してほしい企画です。

具体的な活動計画

主な活動は、①トレーニングと、②勉強会・交流会です。

また、③お祭りに参加については、イベント情報の提供と、本活動の趣旨にあるお祭りの情報を提供し、各自で参加していただきます。

①トレーニング 毎週水曜日18:30～19:30

お神輿を模した道具を組み立て、お神輿を担ぐ練習をします。

お神輿の担ぎ方は地域ごとに特徴があります。トレーニングでは、担ぎ方やお神輿を担ぐときの歌（甚句）の練習をします。

②勉強会・交流会

お祭りのない月をメインに開催します。甚句の練習やお神輿・お祭りの歴史について調べ、お御輿とお神輿のある地域への理解を深めることを目指します。留学生との共同活動を通じて、日本文化や日本人の考え方についてより多くの視点から考える会にしたいです。

勉強会と一緒に、希望者を募って食事など交流会も行いたいと考えています。

③お祭りに参加

お神輿を担ぎにお祭りに参加します。

参加するお祭りは、学外参加者として、宮田宣也さん（備考欄の紹介参照）に紹介していただいています。（つくば市、雄勝町、岡山市、神小田原市、岐阜市、栄区など全国の様々な行事）

お祭りに参加する前に、日本人の神道に対する考え方や習慣について宮田さんに協力していただきながら、事前学習を行います。お祭りに参加するかどうか、神社のお神輿を担ぐという行為が日本の神道に対する信仰的な行動に見える人がいるということを理解した上で、各個人で判断してもらいます。私たちからお祭りへの参加を強制するような発言や行動はしないことを徹底し、個人の意思を尊重します。

また、神社清掃や盆踊りの練習なども行い、様々な日本文化の体験を通して国際的な文化交流に繋がっていきます。

お祭りの日程は出ていないものも多いため、下記に直近の5月に宮田さんの紹介により参加可能なお祭りを一覧として示します。全てに参加するわけではありませんが、予定があった人で希望者を募り自己責任で参加します。なお、いくつかのお祭りを選定し、事前申し込みをしてもらって参加することも検討中です。

【5月】

4日（日） 鐵砲洲稻荷神社 例大祭 / 東京都中央区

5日（日） 大稻荷神社 例大祭 / 神奈川県小田原市

6日（日） 大國魂神社 例大祭（くらやみまつり） / 東京都府中市

11日（土） 栄いちばんまつり / 神奈川県横浜市

18日（土）～19日（日） 浅草神社 例大祭（三社祭） / 東京都台東区

活動場所

学内：空いている場所（屋外）、図書館のセミナー室、チャットルーム、ラウンジ

屋外は、1Hと1B、文サ館の間のスペースを希望します。

学外：活動計画を参照

（Tsukuba Place Lab 等も考えております）

活動期間

2024/04/01～2024/09/30

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：青木喜大（生物学類 3 年）

P：氏家清和 先生（生命環境系）

備考

①活動にかかる費用はお祭りに行くための交通費です。現地集合、または筑波大学で集合し、一緒に向かうことを考えています。
お祭りに参加する時の衣装の購入は、各自の判断に任せますが、貸出もできます。



②学外での活動を行う際、在学生には学研災への加入をすすめます。また、安全のため代表者の連絡先を事前に共有します。交流会、練習は T-ACT の一環として行いますが、実際のお祭りの参加は個人の自由とし、希望者を募り自己責任で行います。真夏で猛暑の中お神輿を担ぐことが予測されるため、熱中症対策のため適宜水分を補給、休憩するよう呼びかけます。万が一怪我や、事故があった際には、直ちに応急処置を取り、各医療機関、大学等に連絡を取り、適切な処置をします。お祭りで担ぐ際に、休憩の時間に水分や食べ物も出るようになっています。また、お祭りで飲酒の可能性もあるため、その際の注意事項も事前に説明・周知させることを考えています。

③学外参加者として、宮田宣也さんや、宮田さんのお祭り仲間の方々に協力いただいています。
特に宮田さんには、お祭りの紹介やトレーニングの指導をしていただいています。

●宮田宣也さん（一般社団法人明日禪（アシタスキ）代表理事）

神輿や神棚の修理・製作を行う。

また、全国各地の祭礼支援やヨーロッパでの神輿渡御などにより神輿や祭の文化の活性化に取り組んでいる。1987年3月15日横浜生まれ。幼少期、神輿職人の祖父の家で育てられ、祖父の影響を大きく受ける。高校入学時に極真空手を初め、大学四年生の時に全日本準優勝。その後、筑波大学を卒業、筑波大学大学院入学後に東日本大震災が起き、被災地での祭復興の活動に取り組むようになる。

2013年石巻市雄勝町白銀神社の神輿修理、祭礼支援を行い、祭の美しさと住民の祭に対する姿勢に感銘を受け、祭文化を次世代へ繋げるために明日禪（アシタスキ）の活動を開始した。

2014年に行ったフランス神輿渡御を皮切りに、タイ、ドイツ、スロベニアでも神輿渡御に成功。

2017年一般社団法人明日禪設立。代表理事に就任。

2019年宮田宣也をテーマにしたドキュメンタリー映画「祭の男 MIKOSHI GUY」が完成。渋谷アップリンクでの劇場公開他、各地での上映会が行われた。

④参加するお祭りは、宮田宣也さんの紹介で選んでいます。

私たちは、あくまでも、文化体験・文化交流という観点でお神輿を担がせていただいていて、特定の宗教に対する信仰を意図的に助長するような活動は一切行っていません。また、留学生の参加について、お祭りに行く前に私たちの活動内容や参加するお祭りがどういったものかについて情報共有することを徹底します。お祭りへの参加は、そういった情報を加味して個人の判断ですようお願いいたします。私たちが参加を強要することはありません。

⑤お祭りに参加する際に賄いとして飲食が振舞われることがあります。飲酒が含まれることが多いですが、飲酒の強要はしません。また未成年飲酒は避けるよう呼びかけます。その他自己責任で飲食を楽しんでもらいます。

活動報告

実際の活動内容

①トレーニング 不定期 18:30～（1時間～2時間程度）

お神輿を模した道具を組み立て、お神輿を担ぐ練習をしました。お神輿の担ぎ方は地域ごとに特徴があり、トレーニングでは、担ぎ方やお神輿を担ぐときの歌（甚句）の練習をしました。トレーニング後には、予定のあった参加者で希望者を募り、

②お祭りに参加 お神輿を担ぎにお祭りに参加しました（期間：7月～9月）

また、子供向けのお祭りの屋台ボランティアや担ぐ君体験ブース運営を行いました。予定があった人で希望者を募り自己責任で参加しました。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒30%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

- ・留学生への広報
- ・参加者の予定を合わせること
- ・日本人参加者への広報
- ・お祭りの開催場所
- ・運営の仕事の配分
- ・神輿を担ぐこと自体多少の危険は伴うので、安全確保の面での問題があった

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

- ・留学生への広報

実際に興味を持ってくれた留学生は2,3人ほどいたが、継続的な参加や、新規の留学生の参加を促すことはできませんでした。最初の参加者のほとんどが日本人であったことと、お祭りの時期まで練習用の担ぐ君のみ行っていたため、何をしているのか十分なイメージがつかめなかったことが問題であると考えました。英語での説明資料、動画、また実際のお祭りに一緒に行くことが最初のハードルを下げるための有効な手段であると考えています。また、留学生同士のつながりは強いと思うので、同じ国出身の人同士で参加してもらい、そこから増やしていくこと、また、留学生がよく使う施設にチラシ、ポスターを設置すること、友達の留学生から輪を広げていくことも有効であると考えています。宗教的な問題や、言語の壁、日本文化がそもそも彼らにとって新しいものであるということも念頭に置き、広報していくことが大事だと気づきました。

- ・参加者の予定を合わせること

今回の日本人参加者のほとんどが、4年生で、オーガナイザーも院試や学会などであまり活動に参加できなかったこともあり、参加者全員の予定を合わせる事が非常に困難でした。運営の中で仕事を分担し、共有することが大事だと思いました。参加者が多くなると、誰かが参加できなくても代わりを誰かがするということが重要になってくると思うので、無理に予定を合わせなくても十分に働く運営の仕方考えることが大切だと思いました。また、幅広い学年層の参加も有効だと思うので、後輩も積極的に勧誘していこうと思いました。

- ・日本人参加者への広報

最初は、学生2人のみでしたが、活動の様子を個人のSNS等で投稿するなどすることにより、10人近くまで集めることができました。そこから、身内だけでなく単純に興味を持ってくれた人まで広めるということが少し難しく、課題だと考えています。身内だけになってしまうと新しく参加しにくいというハードルを下げていくことが全体的な広報において重要だと思います。個人のSNSだけでなく、T-ACTのSNSの活用や、ポスターなどのより公共的な広報がその点において有効であると思いました。

- ・お祭りの開催場所

つくば市の中心部はあまり歴史が深くないため、お神輿を担ぐようなお祭りがほとんど開催されないため、関東圏内に範囲を広げてお祭りに参加しに行かなければならない点です。実際、日程が決定したお祭りの一覧を挙げて、参加者を募りましたが、遠い場所のお祭りも多かったのも多くても2人の参加でした。場所だけでなくまた予定が合わなかったということも一つの理由だと思いますが、「距離が遠い」が原因で参加を見送る人もいる



可能性があるため、交通費や、交通手段についても検討する必要があると思います。参加者が集まった遠方のお祭りが浅草開催のもののみだったため、今回は TX で現地集合で行いました。あまりにも遠方の場合、宿泊ができる場所、おすすめの交通手段も含めて提示することができればいいと思いました。

・運営の仕事の配分

運営に携わった学生のほとんどが4年だったこともあり、私生活でも多忙だったためうまく仕事を回すことができませんでした。その点に関しては学年問わず幅広い層の参加を促すことが有効だと思いました。

・神輿を担ぐこと自体多少の危険は伴うので、安全確保の面での問題があった

夏祭りは猛暑の中行うので、熱中症、脱水、打撲、お酒、等、実際に発生する頻度はあまり高くありませんが、あげればキリがないほど危険は伴います。企画書に安全が確保できると書くことができなかったため個人の責任として活動を行いました。また、学研災への加入を勧め、お神輿を担ぐ際や、お祭りの運営ボランティアの際にもこまめな水分補給を促す等、健康への配慮をしました。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

私にとって企画の運営は初めての体験だったので、とてもいい経験になりました。できたこともあれば達成できなかった部分もあり、思うところはたくさんありますが、新しい経験だったので気づきもその分多くありました。いくつか挙げると、日本文化、慣習を海外の人に知ってほしいという単純な思いでも日本文化の元を辿れば「神道」という宗教の考え方が根付いているということ、大学の先輩であっても市議会に参加していると立場的に難しいところがあること、人をまとめること・新しい人を誘うこと・人と人を繋ぐことの難しさです。大学の活動として行う場合、宗教と政治が関わる内容は非常に大きなリスクが伴うことであるということで企画の段階でも大きな壁がありました。たくさん話し合って、承認をいただくことができました。その際にも今までただのマナー程度の知識しかなかった「神道の考え方」についてたくさん調べたり、海外の他の宗教への理解をより深めることができ、日常生活にも役立っています。また、より深く興味を持つようになりました。また、人に関わることが最も時間と手間がかかることで、目標に達することはできませんでした。今まで人間関係についてあまり考えることがなかったため運営や人をまとめなければならない場合、人と人の関係や、新しい人の気持ちを深く考え、行動しなければならぬということを身をもって体験しました。こうしたらいんじゃないかと思ってもうまく行かないということも人間だからこそ起こるんだなと思いました。全体を通し、非常に勉強になる体験だったと思います。

参加者への影響

神輿の担ぎ方を学び、文化を体験したことで理解が深まりました。また様々な担ぎ方があることを知り、日本文化そのもののへの興味も広がりました。

そして国際的な活動を通して、日本人参加者にとっては海外の文化への理解向上に繋がり、留学生にとっては自国の文化を改めて認識する機会が生まれました。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

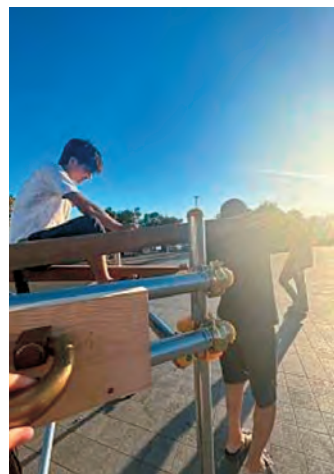
まず、できるかできないか考える前に一旦 T-ACT のパートナーの方に相談することをお勧めします。例えば、難しい内容だったり、曖昧な内容だったりしてもとても真摯に向き合ってください。企画段階でもできるだけ承認してもらえるように力を尽くしてくださいと信頼できると思います。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

大学として、承認が難しい内容だったと思いますが承認して下さりありがとうございました。これから日本文化を知ってもらおう活動が行いやすくなればいいなと思います。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒3

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒3



● StartupWeekend つくば 12th (24007A)

T-ACT プランナー 大澤 怜二 (筑波大学情報学群情報メディア創成学類4年)

活動目的

Startup Weekend は、アイデアをカタチにするスタートアップ体験機会の提供を通じ、アントレプレナーを応援するコミュニティを地域毎に育てることを目的としています。解決すべき課題に対するアイデアを持った人たちが次々と生み出され、解決プロセスを学びながらコミュニティとして支え合うことができるような機運を醸成し、また、風土を作ることを目指しています。

アントレプレナー支援のプログラムとしての立ち位置は、アイデアを生み出し、開発し、伝達することに重点を置いた、アイディエーションプログラムです。

具体的な活動計画

■ イベント概要

StartupWeekend は、週末を利用してアイデアをカタチにする、スタートアップの体験ができるワークショップです。

StartupWeekend は、初日の夜にアイデアを発表するピッチから始まります。アイデアに共感したメンバーと共にチームを組み、最終日の夕方までにユーザエクスペリエンスに沿った必要最低限のプロダクト、そしてビジネスモデルを一気に創り上げます。

2日目の午後には、実際に事業を起こした経験者から、各チームのプロダクトに対して批評とアドバイを受けられるコーチングセッションがあります。スタートアップの先輩からのフィードバックをもとに、プロダクトアイデアをブラッシュアップすることが求められます。

そして、3日目の夕方に、約40時間をかけて作り上げたプロダクトを発表し、評価（ジャッジ）されます。ジャッジを行うのは、自身で事業を立ち上げ、軌道に乗せ、それを牽引されている方々です。

■ 参加対象

StartupWeekend に興味を持ち、3日間を走り抜けるだけのやる気と気概がある方。

■ 募集方法

Doorkeeper（セミナー・勉強会・イベント管理ツール）の申し込みフォームより参加申し込み。

<https://swtsukuba.doorkeeper.jp/events/172193>

■ 開催日時

2024年7月19日（金）18:00～2024年7月21日（日）21:00

■ 当日の流れ

7月19日（金）

- ・ 06:30pm 受付開始&懇親会
- ・ 07:00pm ファシリテーター挨拶
- ・ 08:00pm 1分ピッチ
- ・ 08:30pm 話し合いと投票・チーム結成
- ・ 09:00pm 1日目終了&帰宅

7月20日（土）

- ・ 10:00am 2日目開始
- ・ 12:00pm 昼食
- ・ 02:00pm コーチング
- ・ 06:00pm 夕食
- ・ 09:00pm 2日目終了&帰宅

7月21日（日）

- ・ 10:00am 3日目開始
- ・ 12:00pm 昼食
- ・ 03:00pm プレゼン前のテックチェック
- ・ 04:00pm 最終プレゼン
- ・ 06:30pm 審査発表
- ・ 07:00pm パーティー
- ・ 09:00pm 3日目終了&帰宅



■スケジュール

2024年04月04日～ T-ACT 申請準備開始
 2024年04月18日～ (準備でき次第) 申し込みページ公開および参加者募集開始
 2024年06月20日～ 会場教室確保
 2024年07月05日～ 参加者向け案内開始
 2024年07月19日～ 2024年07月21日イベント当日

活動場所

初日(7/19)……………つくば技術大学ラウンジ
 2,3日目(7/20,21)……筑波大学第一エリア1H201

活動期間

2024/04/04～2024/08/25

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：溝田光志（応用理工学類2年）
 P：川口一画（システム情報系）

備考

コーチ

株式会社モンスターラボ デザイングループ 副グループ長 津山拓郎 氏
 unitX 代表 兼 一般社団法人ベンチャー・カフェ東京 TSUKUBA CONNÉCT Lead 岡村未来 氏
 Marketing Innovation J 代表 松林安美 氏
 East Ventures フェロー 大柴貴紀 氏

ジャッジ

マカイラ株式会社 代表取締役 COO 高橋朗 氏
 株式会社 TOKIUM 取締役 CTO 西平基志 氏
 株式会社ゼンリン 経営戦略室 中村武 氏

初日会場 筑波技術大学 ラウンジ
 筑波技術大学准教授、渡辺知恵美先生の協力のもと予約済

宿泊施設

つくば文化郷 古民家別邸

詳細はイベント詳細ページを参照してください。

<https://swtsukuba.doorkeeper.jp/events/172193>



活動報告

実際の活動内容

初日に参加者同士のアイスブレイクを行い、アイデア発表の後チーム結成を行いました。

2日目は各チームアイデア詳細を考えていき、外部から招いたコーチの方々からフィードバックをいただきました。

3日目はアイデアをスライドにまとめ、外部から招いた審査員により、優勝チームを決定していただきました。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒90%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

会場とした2H棟の位置が、学外者にとって非常にわかりにくい位置であった。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

駐車場やバス停からの順路の動画を撮って共有した。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

直近2回のStartupWeekendにおいて、自分は運営として参加をしていました。しかし、参加者が発表していた課題感に共感をし、ほかの運営のメンバーおよび外部から招いたコーチの方と同じテーマについて3人の即席チームを結成、そのまま発表までするというイレギュラーが発生しました。

プレイヤーとして最後に参加したのが昨年の10月であったので、このイベントにおいて課題を主体的に考えるということが久しぶりででした。

今後も運営として同様のイベントを開催していくことを考えていますが、違う地域にてまたプレイヤー参加をしたいなと強く思うようになりました。

参加者への影響

産総研に勤めていらっしゃる参加者の話なのですが、このイベントに参加して転職を決意し、翌日から転職活動を開始したとのことでした。

これまで起業に興味がありつつも、実際には行動できていなかったそうなのですが、このイベントのコンテンツに触れ、また、ほかの参加者との交流を経て実際に行動することの重要性に気が付き、メインイベントから一月後に開催した振り返りイベントの時点でベンチャー企業への転職が決定していました。今後もアクションを続けていくそうです。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

今回私が開催したイベントには、「No Talk, All Action.」というキーワードがあります。日本ではしばしば、「会議室の外に出ろ!」と意識されます。

何かをしようと思ったとき、頭の中で考えているだけではなく、様々な人と話をして実際に行動を起こすことが非常だと考えます。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

大学の教室を借りるときや大学内にチラシを置かせてもらう際に、T-ACTの企画として登録されていることにより支援室との交渉がスムーズに進んだ。

当日駐車場を借りる際、本来外部者は駐車料金が発生するのだが、T-ACT企画参加者ということでその料金が無料になった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒4

StartupWeekend つくば 13th (24017A)

T-ACT プランナー 大澤 怜二 (情報学群情報メディア創成学類4年)

活動目的

Startup Weekend は、アイデアをカタチにするスタートアップ体験機会の提供を通じ、アントレプレナーを応援するコミュニティを地域毎に育てることを目的としています。解決すべき課題に対するアイデアを持った人たちが次々と生み出され、解決プロセスを学びながらコミュニティとして支え合うことができるような機運を醸成し、また、風土を作ることを目指しています。

アントレプレナー支援のプログラムとしての立ち位置は、アイデアを生み出し、開発し、伝達することに重点を置いた、アイディエーションプログラムです。

前回の「StartupWeekend つくば 12th」ではつくば技術大学及び筑波大学を会場にして開催した。無事に開催できた経験や終了後の振り返りからの課題点を反映し、今回はヒアリングや学生以外の方とのコミュニケーションを促進する目的で、つくば駅から徒歩3分、co-en にて開催をいたします！

具体的な活動計画

■イベント概要

StartupWeekend は、週末を利用してアイデアをカタチにする、スタートアップの体験ができるワークショップです。

StartupWeekend は、初日の夜にアイデアを発表するピッチから始まります。アイデアに共感したメンバーと共にチームを組み、最終日の夕方までにユーザエクスペリエンスに沿った必要最低限のプロダクト、そしてビジネスモデルを一気に創り上げます。

2日目の午後には、実際に事業を起こした経験者から、各チームのプロダクトに対して批評とアドバイを受けられるコーチングセッションがあります。スタートアップの先輩からのフィードバックをもとに、プロダクトアイデアをブラッシュアップすることが求められます。

そして、3日目の夕方に、約40時間をかけて作り上げたプロダクトを発表し、評価（ジャッジ）されます。ジャッジを行うのは、自身で事業を立ち上げ、軌道に乗せ、それを牽引されている方々です。

■参加対象

StartupWeekend に興味を持ち、3日間を走り抜けるだけのやる気と気概がある方。

■募集方法

Doorkeeper (セミナー・勉強会・イベント管理ツール) の申し込みフォームより参加申し込み。

<https://swtsukuba.doorkeeper.jp/events/178394>

■開催日時

2025年2月28日（金）18:00～2025年3月2日（日）20:00

■当日の流れ

2月28日（金）

- ・ 18:30 受付開始&懇親会
- ・ 19:00 ファシリテーター挨拶
- ・ 20:00 1分ピッチ
- ・ 20:30 話し合いと投票
- ・ 20:45 チーム結成
- ・ 21:00 1日目終了&帰宅

3月1日（土）

- ・ 09:30 2日目開始
- ・ 10:00 ファシリテーション
- ・ 12:00 昼食
- ・ 14:00 コーチング
- ・ 18:00 夕食
- ・ 21:00 2日目終了&帰宅

3月2日（日）

- ・ 09:00 3日目開始
- ・ 12:00 昼食



- ・ 14:00 プレゼン前のテックチェック
- ・ 15:00 最終プレゼン
- ・ 17:30 審査発表
- ・ 18:00 パーティー
- ・ 20:00 3日目終了&帰宅

■スケジュール

- 2024年10月15日～ T-ACT 申請準備開始
- 2024年11月1日～ 申し込みページ公開および参加者募集開始
- 2025年2月14日～ 参加者向け案内開始
- 2025年2月28日～ 2024年3月2日 イベント当日
- 2025年3月30日ごろ アフターイベント（振り返りイベント）

活動場所

co-en イベントスペース

活動期間

2024/10/15～2025/04/15

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：溝田光志（応用理工学類2年）
竹内優（情報理工学士プログラム修士2年）
堀内優希（知識情報・図書館学類）
岩上ひかる（芸術専門学群）
- P：川口一画（システム情報系）

備考

コーチ

合同会社カフェラテ 代表社員 平光昌寛 氏
abtribe 合同会社 代表社員 本田浩之 氏
スタートアップ・ブレイン株式会社 代表者 堤孝志 氏
East Ventures フェロー 大柴貴紀 氏
unitX 代表 兼 一般社団法人ベンチャー・カフェ東京 TSUKUBA CONNECT Lead 岡村未来 氏

ジャッジ

株式会社 TOKIUM 代表取締役 黒崎賢一
Venture Café Tokyo Executive Director Ryusuke Komura
株式会社華飛 代表取締役 千葉麻有
ファシリテーター
NPO 法人認定ファシリテーター 上原和也

会場

つくばセンタービル1F co-en イベントスペース

宿泊施設

ホテルつくばヒルズ学園西大通り店（BBHホテルグループ）

詳細はイベント詳細ページを参照してください。

<https://swtsukuba.doorkeeper.jp/events/178394>

活動報告

実際の活動内容

2024年2月28日から3月2日にかけて、つくば駅近くの「co-en」にて「Startup Weekend Tsukuba 13th」が開催され、参加者は54時間にわたり起業体験を行いました。初日は懇親会後、1分間のピッチセッションが行われ、多様なアイデアが発表されました。投票を経て7チームが結成され、各チームが議論を開始しました。

2日目は、実際のユーザーヒアリングや市場調査が行われ、午後にはコーチングセッションが実施されました。経験豊富なコーチ陣による指導を受け、チームは課題の本質を明確にし、事業アイデアをブラッシュアップしました。

最終日は、15時の最終発表に向けて各チーム試行錯誤を重ねながらアイデアを形にしていきました。発表では、週末を通じて磨き上げたプロジェクトが披露され、審査員による評価が行われました。

審査の結果、第3位は「主人公になろう」(自分史作成サービス)、第2位は「AROMANEST」(個室リラックス空間提供サービス)、特別賞(マカイル賞)は「防疫戦線」(感染症対策を学ぶカードゲーム)、第1位は「いちねんせい」(パーソナライズ化された習い事推薦サービス)が受賞しました。

閉会後は懇親会が行われ、参加者同士の交流が深まりました。今回のイベントでは、熱意あふれる議論と実践を通じ、起業のリアルなプロセスを体験できる貴重な機会となりました。次回開催に向け、さらなる発展が期待されます。



企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒90%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

当日、会場の設備として使用することができるか管理会社とうまく連携できていなかった。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

手元にあるもので代用をしつつ、臨機応変に対応した。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

このイベントの参加は、運営を含めては6回目で、参加者と運営の両方を経験したからこそ見えてくるものが多くありました。特に、地域柄で参加者の属性が大きく変わるのだなということを強く感じました。つくばは教科書的な答えを提示して欲しい人が多く、良くも悪くも真面目な人を中心とした参加者が多いように感じました。

また、参加者の熱量に圧倒される場面も多く、初日の全員ピッチや、アイデアのピボットや改善が加速する2日目のコーチングセッションにおいて特に参加者の勢いを感じました。過去の参加経験があるからこそ「このフェーズで何が求められるのか」を意識するようになり、それぞれのアイデアを俯瞰して見る事ができたように感じました。

一方で、運営側としての課題も見えました。例えば、スケジュール管理やリソース調整の難しさです。予測不能な事態に迅速に対応する必要があり、柔軟な判断力が求められる場面が多々ありました。タスクの分配や実行のタイミング等考えることが多く、以前は「参加者としてやり切ること」だけに集中していましたが、今は「どうすればより良い環境を作れるか」を考えるようになり、視点の変化を感じています。

運営を続ける中で、Startup Weekendの本質は「完璧な事業計画を作ること」ではなく、「仮説検証のプロセスを全力で体験すること」だと再認識しました。参加者としても運営としても、それぞれ異なる学びがあります。次回以降も、より良い環境を提供できるよう工夫し、イベントを進化させていきたいです。

参加者への影響

Startup Weekendは、限られた時間の中でアイデアを形にし、最終的にはビジネスモデルとして発表するという、起業体験型のイベントです。しかし、イベントを経て実際に活動を継続するチームは決して多くありません。起業に関心を持ったとしても、実際に行動に移す人は全体のわずか1割とも言われています。

そんな中、今回のSWつくばにおいて第2位となったチーム「AROMANEST」は、イベント終了後もプロジェクトの活動を継続しているという話が聞こえてきました。イベントをきっかけにして、アイデアが現実の取り組みへとつながっていく参加者を生み出すことができた点において、本イベントは大きな意味を持っていたと言えると思います。

未来のプランナーに伝えたいことがあれば自由どうぞ

今回、T-ACT に承認いただいた Startup Weekend つくばを開催したことで、改めて「興味があることにまず足を踏み出すことの大切さ」を実感しました。私自身、ここ数年「最近はノリで生きています」とよく口にするのですが、これは決して無計画ということではなく、「迷ったらやってみる」ことの価値を感じているからです。面白そうだな、楽しそうだなと少しでも感じたら、とりあえずその場に足を運んでみる。体験してみて初めて、自分に合うかどうか分かることも多いです、行動することで見える景色や広がる可能性があると思えています。未来のプランナーの皆さんにも、まず一歩踏み出してみる勇気を大切にしてほしいと思います。自分の「おもしろそう」の感覚を信じて、ぜひいろいろな場に飛び込んでみてください。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

以下の項目が、利用してよかったことです。

- ・チラシを印刷させてもらえた
- ・広報に際して筑波大学の名前を活用することができた
- ・関連イベント（振り返りイベント）に際して筑波大学の施設を利用することができた

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



筑波大学りんごの棚プロジェクト (24009A)

T-ACT プランナー 岩岡 知里 (障害科学類3年)

活動目的

「りんごの棚」とは、特別なニーズのある子どもを対象としてスウェーデンで始まった公共図書館サービスです。バリアフリー図書や障害に関連した本をまとめて配架した棚であり、障害のある方や読みに困難のある方も楽しめる図書館づくりを目指すうえで大変重要です。また、障害や読み困難の有無に関わらず、バリアフリー図書に触れる機会となっており、「本」を通して楽しく障害や読み困難について学ぶことができます。

本企画では、一ヶ月間、りんごの棚を筑波大学附属中央図書館に展示し、読書バリアフリーや障害について学生が考えるきっかけを創出することを目的としています。



【企画立案の背景】

①障害学生支援の観点から

本企画のプランナーは筑波大学 BHE ピア・チューターとして、障害学生の支援に携わっています。ピア・チューターは障害学生の直接的な支援はもちろんのこと、障害のある学生が過ごしやすいように大学内の環境を整備したり、学内の障害理解や認知を広めたりすることも、その役割の一つではないかと考えています。しかし、ピア・チューター活動のなかで障害理解の向上に努められる機会はまだまだ少ない現状があります。そこで、より多くの学生に向けて障害について伝える機会を設ける必要性を感じました。

②バリアフリー図書の世界の面白さという観点から

バリアフリー図書の世界に触れること自体に面白さがあると考えています。世の中には、点字図書やLLブック、オーディオブック、大活字本、デージー図書、布絵本など、さまざまな本が存在しています。しかしこのような本の存在はまだ知られておらず、新たな読書体験として触れる人の世界を広げ、興味深い対象として手に取っていただけたと考えています。

本企画のプランナーは NPO 法人ピープルデザイン研究所の活動の一環として「りんごプロジェクト」に携わり、学校図書館やイベント会場にてりんごの棚と読書バリアフリーの認知向上のために活動しています。以前、板橋区の児童図書館にて「りんごプロジェクト」の活動を行った際に、子ども以上に保護者の方がりんごの棚に置かれたバリアフリー図書を手に取り、関心を寄せていらっしゃいました。このことから、りんごの棚はもともと障害のある子ども向けの図書館サービスですが、多世代に興味を持っていただけるものだと考えています。

③筑波大学の学生像という観点から

筑波大学は東京高等師範学校から引き継ぐ教育学の伝統があります。加えて、図書館情報大学との統合により専門的に図書館情報学を学ぶことのできる環境が整っております。このような筑波大学において、障害のある子どもたちに向けた図書館サービスであるりんごの棚についての展示を行うことは、学生の学びを広げるという点で意義があると考えています。

参考として、東京学芸大学での取り組みを紹介いたします。

東京学芸大学附属図書館では、令和4年度に、館内展示『学芸大版「りんごの棚」～読書は誰でも楽しめる！～』を行い、これが好評だったため、りんごの棚が常設されるに至っています。

(以下、りんごの棚に関する東京学芸大学附属図書館ホームページのリンク)

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/news/20220502-1>

<https://current.ndl.go.jp/car/46460>

以上の観点から、バリアフリー図書を通じた読書バリアフリーや障害理解のための企画を、多くの学生が利用する図書館にて行いたいと考えています。

具体的な活動計画

筑波大学附属中央図書館さまにご協力いただき、中央図書館2階のラーニング・スクエアにて、2024年11月6日から2024年12月6日までの一か月間、展示を予定しています。

展示に向け、掲示するポスター作成、配架本の選定、宣伝活動などを行っていきます。

活動スケジュール（仮）

※ T-ACT 企画の承認後、図書館の担当者と打ち合わせを行い、作業及び日程を確認する予定です。

6月

T-ACT アクション企画申請
中央図書館との打ち合わせ

7月・8月・9月

図書館への展示企画書の作成、提出
図書の選定、ポスター制作など展示物の作成

10月

宣伝活動、展示の準備作業

11月（展示期間中：11/6～12/6）

記録写真の撮影、図書の補充

展示会場の管理：

開放されているエリアでの展示のため、展示期間中に展示場所で来場者に対応するスタッフは必要ないと思われますが、オーガナイザーやプランナーを中心に定期的に会場の状態を確認することを考えています。

12月

活動の振り返り、成果の確認



※中央図書館ご担当者さまとの第一回ミーティングはすでに終了しました。企画開催にはご賛同いただいているため、T-ACT で企画を承認していただくことができれば、展示会場の予約を行う予定であります。

また、中央図書館ご担当者さまから、中央図書館で行っている障害のある利用者の方に向けた図書館サービスの紹介もできるのではないかというアイデアをいただきました。今回の企画でどこまで扱うことができるかは精査する必要があると考えていますが、場合によっては継続した企画申請を行い、活動を続けていきたいです。

宣伝活動／ X：@itfapple_

活動場所

【展示会場】筑波大学中央図書館 2階 ギャラリーゾーン 全学計算機側

【準備に関わる活動場所】主には人間系の部屋をお借りする予定だが、メンバーの状況に合わせて空き教室を予約

活動期間

2024/07/01～2024/12/31

対象

学生・教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：坂田和夏（情報学群 情報メディア創成学類 2年）

永井煌（理工学群 社会工学類 2年）

岡瀬水也美（人間学群 障害科学類 3年）

中谷美稀（人文・文化学群 人文学類 3年）

武井七海（人間学群 障害科学類 3年）

P：三盃亜美 先生（人間系）、吉田右子 先生（図書館情報メディア系）



備考

オーガナイザーと一緒に活動してくださる学生を募集中です。ご興味ありましたら公式 X（旧 Twitter）までご連絡お願いいたします。

本企画は筑波大学附属中央図書館さまから正式な展示企画として承認を得て、許可証を発行していただいております。そのため展示に用いる本や棚などに関しては、筑波大学附属中央図書館さまのご協力のもと、お貸しいただく予定です。詳細は以下の URL をご参照ください。

※開放された環境で1ヶ月間の展示を行うため、参加人数の正確な計測が難しいです。そのため予定希望人数と最低必要人数に関しては、図書館の1日の来館人数を踏まえた、展示の前で立ち止まっていたいただきたい目標人数を記載しています。

活動報告

実際の活動内容

筑波大学りんごの棚プロジェクトは、スウェーデンで始まった公共図書館サービスである「りんごの棚」の理念に基づき、すべての人が読書を楽しめる環境の実現を目指している。そこで、本プロジェクトでは、筑波大学附属中央図書館の協力のもと、2024年11月6日から12月6日までの1か月間にわたり、中央図書館2階のラーニング・スクエアにてバリアフリー図書やポスターの展示を実施した。以下に、企画の立ち上げから展示終了までの活動内容について述べる。

6月は、中央図書館の担当者さまとの初回打ち合わせを実施し、企画の実現に向けて始動した。この打ち合わせでは、展示場所や展示内容、運営体制などについて協議し、プロジェクトの具体的な方針を固めることができた。中央図書館での展示会実施が可能であることが確認できたため、T-ACTアクション企画の申請手続きを行った。この際、周りの友人らにりんごの棚や読書バリアフリーの意義について伝え、4名がオーガナイザー学生として関わってくれることになった。さらに発達性ディスレクシアを研究されている人間系の三益亜美先生と北欧の図書館を研究されている図書館情報メディア系の吉田右子先生にパートナーを依頼し、私を含めた5名の学生とお二人の先生で「筑波大学りんごの棚プロジェクト」の活動を開始した。その後、吉田右子先生の講義「生涯学習と図書館」において、本プロジェクトの目的や意義についてプレゼンテーションを行い、共に活動するオーガナイザー学生を募集した。その結果、新たに司書課程を履修している1名の学生がオーガナイザーとして参加することとなった。

7月には、T-ACTアクション企画申請が承認され、本格的に企画実施に向けて動き出した。筑波大学附属中央図書館での展示に向けた企画書を作成し、中央図書館へ提出した。企画書には、展示の内容や展示物などを記載し、図書館側と調整を重ねながら内容を詰めていった。

8月から9月にかけては、オーガナイザーとともに展示する図書の選定を進めた。筑波大学附属図書館に所蔵されている書籍の中から障害や読書バリアフリーに関するものを検索し、内容を確認しながら150冊程度リストアップした。このうち中央図書館に所蔵されている90冊については、来場者がその場で手に取って貸し出しできるように会場に展示したいと考えた。そこで、中央図書館の担当者さまにご依頼し、これらの図書は事前に確保していただいた。また、オーガナイザーと共に、東京都のGallery A4にて開催されていた「点字に触れる展」に伺い、触覚から情報を得る世界について学びを深めた。

10月には、展示物の準備を進めた。読書バリアフリーやりんごの棚について伝える11枚のポスターを用意したほか、展示図書の紹介や図書リスト、来場者が感想を記入できるパネルも作成した。あわせて、筑波大学新聞からの取材を受け、企画の認知度向上を図るための広報活動も進めた。

11月6日から12月6日までの展示期間中は、展示会場の設営や管理を行った。展示会場の設営では、オーガナイザーと共に目を引く展示を目指した。図書館の来館者が思わず足を止めてしまうような展示にするため、図書館の入り口近くの目立つ場所に、大きなりんごのイラストに「りんごのたな」という文字の書かれた画用紙を設置した。その下には、布絵本やLLブック、点字図書、リーディングトラッカーなど、手に取りたくなるようなものを展示した。展示期間中は、会場が開放エリアであるため、常駐の管理スタッフは配置しなかったが、プランナーやオーガナイザーが定期的に会場の状態を確認し、展示の維持に努めた。また、展示の様子を写真におさめて記録した。展示期間中の追加の広報活動として、吉田右子先生の講義「図書館概論」でプロジェクトの紹介を行い、「つくばアクションプロジェクト」の講義内でもプレゼンテーションを実施し、多くの学生に本プロジェクトの取り組みについて伝える機会を設けた。学外へも向けた発信としては、公式SNSの運用と日本図書館協会のメールマガジンへの掲載、さらにラヂオつくば内の番組でもインタビューを受けた。こうした広報活動によって本企画を知った方から個別に連絡いただき、プランナーが展示をご案内することもあった。

12月には、活動の振り返りと成果の確認を行った。来場者アンケートや感想記入パネルの内容を整理し、展示の効果や今後の課題について検討した。本プロジェクトを通じて、学内外の人々に読書バリアフリーに関する理解を深めてもらう機会を提供することができたと考える。

企画申請時に計画していた内容はおおむね達成できたが、企画を進めるなか発見した改善点に関しては修正しきれない部分もあった。例えば、「読書バリアフリー」を掲げる企画として重要な、より読みやすい・見やすい・わかりやすい展示物にするための改善点がこれにあたる。UDフォントの使用や情報量を増やしすぎないことなどに注意したが、行間や改行位置など、もっと工夫できる点があったと感じている。

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

多様な背景を持つ5名のオーガナイザーに仕事を割り当てることである。本企画のオーガナイザーは、学類や学年、関心領域もばらばらである。私はこうしたオーガナイザーに対して、企画に関わることを通して読書バリアフリーについて知ってもらいたいと考えていた。しかし、つい企画の発案者である私が動いてしまい、連携をとったり仕事を割り振ったりすることができていなかった。連携は中央図書館さまとのミーティングや企画申請書を Teams 上で共有するにとどまり、タスクの割り振りには至っていなかった。

第二に、ポスターの内容である。読書の困難さにはさまざまな状態やニーズがあり、そのすべてを一度に伝えることは難しく、本企画でどこまで説明するかという点が課題であった。本企画によって、「この障害のあるひとにはこの方法で情報保障を行えばよい」というスティグマの強化に繋がることは本意ではない。しかし、情報量を増やすほど展示内容はわかりにくくなってしまう。初めて読書バリアフリーの概念に触れる人でもわかりやすく、しかし固定観念の助長に繋がらず、読書バリアフリーについて考えるきっかけになる展示にしなければならない。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

この問題の根本には、オーガナイザーの状況を把握できていなかったことがあると考えた。そこで8月にミーティングを開催し、企画の進捗状況とどのようなタスクがあるのか伝えたくて、オーガナイザーとの面談も行った。そこで各オーガナイザーが、どの程度の時間的余裕があってこの企画にどれほどコミットできるのか確認した。また、各オーガナイザーの得意分野や興味のあるタスクも聞き取った。この面談の結果をもとに、5名全員に仕事を割り当てることができた。仕事の割り振り後もそれぞれの役割や進捗状況を把握し、全体のバランスを考えながら動くことを重視し、スムーズにいかない場面では対話を重ねることで問題を解決した。するとポスター作成や展示会場の設営の際に、どうすればより目を引く展示にできるのかということについて、私一人では思いつかないようなアイデアをオーガナイザーが提案してくれた。

この経験から、リーダーシップとは単に指示を出すのではなく、メンバーの状況を把握し、対話を通して調整しながら導いていくことだと理解した。また、多様なメンバーと協働することでよりよいアイデアが生まれることも学んだ。

第二の問題を解決するために、「おわりに - この展示で意識したこと -」というポスターを用意した。各ポスターは、読書バリアフリーや情報アクセスの保障について考える際に、最低限知っておくこと・考えるきっかけになることを意識した内容に焦点化した。そして、「おわりに - この展示で意識したこと -」では、相手の扱いやすい方法を知り、その方法で情報アクセスを保障していく必要があることを伝えた。これにより、わかりやすさを保ちながら、来場者が偏見を持つのではなく多様な情報取得の方法について考えるきっかけになる展示を可能にできた。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

代表者としての責任をもち、チームで最後まで取り組む経験になった。本企画を実施する前の私は、「トビタテ！留学 JAPAN」の高校5期生として自らの探究テーマのために留学を計画して実行するなど、主体的活動では個人で取り組む経験が多かった。しかし、本企画では他者を巻き込みながら目標を達成することができた。オーガナイザーはもちろん、パートナーの先生方や中央図書館のみなさまなど、さまざまな方面に「りんごの棚」や読書バリアフリーに対する私の熱意を伝え、協力いただけることになった。この経験を通じて、私は個人での主体的な活動とチームでの協働の違いを実感した。これまでは、自分の計画や目標に対して自分自身の努力で完結することが多かった。しかし、本企画では、自分の想いを伝えて共感を得ながら、周囲を巻き込むことで、より大きな影響を生み出すことができた。

参加者への影響

第一に、中央図書館への影響である。担当者さまとの初回ミーティングの際に、「先生ではなく学生からの展示企画の持ち込みは珍しく、図書館としても活用していただいていると感じられてうれしいです。頑張ってください。」とのお言葉をいただいた。企画へのモチベーションが向上するありがたいお言葉であった。さらに筑波大学附属図書館の職員のみなさまにとっても障害学生支援や読書バリアフリーは重要なテーマであるが、障害のある利用者向けサービスの周知には課題があるということを知った。そこで本企画では、「りんごの棚」や読書バリアフリーだけでなく、筑波大学附属図書館で行っている障害のある利用者向けサービスを紹介するポスターも作成した。資料の読みやすさを支える「リーディングトラッカー」という道具の貸し出しについては、図書館公式 HP にも記載されていないサービスであるので、特にこの周知に寄与したいと考えた。実際に貸し出ししているリーディングトラッカーを使い方の紹介とともに展示会場に置くと、手に取って試している来場者の様子を確認できた。

第二に、展示を見た来場者への影響である。手書きで感想を記入できるパネルには23名の感想が、オンライン上のアンケートには12名の感想が集まった。展示の維持のために会場にいと、感想を記入しない来場者も多かった。感想を記入するかに関わらず、想像していたよりも多くの人が点字に足を止めてくれているようだった。感想については、ひとつも記入してもらえなかったらと不安に思っていたが、最終的に35名もの来場者からの想いを受け取ることができ、大変喜ばしく感じた。なかには「ディスレクシアです！この展示があるのがうれしいです！」との感想もあった。ほかにも、「りんごの棚を初めて知った」や「ピクトグラムが使われている本を初めて見ました」、「みんなが楽しめる図書館が増えるといいなと思いました」などの感想をいただいた。多様な情報取得の方法を知り、視野が広がった来場者が多かったのではないかと推測できる。

また日本図書館協会のメールマガジンで本企画を知った東京都の司書の方が展示のためにつくばまで足を運んでくださったり、たまたま筑波大にいらした茨城県の公立学校の学校司書の方が本展示をご覧になったり、学外にも影響があった。

第三に、私とオーガナイザーへの影響である。展示を見た参加者からの反響が、私とオーガナイザーにとって社会とのつながりを実感する機会になった。私たちはこの企画が障害学生や図書館利用者にとってどのような価値を持つのかを考えながら、広報活動や展示物の作成を行った。その結果として、実際に反響をいただいたときには大きな達成感を覚えた。この企画を実施することで、読書バリアフリーについての学びを深められたのはもちろんだが、自らの活動が誰かに影響を及ぼし、社会とのつながりを意識するに至った。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

2024年6月3日にはじめてT-ACT推進室に伺ったときは、まさか年内に企画を実施することになるとは考えてもいなかった。大変軽い気持ちで、「こんなことができたらいいな」と思ってT-ACT推進室での面談に向かったのだ。すると、T-ACT推進室の李先生は私の企画について親身に聞いてくださった。そして2週間後までにT-ACTアクション企画申請をするように伝えられたのであった。そして2週間のなかで時間を見つけては企画申請に取り組んだ。パートナーをご依頼する先生に連絡を取り、面談の時間を取っていただいて企画についてご説明した。

オーガナイザーも探し、4名に協力してもらえることになった。さらに、この2週間のなかで、中央図書館担当者さまとのミーティングも行って企画が実施できるのか確認した。無事に2週間で企画申請を仕上げるのができ、7月には企画が承認されるに至った。つまり、小さな「やりたい」の種が、T-ACT推進室で面談し、気持ちを言葉にすることで行動の原動力として開花したのだ。

未来のプランナーのみなさまには、ぜひ気軽にT-ACTを利用してほしい。軽い気持ちでT-ACT推進室に伺うと、そこには「やりたい」という気持ちを尊重し、サポートしてくれる先生方がいらっしゃる。先生方と話すうちに企画が実施できるような気持ちが生まれ、行動に繋がったと思う。また企画の準備中も先生方にはさまざまな場面で相談に乗ってお力添えいただいた。頼れる先生方がいらっしゃることは大変心強く、T-ACTを活用して企画を実施してよかったと感じている。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

T-ACT推進室にあるさまざまな道具を使用できたことがある。ポスターを印刷できる大きなプリンターであったり、展示を飾るために必要な色鉛筆やはさみであったり、さまざまなものを借りることができた。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



● ライフル射撃サークル (24010A)

T-ACT プランナー 坂井 陽香 (医学類1年)

活動目的

私は射撃競技をしており、一緒に射撃競技をする仲間を増やしたいです。射撃競技の魅力をたくさんの人に知って欲しいです。

筑波大学には昨年の3月まで、ライフル射撃競技をする「ライフルシューティング」というサークルがありましたが、残念ながらなくなってしまいました。

サークルになる前は筑波大学の体育会運動部として活動しており、国民体育大会で入賞するほどの強豪校でした。私は、またそのような活躍ができる団体として復活させたいと考えています。

射撃競技には特別な射場や安全管理施設が必要であり、今までの部活やサークル活動のおかげで筑波大学にはそれらの設備が整っています。

サークルを運営するための環境が整っているので、仲間を集めて後々は一般学生団体を設立することを目標としています。

<射撃競技とは>

射撃競技には様々な種目がありますが、この団体で行う予定の種目には10m ビーム競技（ライフル・ピストル）・10m エア競技（ライフル・ピストル）があります。

ビーム競技は、引き金を引くと実弾ではなく可視光線を発する光線銃です。10m 先の標的は光の当たる位置で得点を判断します。銃規制の厳しい日本ですが、この競技は資格や免許がなくても挑戦できます。

エア競技は、空気銃を使用し実弾を発します。所持には公安委員会による許可が必要です。

● 現在、一緒に射撃競技をする仲間を募集しています！

ライフル、ピストルともに経験者が1人ずついます。銃の持ち方から撃ち方まで丁寧に教えます！

射撃中の安全管理についても教えます

射撃は個人競技であり、場所と道具があればいつでも自分のペースで練習することができます！

この筑波大学には両方そろっています！

活動日（活動日以外も対応可）にぜひ射場に立ち寄ってみてください！

気になること等あれば、連絡もお待ちしております！

具体的な活動計画

・主な活動日時：月2回ほど（活動日は月初めに決定するため、メールで伝えます。）

・場所：体育センター1階ライフル射撃場



・活動内容

①ビームライフルを使用しでの練習

エアライフル射場に設置してある道具（ビーム銃、標的、得点板）を使用して、実弾を使わず資格の必要ないビームライフル・ピストルを体験・練習します。

（射場の使用は体育センターに前月に申請をし、警備室と連絡を取って開けてもらいます）

②エアライフル射場の清掃

しばらく使われていなかったエアライフル射場を、再度エアライフルの練習ができるように掃除します。

週末

茨城県営ライフル射撃場での練習・大会見学

実際に大会が行われている射撃場でビームライフル・ビームピストルを練習します。

また、エアライフル・エアピストルは所持許可や資格が必要なので実際に撃つことはできませんが、選手が撃っているところを県営射撃場に見学に行きます。

大会が開催されている日は、実際の緊張した雰囲気を感じることができます。

活動場所

体育センター ライフル射撃場

活動期間

2024/12/25～2025/03/31

対象

教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：伊藤なおみ（医学類 1 年）、大野結晶（芸術専門学群 1 年）

P：嵯峨寿（体育専門学群）

備考

パートナー教員である嵯峨先生は、以前ライフルシューティングの顧問をされており、現在も射撃場の管理をなさっています。先生は定年退職が近づいており、サークル設立した際の顧問を引き受けられないとのことだったので、その際の顧問となってくださる先生を探す予定です。



活動報告

実際の活動内容

大学内射撃場でのビームライフル・ピストルの練習

県営射撃場でのビームライフル・ピストル、エアピストルの練習、大会見学

他射撃場での国際交流大会見学

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒70%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

エアライフル射撃場が長年使われていなかったこともあり、設備の修理が必要であったり、置いてあるものの所有者の確認に時間がかかったりした。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

顧問の先生や、体育センターの担当者と連絡を取り、解決を図った。またこれにより、元あったライフル射撃部のOBと連絡が取れ、当時の話を聞くことができた。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

筑波大学に射撃部があると聞いて入学をしたが、実際は部活はすでになく、縮小してできたサークルの前年度になくなってしまったことを知り、ショックを受けていたが、T-ACTで友人と行動を起こしてみて、射撃経験者で私と同じ思いを持っていた学生や、射撃に興味のある学生など、たくさんの人と出会えることができ、射撃の魅力伝えることができた。また、射撃を続けるモチベーションにもつながった。

友人や活動で出会った学生、またT-ACT推進室の方々のおかげで、今年度4月にサークル設立を達成することができた。

今後は、T-ACTの活動で詳しく考えられていなかった活動計画をしっかりと考えていきたいと思う。

参加者への影響

一部の仲間は自分事として活動運営に積極的に参加してくれたり、相談に乗ってくれたりした。T-ACTでの活動が参加者個人の大きな行動（エアライフル取得など）にはつながらなかったが、同じ興味を持つ者同士で交流をしたり、大会の見学を通して射撃を身近なものに感じて興味を深めたりすることができたと感じる。これらが今後のサークル活動での行動の原動力になると嬉しい。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

一年間の活動で、行動することは本当に大切だと感じた。最初は自分一人の趣味・興味かもしれないけど、T-ACTで活動をすることで、この広い筑波大学の中で絶対に同じ興味や考えを持った人がいるし、この活動はそんな人と出会え、自分の趣味・興味を広めて大きくすることができる場であると思う。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

サイトで宣伝をすることで同じ興味を持つ仲間をたくさん見つけることができた。

一般学生団体設立において、T-ACTと学生生活課とのつながりがなく、学生生活課で一から相談や手続きをしなければいけないのは少し大変だと感じた。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒4



●「平砂カスミから、春日4丁目への道」落ち葉処理 (24011A)

T-ACT プランナー 大岡 晃輔 (工学システム学類3年)

活動目的

よく使う道だが、落ち葉が道の横に溜まり、通行しにくくなっている。そのため、落ち葉の掃除をしたいと思った。カスミとサザコーヒーの前は、よく業者が入り、整備されている。しかし、そこから10歩動くと、落ち葉や枝の被ったベンチがあり、道路脇には落ち葉が積もっている。その落ち葉を少し片付けるだけで、多くの人が快適に通行することができると思い、この活動を始めたいと思った。一旦は、掃除予定範囲の道が広くなり、通りやすくなれば、この企画を始めた目標は達成できていると思う。最終的には、通行人が今より快適に使えるようになることにつながると良いと考えている。

具体的な活動計画

まずは、気軽に始められるよう、ひとり、二人でも活動を開始する。

概要

- ・いつ：毎週土曜日。
 - ・時間：午前10時から11時。
 - ・どこで：平砂カスミ前にて集合し、活動開始。
 - ・参加対象：関心がある方は活動できる時に参加し、一緒に落ち葉処理をする。
 - ・ほうき等の掃除用具は各自持参し、活動する。
- ・上記の日時・場所などを目安に活動を始めて行う予定。
ただし、自分の都合に合わせて自主的に活動することも並行して行いたいと思っている。
10分程度の気軽に始められる形で活動をスタートし、参加者の都合や人数などに合わせて日程や活動を行う場所・範囲などを決めていくことを考えている。

活動場所

平砂カスミ付近

活動期間

2024/06/22～2024/08/09

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：康宇重（工学システム）
P：澁谷長史（工学システム）

備考

ボランティアとは何か。
私はボランティアとは、ある人が、少し気になることを、その人が、苦にならない範囲で、誰に言われたからでもなく、自分のためかつ他人のために、自主的にやる活動だと思っている。
だから、ハードルを上げる必要はない。もっと気楽に行動して良い。時に自分のためにやる活動で良い。それが偶然、他人の役に立てば良い。
ゆえに、可能な限り、仰々しく企画書を作り、実行するような活動にはしたくない。もっと個人の気分や気持ち尊重された、アルバイトではない活動をしたい。

活動報告

実際の活動内容

一回だけ、20分ほど自前の箒を使って、地下通路になっているところの横に落ちている落ち葉を近くの木の下に掃くことで、かなり通行しやすくすることはできた。

また、その後活動を本格化させるために、対象場所の管理者を調べるために本部棟に数回行って、メールでコンタクトした後、つくば市が管理者であることが分かり、市役所に直接問い合わせた。結果、いわゆる一般の道を掃除するのと同じように、つくば警察署に行って、道路使用許可を取得しないといけないことが分かった。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒20%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

自分以外の人間を巻き込んで、ボランティアをしようとなると、色々な場所へ配慮が必要になること。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

T-ACTの相談員さんにアドバイスをもらい、上手に体裁を取り、それでも自分の負担にならない塩梅の取り方を教えてもらった。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

ただのボランティアをするだけでも、正式な手続きをしようとなると、かなり時間と労力がかかるということが分かった。正直、ボランティアというのは、まだ制度としては全く確立されていないのだなと思った。市役所の人もそんなに暇では無いだろうから、文句は無い。

また、20分の間でも200人以上の人が通っている場所であり、使う人はたくさんいる場所だということが分かった。もし今後ここでボランティアをすることがあれば、かなり多くの人の役に立つことが、一回20分の活動だけでも経験として得ることができた。ただ、ただ一人も声をかけてくれることは無く、自分の地元との地域差をすごく実感した。少し寂しいことではあるが、郷に入れば郷に従えというのが筋であると思っている。

ボランティアをこれからするときに、色々な場所で行うことができれば、地域差を実感することができて面白いのかなと思った。

参加者への影響

特になし。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

ボランティアは案外手続きが面倒くさい。ただそれを一回実感してみるのはいいい経験になると思う。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

体裁の取り方を懇切丁寧に教えてくれた。これから自分がT-ACT以外でも活動しようとする時、体裁を取るのには非常に重要なことだと思うので、教えてもらってすごく助かった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒3

●「ちかん、盗撮、誰のせい？～ちかん対策ポスターを作り直そう～」(24013A)

T-ACT プランナー 上田 咲希乃 (社会学類3年)

活動目的

被害者に自衛や責任を求めるちかん対策ポスターに NO を！

現在つくば市TX内などに掲出されているちかん対策ポスターは「スカートをはいている」「夜道を歩いている」等、被害者に責任や自衛を求めるものであり、また、ジェンダーに関してもステレオタイプのイラストが記載されている。

被害者、加害者、傍観者の目線から、本当に必要な情報はなにかを考え、最終的にはちかん対策に、より効果的なポスターに作り変える。(つくば市警察署からの許可は得ています)

完成までの過程において、多くの人にポスターの問題を理解し、ちかん犯罪の本質理解を促すためにイベントを実施する。これを機に、ちかん対策、ジェンダー平等に向けて行動する人を増やす。

具体的な活動計画

7月上旬 企画申請、開始

8/10(土) 14時～16時半 イベント実施 at つくば駅「co-en」

(高校生や社会人などつくば市在住の方々とポスター改良についてのワークショップを実施)

9月中旬 改良版ポスター提出(警察の方々と意見交換)

9月下旬 ポスター完成&イベント実施

メディア記載(つくばケーブルテレビ、つくば新聞、茨城新聞、東京新聞あたり)

〈イベント〉

日 時：2024/8/10(土) 14時～16時半(13時45分開場)

対象者：つくば市在住の若者を中心とする全世代、MAX20名

場 所：つくば市交流拠点「co-en」

協 力：つくばまちなかデザイン株式会社

現在のポスターの改善点について参加者間で共有し、専門とする方々のお話を通して理解を深める。より多くの視点から考えるために、ちかん対策などに取り組む方々によるブースを設け、必要な情報を集める。新しいポスターに入れたい内容をまとめ、ちかん対策ポスターを自分で作ってみる。

活動場所

実行委員の打合せは Zoom

イベントはつくば市交流拠点「co-en」

(<https://co-en.space/>)

活動期間

2024/07/04～2024/12/31

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：松山里緒菜(社会学類3年)

及川優和(社会学類3年)

千葉彩乃(社会学類3年)

木原里沙(比較文化学類3年)

北村美月(社会学類2年)

胡越(芸術学学位プログラム1年)

安田茉由(人文学学位プログラム2年)

P：鈴木彩加先生(人文社会系)、原田隆之先生(人間系)



備考

〈イベントに関して〉

本イベントは、グラウンドルールを設けています。以下のルールを守っていただける方のみ、参加が可能です。

グラウンドルール

1. 当会場内ではジェンダー・セクシュアリティ・人種・民族・障害・宗教など、あらゆる差別を許しません。差別発言等が見受けられた場合は即退場していただきます。
2. 講座内で共有された個人的な話は、本人の許可なしに外部への共有はしないでください
3. 「見た目でその人の属性を決めつけないでください」
知らない人を指したい時は「お姉さん」「お兄さん」「彼女」「彼」などと言わずに、「メガネをかけたあおい服を着ている人」などの言い方をしてください。本人の希望がなければ「くん」「ちゃん」ではなく「さん」を使いましょう。
4. 何か不安を感じるごと、違和感を覚えることがあったら遠慮なくスタッフに声をかけて教えてください。
5. 途中退出自由
ストレスを感じたら、ひとことスタッフに声をかけて気分転換してください。

〈ちかん対策ポスター制作に関して〉

オーガナイザーにメンバーとして加わりたい場合は、s2413572#(#を@に変更) u.tsukuba.ac.jp まで連絡してください。活動の詳細をお伝えさせていただきます。

活動報告

実際の活動内容

つくば駅に掲出していたちかん・盗撮対策ポスターが被害者に自衛や責任を求める内容であり、違和感を覚え新しく作り変えるためのプロジェクトを行いました。

6月中旬 警察署の方々に相談・許可を得る

6月下旬 発起人がメンバーを集める (T-ACT 申請)

7月 ミーティングを重ねる

8月 ワークショップ開催

より多くの人にポスターに潜む問題性を認識してもらいたい、ポスター作成に向けて多くの人の意見を取り入れたい！という思い。

イベント後

NEWS つくば、朝日新聞さんにイベントの開催について記事にしてください。

10月 ポスター内容を決める

11月 FIFTYS PROJECT 活動報告会

12月 ラジオつくばに出演



ポスター制作

プロのデザイナーさんにデザインを担当していただきました。

2月 完成

2025年5月 お披露目会、掲出、ZINEづくり

8月に開催したワークショップ

日時：2024年8月10日（土）14:00～

場所：つくば駅 COEN co イベントスペース

開催目的

新しいポスターを作る過程で、より多くの人々と問題意識を共有し意見を集め、それを基に新しいポスターに反映させたいという思いから、開催を決めました。主催した私たち9名の実行委員に加えて、つくば警察署、つくば市ダイバーシティ推進室、慶應大学 Safecampus、FIFTYS PROJECT の皆様にブースを出展していただきました。イベントは、主に前半がトークセッションや意見交換で考えを深める時間、後半はブースをまわって情報を集め、最終的に自分なりのちかん対策ポスターを作ってみるという構成です。また、会場はつくばまちなかデザイン株式会社様のご協力によりつくば駅に隣接する交流拠点「co-en」にて開催しました。

当日の流れ

- 14:00～ はじめに・現在のポスターの改善点・残したい部分探し
- 14:20～ トークセッション
- 休憩
- 15:00～ ブースを回って情報集め
- 15:30～ グループ共有
- 15:40～ 自分のオリジナルポスターづくり
- 16:10～ みんなの作ったポスターにメッセージ

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒90%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

経済面ではプロジェクトを進めるためのイベント会場代や印刷代など懸念点でした。また、プロジェクトの大きな見通しと実際に活動する時間的余裕を意識して活動することが難しかったです。イベントの周知も苦戦しました。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

経済面ではT-ACTのサポートと、活動のサポートとしてFIFTYSPROJECTさんから資金援助などをしていただけることになり助かりました。また、学生主体のイベントということもあり、本来必要な費用を免除していただくなどとてもありがたかったためスムーズに進めることができました。プロジェクトに関して、長期化してしまい、時間や余裕のキャパシティを踏まえた上で計画立てて進める必要があると痛感しました。イベントの周知は近隣の学校にお願いしたり、興味のあるような施設にビラを掲示していただいたり、駅近くにビラを貼っていただいたり多くの方々へ協力をお願いしました。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

「ちかんは犯罪です」「盗撮注意！」駅や街に溢れるこのような言葉たち。あたかも被害者が注意していれば被害は起こらないかのようなメッセージが、「ちかんは犯罪です」とわざわざ示さなければいけないほど、数々の被害が沈黙のもとに押し込められる社会を作り上げてきました。

「駅のポスターなんて見ない」と思う方もいるかもしれませんが、ポスターが人々の無意識の形成に与える影響は大きいと、ポスター制作を進めながら感じました。

そのような無意識の積み重ねが形成する人々のちかん・盗撮犯罪への意識を変えるためには、どんな言葉や視覚情報を入れれば良いのか、たくさん悩み、考えました。

実際の被害への抑止力を重視するならば、訴えかける相手は絞らなければなりません。傍観者を傍観者にしないようなメッセージを入れ込む、被害を受けた人が声を上げられるための情報を掲載するなど、たくさんのアイデアが飛び交いました。

一方で、私たちが今回このプロジェクトを進めることの意義も考えました。ちかんや盗撮という犯罪がいかに根深く、深刻で、かつ軽く見られてきたのかを人々に訴えたいと思いました。そんな思いを交錯させながら、ようやく完成しました。今回はFIFTY'Sさんはじめ、十分なサポート体制が整っていたことに加え、疑問を抱く有志たちが集まることができたことで、やっと進められた活動でした。

しかし、このようなポスターに疑問を抱く人も、蔓延するちかん・盗撮が問題化されない社会も、全国各地どこにでも存在します。私たちは全国すべてのポスターを作り替えることはできませんし、ポスターだけで犯罪は消えません。根深い問題に対処するためには、まず公的機関がちかん・盗撮の現状に対してもっと真剣に向き合っていく必要があります。対応に一番にあたる警察職員へのジェンダーや人権などの視点からの研修プログラムを徹底すべきですし、また、加害者（と、加害行為に及ぶ恐れがある者）の相談先・治療機関の不足も切実に感じられました。さらに言えば、加害行為を誘発するような、むやみに女性を性的に見せた駅や街での広告、ちかんの話になった途端冤罪被害ばかりを描くメディア、同意のない性行為が描かれるAVで性行為を学んでしまうような日本の性教育の不十分さなど、問題は山積みです。しかし、今回新たに製作したポスターが、私たちの思いとともに各地に広がり、この世界の不均衡に一手を打つことができれば嬉しいです。

（文：北村美月，社会学類3年）

参加者への影響

ちかん・盗撮被害に対して被害者に責任や自衛を求めるようなポスターに対して、初めて違和感を持つ機会になっただけでなく、その背後にある社会の構造や問題について見つめ直すきっかけになったのではと感じています。

イベントでは傍観者ができることに焦点を当てた資料や話が多く出たこともあり、参加者が1人1人作るポ

スターは性被害にたちあつた際の第三者による介入方法として「5D」という概念や「Active Bystander」に沿った内容が多くみられたことも一つの成果であったように感じます。（「5D」とは？→・Distract = 注意をそらす：大きな声を出したり目立った行動をとることで、被害の拡大防止を図る。・Delegate = 第三者に助けを求める：自分一人で解決するのではなく、第三者を「増やす」ことも、加害を止め泣き寝入りさせないために重要。・Document = 証拠を残す：これは、被害者への配慮との兼ね合いが難しいため、無理ない範囲で、ではあるが、証拠映像だけでなく、複数の目撃証言をとることも有効。・Delay = 後で対応してみる：即座に介入できずとも、被害後の被害者に寄り添うなどの方法もある。・Direct = 直接介入する：口頭でも手を使ってでも、直接加害をストップさせることはもちろん有効。「Active Bystander」=「行動する傍観者」（アクティブバイスタンダー協会ホームページより）

議員さんをはじめ、市役所の方々や警察署の方々、他大学の活動団体の方々と協力してイベントを実施することができ、「よくあること」とされ見過ごされてしまっているちかん・盗撮といった犯罪行為に対して、改めてその重大性を認識し、多方面からの抜本的改善のためのアプローチを促すきっかけづくりになったのではと実感しています。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

何かをやりたい、と思っていること、実行することそれ自体がとても素晴らしいことだと思います。T-ACTという支援体制があるからこそ、金銭面や運営面で断念することなく自由にやりたいことを構想できる、とても恵まれた環境だと実感しました。

今回のプロジェクトは9名の仲間と共に進めることができました。といっても、最初はお互い知らないような状態でした。友達が友達に「一緒にやってみない？」と声をかけて集まった、偶然にも恵まれた環境だったように思います。同じように志を持つ仲間と出会うことは簡単ではないと思います。まずは自分から、いろいろな人に出会いに行ったり他のプロジェクトやイベントに参加してみたりといろいろなネットワークを持つことが大切であるような気がしています。

「とにかくやってみる」ことが進める上でカギになります。警察署が出しているポスターに抱いた違和感をまさか自分が変えられるとは思っていませんでしたが、とりえず警察署に直談判に行きました。自分の熱意とビジョンがあればきっと、理解してくださる方々に出会えるはずです。

今回は偶然も重なり、環境にも恵まれプロジェクトを進めることができました。たとえ思い通りにいかなくても実行した経験はいつかきっと、何かのきっかけになるときが来ると信じています。活動に優劣なんてなく、その思いと行動自体がとても素晴らしく尊いものだと思います。皆様の活動を心から応援しています。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

有志の団体としての活動になるため、筑波大学 T-ACT という肩書があることや先生方のサポートがあることで活動の院ライ性を担保できていたように感じます。特に行政機関やメディアに対して活動紹介や連携をはかる上でとても重要な要素でした。また、他の活動をする仲間と T-ACT の教室で出会うこともあり、同じような悩みの共有や情報交換ができてとても良かったです。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



● 筑波大学開学50周年記念オリジナルヘッドマーク車両で行く水海道車両基地見学 (24014A)

T-ACT プランナー 細内 崇裕 (比較文化学類3年)

活動目的

「筑波大学開学50周年記念」のヘッドマークで列車を走らせることで、参加者あるいはつくば市近辺の人々に開学50周年をPRする。

筑波大学開学50周年をお祝いし、つくば市や筑波大学を盛り上げたいという想いからイベントを企画した。

具体的な活動計画

関東鉄道常総線において筑波大学開学50周年記念のヘッドマーク付き列車を運行し、それを組み込んだツアー旅行を実施する。

取手駅 = (ヘッドマーク付き列車) = 水海道車両基地 = (貸切バス) = つくば駅

という行程を具体的には検討している。この際、水海道車両基地において見学、撮影会を実施し、参加者に筑波大学グッズ、関東鉄道グッズをプレゼントする。

(筑波大学 創基151年筑波大学開学50周年冠事業)

なおイベント実施に向け、運営費用を補填するためにクラウドファンディングを合わせて実施する。

〈スケジュール〉

2024年 1 月～6 月	創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業申し込みし、認定 6 月に開催予定だったか、参加者不足により延期
2024年 7 月	企画案及び日程を調整して、T-ACT 申請
2024年 8 月中旬	クラウドファンディング開始 一般再募集開始 T-ACT での広報活動開始
2024年 9 月16日	一般募集終了
20 日	クラウドファンディング終了
2024年 9 月23日	イベント実施
2024年10月	クラウドファンディング返礼品発送 T-ACT 報告書作成

〈イベントスケジュール詳細〉

守谷駅 9:35 +++ (一般列車) +++ 水海道駅 9:44 …… (回送列車) …… 水海道車両基地 (見学・撮影)
10:00頃～11:30 --- (貸切バス) --- 筑波大学構内 (バスで巡回) 12:30 --- つくば駅 12:45

活動場所

関東鉄道常総線
関東鉄道水海道車両基地

活動期間

2024/07/15～2024/10/31

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 竹内真雄 (リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士前期課程 1 年)

P: 鈴木勉 (システム情報系)

備考

ツアー参加申し込みはこちら

<https://kantetsu-bustour.com/information/2024/article-1948/>



⇒おかげさまで締め切りました(9/6 T-ACT より追記)。

クラウドファンディングはこちらから

https://camp-fire.jp/projects/775338/preview?utm_campaign=cp_po_share_c_msg_

⇒お陰様で目標より多くのファンディングが集まりました！ありがとうございました！

- ・クラウドファンディングは株式会社 CAMPFIRE を利用予定で、25万円を目標とする。
- ・関東鉄道はイベント実施協力・関鉄観光バスはツアー募集委託。

本イベントは既に創基151年筑波大学開学50周年冠事業の認定を受けているが、広報手段の確保のため、またイベント実施に向けてアドバイスを受けるため T-ACT に申請する。

活動報告

実際の活動内容

創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業の一般向けツアー旅行。記念ロゴをデザインしたヘッドマークを付けた列車に乗車し、水海道車両基地を見学、貸切バス内では大学や地域への理解を深めるクイズ大会を実施し、筑波大学を見学した(2024年9月23日)。

2023年末に関鉄観光に話を持ち掛け、2024年2月に大学より冠事業の認定を得る。6月に一般募集をかけるが、人数が集まらず失敗。7月に T-ACT 申請。再実施をするために、値下げ、広報手段改善の方策を探る。値下げのための外部収入増加に関しては、助成金、協賛、クラウドファンディングを比較検討し、クラウドファンディングを実施した。クラウドファンディングでは、会社の人の助言を得て、OB を中心とした30万円の支援金を獲得した。結果として6月の募集の8,600円から、8月の募集では4,000円(小人は2,000円)と大幅値下げを実現した。広報手段については、ツアー旅行の魅力(PR点)の整理・見直しを行うとともに、主なターゲット層である親子連れには SNS は不適と判断。顧問の先生を通した周辺自治体の支援や、T-ACT の支援を得て製作したポスターの頒布を実施した。これにより募集締め切りを迎える前に満員御礼を実現した。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか?⇒100%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

ツアー募集失敗から再募集するにあたり、二度の失敗が許されなかったこと。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

なぜ失敗したのかを、他の類似企画との比較やターゲット層への情報の浸透具合から分析し、大幅値下げと広報手段の改善を実現した。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

「大学生らしいことをやってみたい」ということから、私は1年生でも T-ACT で鉄道・自転車関連の企画を提案したが、多忙を理由に頓挫してしまった。また筑波大鉄研「旅と鉄道の会」の会長として、サークルの知名度向上を図ってきたが、思うような成果をあげられずにいた。そうした中で「創基151年筑波大学開学50周年記念事業」募集の案内を目にし、自分たちのテーマである「旅」「鉄道」を通して何かできないかと考え、このイベントを企画した。1年のときの失敗から、絶対やり遂げるという強い気持ちで臨んだ。打ち合わせを進めていく中で、少しずつ現実味が増していくのには高揚感があった。とはいえ大学と鉄道、旅行会社を巻き込んだ前例のないことを企画するにあたり、本当に実現できるのか?という気持ちはずっとあった。

実際に募集を開始するときもそうだ。8600円という高めの値段設定と2週間という短い募集期間に不安を感じていたところ、悪い予感的中し、40人定員のところ3人



しか集めることができなかった。ここで中止か延期かの選択肢があったわけだが、周囲の支援してくれていた大人の意見もさまざまであった。その中で「やりたい」という気持ちで延期を選択したのは一つの大きな転換点であった。延期するにあたり、課題が山積みであったが、T-ACTの支援を受けつつ、今度こそ少しずつ現実味が増していった。ツアー募集とクラウドファンディングの両方で成功をおさめ、当日もお客様に満足して頂いたことで得られた達成感は一生涯に何回も味わえるものではないだろう。

参加者への影響

参加者の中には鉄道ファンや大学OBも多く存在していたが、半分以上は、当初の狙い通りにつくば市とその周辺自治体（特につくばみらい市）からの親子連れの参加であった。そうした親子連れの多くは、常総線が初乗車であったり筑波大学の中に入ったことがなかったりした。茨城県南という地域において、関東鉄道も筑波大学も大きな存在であるはずである。参加者はこのツアー旅行に参加することで、こうした地域の大きな存在を通して、自分の住む地域の魅力を再発見するきっかけになったのではないだろうか。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

資金や人集めなど重要なことは多くあるが、最も大切なのは気持ちであったと企画を通して思った。

T-ACTを利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

- ・ポスターをアドバイスなしには完成させられなかった
- ・筑波大のロゴが入ったビブスを当日着用できた。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



旧宿舍からの脱出 (24015A)

T-ACT プランナー 近藤 秀彦 (社会工学類2年)

活動目的

まず、使い道のない旧宿舍を何らかの方法で活用できないかと考えた。

そこで、一般的に「負の財産」とされている廃墟の恐怖感、リアル脱出ゲームでは「世界観・没入感」を生み出す「正の財産」として活用できることに気づいた。サバイバルゲームがより田舎で本格的な場所の方が楽しいように、リアル脱出ゲームも廃墟の方がふさわしいのではないかと考えた。この廃墟の新たな価値を筑波大学を起点に発信していきたい。

活動に関して、芸術専門学群、その他多数の学類の生徒と協力し、各々が大学内外で学んでいることを活かす。具体的には芸術専門学群で学んでいる生徒がリアル脱出ゲームの内装を担当し、謎解きサークルの生徒が出題する謎を考案する。このように1人1人が持つアイデアと知識を掛け合わせることで質が高く、かつ効率的な活動を目指す。

最終的には旧宿舍のみならず、つくば市の空き家や他の地域の廃墟もリアル脱出ゲームとして活用できる可能性があり、廃墟は完全に無価値なものではないと知っていただきたい。その拠点を筑波大学とする。



(T-ACT 推進室からの追記)

※本イベントは学生同士の交流及び学びのために行われる学生主体の活動であり、営利目的の活動ではありません。

※活動目的及び企画案に関する審査を受け、承認された活動です (承認番号24015A)。

具体的な活動計画

平砂の旧宿舍を使用した1dayの脱出ゲームイベントを行う。(3/19開催)
謎解きサークル「ライラック」や芸専の学生など複数のコミュニティとコラボレーションして作業を分担する。
現在、運営班1名、内装班1名、シナリオ班3名の参加が決定している。

【イベントの概要】

- ・開催場所：平砂の旧宿舍 (3～5部屋利用)
- ・開催日：3/19
- ・参加対象：筑波大生や地域の方々
(あくまで小規模な開催を予定。)

※脱出ゲームはあくまで謎解きがメインであり、雰囲気作りとしてホラー風にするが、参加者を驚かせたり、恐怖感を覚えさせるものではない。

- ・参加費有り (300円 / 一人)
- ・参加予約フォーム：
<https://docs.google.com/forms/d/1jMngNaWOo6LpMNMdtOsNquzGshX8X5Wb7PY8dYfdt8M/edit?hl=ja>

【当日の流れ (1/24～1/27)】

- ・受付 (参加者確認と金銭の受け渡し) → 一連の流れについてスタッフから説明 → 部屋に入りゲームを行う → 解散
- ・受付から終了までの参加時間は、約1時間程度かかることを想定している。
- ・複数の部屋で複数のグループが同時に参加されるため、事前申し込みを通じて参加希望日時・人数等を把握し、当日の運営について事前確認をしたうえで対応する。

※当日のスタッフの動きに関してはマニュアル通りに動くようにする。

運営マニュアル

https://o365tsukuba.sharepoint.com/:w:/s/msteams_0c9230/EY5S_pYeJixFtZM_FaS2Ev4BS4KjVNpc_e0dnHWrt-x-Wg?e=AbzQ7q

【広報】

- ・ポスター、SNS、T-ACTを通して行う。
- ・Instagram や X、ポスターの QR コード等から事前にお申しいただく。

【当日までのスケジュール】 運営スタッフの準備は以下の通り

[運営班]

- ～11月
 - ・ T-ACT 申請完了
 - ・ 音響設備（学生生活課に申請）
- 11/4～11/20
 - ・ スポンサーの選定と決定
 - ・ チラシ・ポスター案の作成
- 11/21～12/4
 - ・ 予算の算出
 - ・ チラシポスターの印刷
- 12/4～1/7
 - ・ 前売り券うる
 - ・ チラシ配り、ポスター掲示
 - ・ 当日スタッフマニュアルの作成
- 1/8～1/15
 - ・ 安全確認基準の提出
- 1/8～1/22
 - ・ ロープレ
 - ・ 動線確認と避難経路確認
 - ・ チケット売上不足分のスポンサー探し
 - ・ 当日スタッフマニュアルの提出、承認

[シナリオ班]

- ～11/20
 - ・ シナリオ完成
- 11/24～12/4
 - ・ チラシポスターのデザイン
- 12/4～開催まで
 - ・ ロープレ参加して修正、改善

[内装班]

- ～11/20
 - ・ 大枠のイメージ作成
- 11/21～12/4
 - ・ 内装イメージ決定
- (宿舎清掃)
- 3/1～3/10
 - ・ 内装完成
- 3/10～3/18
 - ・ ロープレ踏まえて、内装の確認・修正

[全班]

- 3/19～3/20
 - ・ 後片付け
- その後
 - ・ 振り返り

活動場所

平砂の旧宿舎（学生生活課の担当職員に相談・許可済）

活動期間

2024/10/10～2025/03/31

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：近藤秀彦（社会工学類2年）、倉迫祥平（社会学類2年）、萩谷良介（総合学域群2年）
 牧山光汰（総合学域群第二类1年）、桑原侑（国際総合学類2年）、飯田眞一郎（心理学類3年）
 古賀瑞季（社会学類3年）、中村碧琉（芸術専門学類3年）、小林明日美（生物資源4年）
 P：福住多一先生（人文社会系）

備考

【安全面への配慮】

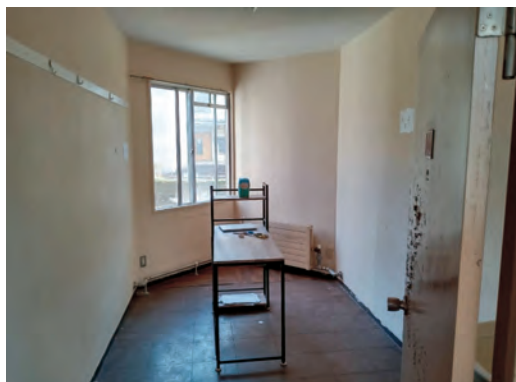
- ・ スタッフは在学生のみとし、作業中や当日対応中にケガした場合に学研災が適用されることを確認しておく予定。また、作業中は細心の注意をはらい、もしもの場合に備えて救急箱を設置する。
- ・ 参加者は、基本的には中学生以上の方を対象にご参加いただくが、小学生の参加者がいる場合は事前に安全面への注意事項を伝えることと、保護者が大人の誰かと一緒に行動できるようにする。
- ・ 部屋の中で行わるためケガ等のリスクは高くないと考えられるが、部屋までの移動時等の安全面を考慮し、イベント実施中の部屋近くに安全管理に対応できるスタッフを配置する。また、救急箱を用意し、簡単な処置は

すぐ対処できるようにする。(前述の通りスタッフマニュアルの作成を行う。)

- ・イベント保険(傷害保険、賠償責任保険)に加入。
(安全マニュアルに記載)

安全マニュアル

https://o365tsukuba-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/s2312788_u_tsukuba_ac_jp/ETkSEy3dCzIBkBhZUEeuk6oBdOP9EO1C5Sgi_KHuOx0w2A?e=B12r6J



【衛生面について】

- ・宿舍の清掃時には床や壁、天井まで箒や雑巾等を用いて清掃を行う。
- ・参加者には手指消毒をして参加してもらう。

(T-ACT 推進室より追記)

※本イベントは学生が主体となって行われる活動であり、営利目的の活動ではありません。

※活動目的及び企画案に関する審査を受け、承認されて行われる活動です(承認番号24015A)。

※参加者からいただいた参加費は、本活動の運営・設営に必要な資金として利用させていただきます。余った場合は、日本赤十字社へ寄付する予定です。なお、活動終了後はT-ACT 推進室に決算報告を行います。

活動報告

実際の活動内容

2025年3月19日に、平砂9号棟にて脱出ゲームを行った。

当日は8組31人の方にご参加いただいた。

開催前日に会場準備とテストプレイを行った。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか?⇒70%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

1. 朝から雪や雨が降り、1組目の開始が遅れたこと
2. 雨により本来通る予定の廊下が通れなくなったこと

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

- 1 については、各回の間を10分開けていたため2組目から予定通りの時間で進めることができた。
- 2 については、参加者の順路を変えることで対応できた。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

(準備の段階)

複数人で団体として動くことの難しさを痛感した。情報共有や仕事の分担が難しかったが、準備を進めていくうちに少しは上手になったと思う。自分だけでなく、相手の状況も考えた言葉遣いをするよう心掛けるようになった。また、いい作品を作るだけでなく、作品を知らせる広報も非常に重要だと分かった。

(当日)

各回の間に予備の時間をつくっておくことの大切さを知った。実際、時間に余裕をもたせておくことで天候による遅延を最小に抑えることができた。また、本番前に全員で動きの確認を行っていたらもっとスムーズに進行できたと思う。とはいえ、参加者が想像していたより楽しそうにできて嬉しかった。大変だった準備が報われた気がした。

(終わってみて)

まずコンセプトが良かったと思う。普段は入れない廃墟に入る体験はそれだけで楽しいものであるからだ。今回は都合により装飾を行えなかったが、もともと廃墟であるため十分雰囲気を出すことができた。次に、規模を

縮小したことは英断だったと思う。訳あって運営人数が約10人から5人になってしまったことや、準備期間が短いことを考え、開催規模を縮小し同じ時間に1レーンのみの開催に変更した。そのおかげで当日運営が楽になり、事故なく終えることができた。とにかく1度開催してみることは大事だと思う。

参加者への影響

イベントを自分たちで開催する方法を知れたのが大きかった。会場の許可どり、イベント保険の加入、広報などの進め方を一通り知ることができた。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

やる気があるなら、だいたいことは実現できると思う。準備が大変な時は、参加者が楽しむ姿を思い浮かべて踏ん張ってほしい。また、理想を掲げるのは大事だが現実的な部分ともしっかりと向き合うことが必要だと思う。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

学生生活課の方との交渉が比較的楽だったことがありがたかった。T-ACT 承認企画であると伝えることで信頼を得やすく、準備を進めやすかった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



Medical Map for Foreigners vol.2 (24016A)

T-ACT プランナー 相馬 淳乃（看護学類4年）

活動目的

留学生のチューターをしている時、留学生が日本の医療機関を受診するにあたり、「まず、どこの病院に行けば良いかわからない」や「英語対応の病院はインターネットに載っているが、具体的に何をどの程度対応してくれるのかかわからない」という相談を受け、留学生や外国籍の人の医療アクセスについて興味をもった。

出入国在留管理庁が行った在留外国人に対する基礎調査（令和3年度）によると、『病院で診察・治療を受ける際の困りごと』という項目において、令和2年度・令和3年度共にか“どこの病院に行けばよいかわからなかった”（23%前後）が一番多く、またつくば市の外国人人口は全国平均より6.09倍多いという背景からも、言語や文化等に応じた医療機関の情報の需要があるのではないかと考えた。

以上のきっかけと情報から、外国の人が医療にアクセスしやすいツール的一端として、つくば市内で外国語に対応している医療機関や、どの程度対応しているか（問診票だけなのか、英語が話せるスタッフががいるのか）などを視覚的にわかりやすく示したマップの作成、そしてそのマップ使用が、つくば市内に住む外国籍の人の医療アクセスに寄与することを最終目標とする。

具体的な活動計画

（これまでの活動）

2023年下半期のT-ACTにおいて、つくば市の外国語対応の病院、約40件にアンケートを送り、外国語対応の有無だけでなく、対応言語の種類や各言語を話せるスタッフの人数、受付から診療までの流れなどを明らかにした。

（今回の活動）

上記のアンケート結果をもとに、病院情報を掲載したマップを作成する。（Webアプリ、可能であればスマホアプリも含む）その後、アプリを公開し、周知を図る。

（活動予定）

10月中：アプリ完成

10月後半～11月中旬：アプリ公開。試験運用（エラーの有無やアクセス制限の設定など）。

11月中旬～：在留外国人の医療アクセスの情報網を分析し、広報の方法について会議。

（留学生や国際交流団体、外国語対応の医療機関のサイトを運営している公的機関との連携を検討中）

11月後半～12月末：広報（SNSやポスター等）

活動場所

学内教室・オンライン

活動期間

2024/10/18～2024/12/31

対象

学生・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：保阪柚子巴（看護学類4年）

大野哲成（社会工学類3年）

P：伊藤智子（医学医療系）

備考

マップ確認はこちら（2025/04/28T-ACT 推進室追記）↓

<http://medical-map-env7.eba-kxizvh4p.ap-northeast-1.elasticbeanstalk.com/>

X (twitter) : @MapMedical

ポスターにあるQRコードから読み取ることもできます。



活動報告

実際の活動内容

- 以前のサイト（既存の地図アプリに掲載）から、自作のサイト（診療科や言語、現在地などから病院を絞れるツール）を作成した。
- つくば市と茨城県の二ヶ所の国際交流団体にポスターを掲示
- T-ACT ラジオによる広報

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒70%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

システムエラー等の修正に時間を要した。また、スマホアプリの作成まで検討してはいたが、追加費用がかかるため断念した。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

生成 AI 活用によるコード修正や、オープンソース等で既存のコードを参考にフィルター機能を追加した。ある程度解決できた。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

昨年実施した「Medical Map for foreigners」企画では、つくば市の外国語対応病院情報をアンケート調査で集め、既存の地図アプリにその情報を掲載した。収集した情報には、言語対応、スタッフの人数、受付から診察までの流れ、薬の受け取り場所、受診前に予約が必要かどうかなどがあり、留学生からは「ぜひ活用したい」との意見を得ることができた。しかし、病院情報の活用や発信方法に関しては、それぞれのコミュニティに情報収集の違いがあることから、Medical Map のアクセス数が少なく、広報や発信方法に課題が残った。

その後、再開した「Medical Map for foreigners vol.2」では、新たにプログラミングを学び、条件検索やルート案内など新たな機能を自分で作成できるようになったため、前回より自由度の高いサイトを作成することができた。

この活動を通じて、「これをやりたい！」という思いつきでも、行動に移してみると、予想以上に多くの人が賛同してくれた。また、「こうすれば良かった」「これができたら…」といった反省を次の活動に活かすことで、新たな学びと成果を得る楽しさを感じた。さらに、ポスターの広報を行った際に、国際交流団体の方から外国人の医療アクセスに課題を感じているという意見を聞いたり、ラジオ出演時に収録の流れを知ることができたりと、思いもよらない出会いや発見があった。このような体験が、自分ひとりで行う活動では得られなかった面白さを感じることができた。

参加者への影響

- サイトへのアクセス数の増加
- 日本人の外国人の医療アクセスに関する認知向上

未来のプランナーに伝えたいことがあれば自由どうぞ

私のように「こんなのできたらいいな」という思いつきでも行動に移すことで、今まで1人では出来なかったことが、大学の支援と自分たちの創意工夫次第で実行できる楽しさややりがいを感じました。はじめから綿密な計画を練らなくても、活動の中で新たな課題や習得できていくこともあるので、挑戦してみると何か面白いことが起きると思います！

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

最初に活動を企画した時、特に地図に関する部分で情報系の知識がなく、どう進めるべきか分からなかった。しかし、過去の類似した活動について教えてもらったり、情報分野に精通している方を紹介してもらったことで、とても助けられた。

またシンポジウムやラジオなど様々な広報の機会を与えてもらったのは、活動自体の広報は勿論、自身の体験としても貴重な経験になった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感ありましたか？⇒4

● 展示会を身近にしよう (24019A)

T-ACT プランナー 岩田 悠佑 (生物学類3年)

活動目的

本企画の目的は、主に芸術鑑賞に関心を持たない人を対象として、直感的な鑑賞体験を通し、芸術を身近に感じてもらうことにある。

ここでの直感的な鑑賞体験とは、専門知識を必要としない鑑賞を通して獲得されるものを指す。私は、未就学児が芸術鑑賞を通して得る好悪の感情や五感に基づくイメージの想起を、直感的な鑑賞体験の代表例として捉えている。

勿論、未就学児に限定されず、例えば成人であっても、直感的な鑑賞体験は誰にでも可能である。

直感的な鑑賞の要件はごく少なく、先に好悪の感情や五感に基づくイメージの想起として挙げた、鑑賞者内部の動きに本人が自覚的であればよいと考える。

ここで話題を変え、私が本企画を思いついたきっかけである、「芸術の難しさ」について触れたい。芸術に対する親しみは、人によって様々である。私は大学入学以降、芸術に関心を持たないという学生に、その理由を聞くようにしている。自身との認識の差を感じ、興味を持ってのことだが、要約すると総じて以下のような返答を得ることが多い。

「芸術の鑑賞は意図やメッセージ、技術を理解する知識が必要であり難しい」

芸術鑑賞は難しいという意識があるために、主に芸術に触れる場となる展示会や美術館へ足を運ぶことが少なくなり、また芸術に対しても関心を抱きにくい人が一定数いるようである。

私は、このような理由のために芸術から距離を置く人がいるのであれば、惜しいと思う。ここで示した「芸術鑑賞の難しさ」について掘り下げると、芸術の鑑賞には専門的な知識が必須であるという誤解が見えてくる。確かに、彼らの言う「難しい鑑賞」は芸術鑑賞の重要なスタイルの1つである。しかし一方で、芸術の鑑賞方法は決してこれ1つには限定されないことは、恐らくは広範に認められることであると考ええる。冒頭に挙げた「直感的な鑑賞」も歴とした鑑賞方法であり、この要件の低さを考慮に入れば、芸術鑑賞にあたっての障壁は必ずしも高くはないと評価できる。

したがって私は、芸術の鑑賞は誰にでもできること、必ずしも難しいものではないことを伝える展示ができないかと考えた。芸術鑑賞に専門性が必須であると考え、難しさを感じ、結果として芸術鑑賞の機会から遠ざかる人に対し、展示を通して「直感的な鑑賞」を提案することができないだろうか。直感的に芸術を鑑賞する体験を通し、芸術を身近に感じてもらうことはできないだろうか。

本企画は、直感的な鑑賞体験を誘導できる工夫を予定している。最も大きな点としては石の広場で展示を開催することである。石の広場は、筑波キャンパスの日常においては通路としての側面が大きい場所であると考えている。本企画における展示は写真作品を主軸とするが、石の広場は一般に写真作品の展示に好適な場所であるとは言い難く、言葉を代えれば、写真作品の展示を行うような場所ではない。このような展示形態をとることで、本企画における展示は写真展よりも石の広場という空間を巻き込んだインスタレーションとしての側面を強調することになる。そこに唐突に出現した作品は、事前に展示を知らない通行者の立場では、一見すると異物として認識されると予想する。作品として認識されるためには、展示の実態がある程度把握できるほどの距離へ近づくか、作品に対して十分に意識を向けることが必要である。日常的に見慣れた広場における異物に対しては、その正体の確認のために注目を向ける通行人が一定以上いると予想する。そして、このような注視をきっかけとして、作品は通行人を半ば強制的に鑑賞状態へ誘導することができる。また石の広場と言う日常的な空間、その瞬間が日常の一時であるという通行人の状況は、専門性の高い鑑賞を行おうとする意識をもたらすよりも、短期間で下される直感的な鑑賞を誘導しやすいものと考ええる。

これは、「芸術鑑賞の難しさ」に関連して聞き取りを行った中で、展示室という空間に対して入りにくさを感じるという声があったことへの配慮を含む。展示室に入ることには障壁が存在することは、鑑賞体験が生じるよりも以前の問題であり、本企画が克服すべき重要な課題の1つである。

本企画の目標は、展示を通して直感的な鑑賞法の提案を行い、芸術鑑賞に難しさを感じる人に芸術への親しみを覚えてもらうことである。しかし、将来的には鑑賞のみならず、表現にも関心をもつ人が、専門性の有無に制限されることなく表現に踏み出す場、グループ展を開催したいと考えている。私は、生物学類の所属であり、過去に芸術を専門的に学んでいた経歴も持たない。その一方で、芸術を常に身近なものとして親しみ、自身でも表現することに強い関心を持っている。芸術を専門としているという背景を持つことは、芸術に取り組む上で非常に強力である。しかし、専門的な背景を持たないことが、芸術に取り組みたいという意志の障壁となることは好ましくない。しかしながら本企画のような写真作品の展示をはじめとして、展示には労力やノウハウを必要とす



る側面があることは事実である。グループ展を企画したいという意図はここにある。私は、ノウハウの共有が容易であるグループ展であれば、将来的に個人、または他のグループにおいて展示会を開催し、自身の表現を発表する場を設ける難易度を下げることには貢献できるのではないかと考えている。展示会のノウハウを蓄積する、いわば予行練習のような場としてグループ展を設けることによって、芸術を専門とした背景を持たない人であっても、生涯芸術に親しみをもち、参加する側でもあり続ける手助けとなることを期待している。これらを踏まえ、本企画では将来的に継続して展示を開催する際の課題を洗い出し、グループ展の企画をブラッシュアップすることも目的の1つとして定めたい。

具体的な活動計画

【展示テーマ】

「知覚の余地」

日常を生活するということは、知覚の連続である。人は環境の内の一部を知覚して生活しているが、知覚の対象とならなかった部分には関心を向けないことが多い。本展示では、生活する環境に無尽蔵に存在する知覚され得る対象、これを「知覚の余地」と呼称し、展示を通してこれを鑑賞者に提示する。

簡易な言葉で言い直すと、知覚していないだけで存在する潜在的な要素が日常には膨大に存在していることを知ってほしい、ということが目的である。

直感的な体験に関連するテーマである。展示会に難しさを感じてほしくないという本企画の目的も踏まえ、是非、SNSの写真のように直感的に鑑賞してほしいと考えている。

【展示内容】

- ・石の広場で写真を中心とした作品の展示を行う。
- ・厚手のファインアート紙にプリントした写真を20枚前後、石の広場に展示する。
スチレンボードを重ねて土台を作成し、地面から平行に5cmから10cmの位置になるようにプリントを設置する。
- ・プリントの大きさは最大でA4を検討している。形状はタイルをモチーフとするが、四角形には限定しない。
- ・プリントは中央図書館側から見て左手中央のスペースに、1m以上の間隔をおいて等間隔に設置する予定である。総体としての形状は未定。

また広場の水飲み場付近に木製パネルを用いた写真パネルを展示する。パネルの大きさはA0、又は全倍(600mm×900mm)、枚数は3枚ほどを予定している。

この他、写真を用いた立体造形物を1点展示する。

【期間内のスケジュール】

- 2024年11月10日 活動開始
- 11月11日 施設課へ石の広場利用に関する問い合わせ
コンセプト、テーマ打ち合わせ
- 11月14日 コンセプト、テーマ最終決定
撮影開始
- 11月15日 撮影データ共有、制作内容打ち合わせ
- 11月22日 撮影データ共有、制作内容仮決定、制作開始
- 11月29日 撮影データ共有、制作進捗共有
- 12月6日 撮影データ共有、プリント作成、苗カパー選定および購入
- 12月13日 スチレンボード加工、現場確認（石の広場）
- 12月20日 制作締め切り、現場確認、当日シフト確認
- 12月24日
- 7:00 展示設営開始
- 8:00 展示開始
- 20:00 スタッフ撤収
- 12月24日
- 8:00 展示開始
- 18:30 展示終了、撤収開始
- 19:30 撤収完了、解散



※展示期間の8:00～20:00はスタッフ常駐。スタッフは募集を検討中。

展示時間中に石の広場に常駐する。作品の汚損や持ち去りの監視、特に作品が風で飛ばされる、倒れるなどした際に、周囲に危険な状況とならないように対応、復旧作業を行うことが中心的な仕事になる。

一般的な展示会のように監視の存在を主張することはせず、その場に居合わせた通行人のようにふるまっ

しいと考えている。作品の状態に目が届く範囲内で、自由に過ごしてもらいたい。
石の広場での常駐はシフトを組んで実施する予定である。
また、展示の設営および撤収をサポートしてくれるスタッフの募集も検討している。

1月10日 反省会
活動終了

活動場所

- ・1C104暗室
- ・石の広場

活動期間

2024/11/10～2025/01/31

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：二村祥太（医学類3年）

P：中田和人（生命環境系）

備考

雨天時には苗ドームを用いて作品を保護する予定である。プリントは地面から距離を有するため、ドーム下部からの水の侵入は問題としない。スチレンボードはタイル対応、はがすことができる両面テープを用いて固定する。強風時は通常の接着のみで問題ないと推測されるが、雨天時の強風では苗ドームの縁に重りを固定して対応する。

展示時間中は1名以上が石の広場に常駐し、作品の持ち去り防止や天候への対応を行う。天候を含む作品の汚損に対しては、監視およびカバーの利用によって防止を試みるが、汚損が発生した場合でもそのまま展示を続行する。スチレンボードの土台が破損した場合には、修繕を行う。



活動報告

実際の活動内容

展示は2024年12/24-12/25、および2025年1/21-1/24の日程で2回行った。いずれの展示でも、中央図書館横の石の広場にて、A3の木製写真パネルを複数、A0の木製写真パネルを1点展示した。写真パネルはコンクリートブロックを土台として、地面に対して平行に15cmの高さで展示した。

12月の展示を踏まえ、1月の展示では作品を追加した。「知覚の可能性」のテーマのもと制作した一連の作品には、自由な鑑賞の余地を引き出すことを目的として抽象的なモノクローム写真を採用した。しかし鑑賞者の様子をうかがっていたところ、一定の効果を感じた一方で、かえって鑑賞に対して難しいという印象を与えてしまう可能性が浮上した。これは本企画の目的に正面から反するものであるため、被写体が明確で、鑑賞の仕方によって静止画である写真から動きを感じるように工夫をほどこした作品を追加することにした。

屋外での実施にあたっては天候の影響が予想以上に大きく、特に風は作品の損壊に加え、周囲への被害へ繋がる可能性があったため、非常に気を遣った。パネルを土台に接着することで解決したものの、対策に要する時間が特に長く、設営や撤収の負担となった。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒75%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

- ・風に対して作品を固定することに苦慮した。
- ・毎日の設営と撤収に時間と労力を要した。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

- ・土台としたコンクリートブロックとパネルを強力に接着することで解決した。
- ・設営と撤収はT-ACT推進室から台車を借りることで効率的に進行できるようになった。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

本展示会では、芸術や写真に対しての興味関心に関わらず、様々な人に作品を見てもらうことを意識したが、石の広場という本来は展示を行わない環境の利用は、特にこれに寄与したと感じる。

展示内容に関しては企画の目的を最大限に達成できるように検討を重ねてきた自信があったが、しかしこれに囚われすぎ、自分自身が制作を楽しむことから遠ざかってしまったとも感じた。したがって年明け後に追加した作品は自身が面白いと感じるかどうかに重点を置いた。実際に展示を行うと、追加した作品の方に評価が集中しているように見受けられ、当初の展示内容に対する部分的失敗を確信した。この経験から、企画当初の意図が、活動の中で簡単に見失われ得ることを体感した。本企画の目的は、平易な言葉を用いれば芸術の鑑賞の楽しさを体験してもらうことであった。この中で自分自身が取り組みに対する楽しみを損なうことは本末転倒のようにも思われる。これに対して年明けの展示から修正を図ることができた点は評価したい。

展示活動は本企画に留まらず、継続する予定である。今後の活動においては、当初の目的に都度立ち返り、様々な鑑賞者のみならず自身も表現に一層親しむことを可能とする企画を行いたい。

参加者への影響

オーガナイザー 二村祥太さん

以前は、自身の感性にのみフォーカスして写真を撮影していたが、この企画を通じて、自分が撮影した写真が他者に与える印象や、写真が展示される環境によってその受け取られ方が大きく変わることを身をもって実感した。ただ単に写真そのものを追求するのではなく、写真が最終的に鑑賞者にもたらす感情の動きを想定して撮影するという新たな視点が生まれたのは、大きな発見だった。

また、一枚の写真であっても、展示方法を工夫することで組写真のような文脈を生み出せることに気づき、その可能性の広がりにも魅力を感じた。さらに、写真を見る人が展示を通じてどのような行動をとるのかを予想し、それをコントロールする手段としての写真の活用も、新たな選択肢として加わった。

アンケート等を実施しなかったため、鑑賞者の感想を収集することができなかった。アンケートの不実施は、企画の内容に沿ってのことであったが、フィードバックの実施が十分に進行することができないデメリットは大きいと感じる。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

屋外で展示系の企画を行う場合は天候に抗いぬく覚悟を。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

大学のキャンパス内、それも広場と言う公的な場で作品の展示をする機会は、T-ACT でなければ得ることができなかったものである。またプリンターなど、個人では運用が難しい備品を借用できたことで、2人の大学生のみの場合よりも展示のクオリティを追究することができた。また企画のあらゆる段階において、T-ACT 推進室の先生方に相談に乗っていただける環境は、企画の実現に対して大きな助けとなった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒4



自分だけの紅茶タペストリーを作ろう！（24020A）

T-ACT プランナー 東海林 暁（芸術専門学群1年）

活動目的

私は紅茶がとっても好きだ。疲れた時や1日の締めとして飲むと、頑張れるような気がしてくる。しかし未だ一番好きだと思える紅茶を見つけることができていない。たくさんのフレーバーを試す機会を作ることで、私のようにお気に入り紅茶を見つけられていない人、なんだかいつも飲んでる紅茶に飽きてきてしまった人に刺激を与えられるのではないかと考えた。

また、私は芸術専門学群に所属しており、ものづくりに関心がある。筑波大学は美術系の学科がある数少ない大学であり、その中で普段なかなか芸術系の授業を取ることをできない人がものづくりを体験、楽しめる場を提供したいと考えた。

■活動の目的

寒い時期にみんなと紅茶を飲みながら、クラフトを楽しみ交流を深める。

- ①たくさんの紅茶のフレーバーを味わい、自分のお気に入りの茶葉を見つける。
- ②工作を通してクラフトの楽しさを知ってもらう。
- ③ワークショップを通して紅茶好きの交流を深める
- ④冬季鬱防止のため、冬の楽しみを作る

元々この企画はクリスマスのアドベントカレンダーを作成するワークショップを立案し開催したかったが、今年は日数の問題で断念。来年度は企画の改善点や良かったところを活かして再び企画を行いたいと考えている。

冬季は特に気分が落ちがちなので、紅茶が生活の中のちょっとした楽しみになることも目指している。

具体的な活動計画

●活動内容

紅茶を楽しみながら紅茶タペストリーを作るワークショップを行い、参加者間の交流を深める

●スケジュール

11月20日～ 企画立案・申請書作成

11月下旬 オーガナイザーミーティング

SNS、ポスターは東海林が主に担当する。投稿文、画像の制作の一部をオーガナイザーに依頼

12月上旬

- ・呼び込みのためのピラ貼り、Instagramでの広報活動を行う
- ・Google フォーム（申請承諾後制作）を通して参加者を集計する
- ・活動に必要な物品の買い出し

～1月～

1月20日 開催（予定）

1月下旬 振り返り・報告書作成

活動の振り返りミーティング：

オーガナイザーらと参加者から取ったアンケート、実際に活動してみて思ったことを議事録にまとめる。

●大まかな動き 立案 → 紅茶・素材の買い出し → 実施

- ・参加対象：学生、教職員
- ・開催日時：1月20日 13時～15時
- ・開催場所：検討中（場所が決まり次第広報で発表）
- ・参加方法：ポスター、SNS 掲載の Google フォームから応募

●当日の動き（仮）

13:00 会場集合

13:10 流れの説明＆自己紹介（→好きなティーパック紹介）

13:20 タペストリー用の紅茶選び＆お茶会

14:00 クラフト開始

棒に紐をかけ → 茶袋に紅茶を入れ、折りたたみ穴あけパンチ → 装飾

15:00 完成＆解散

活動場所

5C301を予定 予約できなかった場合は他の5C棟の教室かグローバルビレッジの共用スペースを予定（教室予約が可能になり次第、1ヶ月前になったら予約を行う）

活動期間

2024/11/17～2025/01/31

対象

学生・教職員

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：太田早紀（社会学群1年）、林路子（芸術専門学群1年）、竜田みなみ（芸術専門学群1年）

P：村上史明（芸術系）

備考

- ・参加者は参加費（500円）とおすすめのティーパック（売り物で包装されているもののみ）を持参
- ・タペストリー作成に必要な材料および紅茶購入代として、参加費500円を収集する



活動報告

実際の活動内容

- ・ポスター、SNS 等での宣伝活動 1月7日～20日まで
- ・ワークショップで使用する紅茶、装飾の買い出し 1月8日
- ・ワークショップでの工作（写真参照）1月20日

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒100%

実施中の困難と解決策**実施中に困ったこと**

広報活動の方法・拡散方法など、未経験のため勝手がわからなかった。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

T-ACT のサポートやオーガナイザーの協力に頼った。

活動の体験について**自分にとってどんな体験であったか**

参加者の人に楽しかったと言ってもらえたのが何よりも嬉しかったです。企画準備を通してさまざまな紅茶に触れることができ、紅茶に対する知見が広がりました。また、ワークショップで制作するタペストリーが、参加者によってさまざまな個性を持っていて見ていてとても楽しかったです。私にない視点をたくさん見ることができました。次回開催する際に参考にしたい点がたくさんありました。10人で紅茶合計120個で補た気がします。人数を増やしての実施も検討したいです。

また、参加者との会話の中で、芸術ってかなり閉鎖的なのでは？と改めて感じました。積極的に芸術と触れる機会を多くの人に提供できたら良いなと思います。そしてその体験が、参加者にとって生活の中の小さな幸福であって欲しいです。

参加者への影響

参加者の芸術専門学群の生徒は自分も T-ACT を通してワークショップを開催してみたいと言っていました。ワークショップを実施する難易度を少し下げられたのかなと思います。私も芸術専門学群の人が主催するワークショップに行きたいのでぜひ開催してほしいです！

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

オーガナイザーの人に申し訳ないと思っても、頼ることが大切！自分一人だけで作り上げることは難しいので、積極的に何かをお願いしましょう！

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

広報活動の面でのサポートが大変助かりました。広報活動の時期が遅く、もしかしたら集まらないかもしれないと思っていたのでポスターの掲載、SNS での拡散などがとてもありがたかったです。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



● 院生ひろば：大学院生同士がつながる場の模索（24021A）

T-ACT プランナー 滝波 俊平（グローバル教育院ヒューマニクス学位プログラム4年）

活動目的

学内公認団体である、わたしたちつくば院生ネットワーク（Tsukuba Graduate student Network; TGN）は、2011年に筑波大学のあるべき姿に共通の問題意識を持った大学院生が、偶然出会い、各々の問題解決のため、そしてより大きな課題解決へと向けて立ち上がりました。その活動の一番大きな目的は異分野交流を促進することです。

TGN が実施してきた企画で最も盛り上がったのが、「院生プレゼンテーションバトル」です。概要は自分の研究内容を専門の異なる人に「分かりやすく、魅力的に」伝えるプレゼンテーション技術を競うというものです。当時この企画を行っていた人に良かった点と反省点は何かを聞いてみたところ、良かった点として盛り上がって学生の活動として楽しかった点、反省点として、本当の異分野コミュニケーションは生まれなかった。ということ挙げていました。

分野を超えたつながりはどうやったら生まれるのか？ということをも TGN のメンバーで議論し、改めて考えた結果、出てきたアイデアは「異分野コミュニケーションの前に院生間コミュニケーションが必要なのではないか」ということでした。

そもそも、大学院生にはコミュニケーションの機会が圧倒的に不足しているのではないかと考えています。確かに、私の周りでも大学院生のが博士の先輩が居なく、自分の研究や日々の生活のちょっとしたことを話せる人がいないということをよく聞きます。知り合った院生に TGN の活動を話すと、興味を持ってくれる人々が大半です。

そこで、TGN が今行う活動として、研究室外に繋がれる場を作り、その存在をもっと認知していくことが必要なのではないかと考えています。

このような経緯で考えた企画が、この「院生ひろば」です。院生ひろばでは、どんな場所でどんな仕掛けがあれば院生同士は意味のあるつながりを作っていけるのかを模索する企画を提案していければなと思っています。

具体的な活動計画

では、具体的に何をしていくのか？

まだまだ手探りの状態ではありますが、まずは以下に行ってみようと思っています。

日時：3/12（水）13:00～14:00（期末試験・論文提出が終わったあとの余裕のある平日）

場所：グローバルヴィレッジ 2F の広いスペース（収容人数50人程度）

内容：

【参加者にイベント前にしてもらうこと】

1. 希望テーマの選択と事前アンケート

- ・キャリア（進路選択、インターンシップ経験、企業研究など）
- ・研究（研究手法、論文執筆、学会発表、研究生活など）
- ・日常（研究室生活、趣味、ワークライフバランスなど）

から1つ選択し、具体的に話したい内容を以下の Google フォームで回答してもらい、その内容をもとに決定。

<https://forms.gle/Z3fbquT43VWrRUu68>

2. グループ分け

- ・異なる研究科・専攻からメンバーを混ぜつつ、似た関心を持つ人々で4～5人のグループを形成

【イベント中の進行】

・オープニング・アイスブレイク（10分）

アイスブレイクは自己紹介と簡単なワークショップを予定

以下のようなサイトを参考に一つ選び実施します。

<https://www.faj.or.jp/facilitation/tools/>

- ・メイントーク（40分）
- ・テーマに関する経験共有（15分）
- ・グループディスカッション（15分）
- ・全体共有（10分）
- ・クロージング（10分）

【イベント準備】

準備期間である2月2週目までには宣伝用のフライヤーデザインを作成しおわり、2月3週目からSNSや大学院生のチャンネルでフライヤーを使って告知し参加者を募集していきます。また、TGNの別のイベント時に

イベントの告知をするなどして参加者を集めていきます。

活動場所

グローバルヴィレッジ 2F

少人数の場合は総合研究棟 D205

事前申し込みは下の Google フォームから。

<https://forms.gle/Z3fbquT43VWrRUu68>

活動期間

2024/12/09～2025/03/31

対象

学生

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：古賀愛実（理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 知能機能システム学位プログラム 博士後期課程 1 年）

P：安倍隆虎（ヒューマンエンパワーメント推進局）

備考

事前アンケートでは、建設的な対話を促すために、大学院生活をより良くするためのアイデアをブラッシュアップするために話したいことを聞くことで希望するトークテーマを募集したいと思います。

また、当日のガイドラインとして、次の 3 つを掲げます。

- ・批判ではなく建設的な提案を行うこと
- ・個人を攻撃する発言を禁止すること
- ・話したくないことは話さなくて良い

また、1 グループに対して TGN メンバーが一人ファシリテーターとしてつくことで、テーマがネガティブな方向に転びすぎそうな場合の軌道修正を図ります。

- ・軽度の問題行動（ガイドライン違反、強い個人の思想に基づく発言など）があった場合はファシリテーターによる注意を行います。
- ・改善されない場合は別室での個別対応し、必要に応じて適切な相談窓口を紹介します。
- ・傷害行為などの深刻な問題行動があった場合は即座にイベントから離脱させます。

相談窓口は以下のような場所を想定しています。

- ・学生相談室：精神的な悩みや適応の問題、ハラスメント
- ・保健管理センター：健康面の問題
- ・各学類・研究科の相談窓口：学業関連



活動報告

実際の活動内容

イベントの準備

- ・フライヤーのデザインと作成
- ・イベントページの作成と広報
- ・イベントのための Google Form 作成
- ・トークテーマサイコロの 3D プリント
- ・トークの座組の考案
- ・グローバルヴィレッジ 2F の使用申し込み

当日のイベント

- ・12人参加者が集まったので、6人ずつ2グループに分担。
- ・6人1グループで卓を囲んで、1人ずつ順番にサイコロを振る。
- ・出たサイコロのトークテーマに沿って話す。
- ・他の参加者は話を聞いて自分の話したいことや質問を行う。
- ・1周するだけで90分程度経過したので、写真撮影



企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒100%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

- ・スケジュールに余裕がない中での広報
- ・単純なトークでは面白い集まりにならない予感がした

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

- ・団体、自分の使える広報をフル活用した。(X,HP,Teams, 知り合いへの DM など)
結果、さまざまな媒体きっかけで人が集まり有意義な交流となった。
- ・テレビ番組でよく使われるトークテーマサイコロを自作した。
結果、トークに行き詰まることなく、開催時間いっぱいまで楽しい時間を過ごせた。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

今回の院生ひろばは、専門を超えた大学院生の集まり方の一つの方法として手応えを感じた、自分にとっても有意義な体験でした。

今年度初めから分野を超えた大学院生団体の代表を務めました。モチベーションとして、専門分野のみに視野の矮小化しがちで、他分野との交流が途絶えがちな大学院生の間で有意義な交流を企画することがありました。初め企画していたのは、今回の形式とは全然違う企画だったのですが、現状に即していない企画だと判断し、途中で進路変更し、院生間での交流を全面に打ち出したこの企画に変更しました。

ただのトークでイベントとして盛り上がるのか、そもそも人が集まるのか、注意点は何か、など不安点や懸念点も多い中企画を進めていきました。

T-ACT 担当者の李先生との何度かの話し合いの末、ようやく承認が通ったのですが、博士課程は忙しく、研究やキャリア開発やちょっとしたお小遣い稼ぎなどをしていたらあっという間に時間が過ぎていきます。

そんな中でも最善を尽くし、メンバーの方に広報を手伝ってもらったり、少しでも効果のありそうな手段を使いました。最終的には久しぶりに院進した知り合いに声をかけるなんて泥臭いこともしました。

T-ACT 審査官の先生の助言にヒントを得て、トークメインでも面白いイベントにできる開催の方法を思いついたのが良かったです。

結果として、参加者も自分含めて12名と多くの人が集まり、またさまざまなテーマの下、各人が話し合いを楽しんだり有意義な情報交換ができたのではないかと考えています。

来年度も、専門を超えた大学院生の集まり方を提案していきたいと思っています。

参加者への影響

参加者の感想

普段は自分の研究室と同じ分野の人としか話さないから、全然違う研究をしている人たちと交流できて新鮮だった。みんな似たような悩みを持ってるんだなって共感できた。トークをメインにした企画だったけど、思ったより盛り上がって面白かった！参加者も12人もいて、いろんな学部からきてたのがすごい。

研究の話だけでなく、奨学金情報やバイトの情報、学内の穴場スポットなんかも交換できたのは予想外の収穫。研究以外のコミュニティとして参考になった。

・企画に関わってくれた人の感想

正直なところ「トークだけで人が集まるかな？」って少し心配だったが、異なる専門分野の人たちが熱心に話し合う姿を見て、「この企画、本当に意味があるんだ」って実感できた。分野を超えた交流の大切さを学べた貴重な経験だった。

未来のプランナーに伝えたいことがあれば自由どうぞ

着手の早さは正義だなと思います。長期休暇の期間と被ってしまうと参加できない人が増えてしまうので、最初に日程を抑えてそこに向かって準備を進められるようにするのが理想です！

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

広報のときに、T-ACT の承認印があると、きちんとした企画だと思ってもらえるので、声をかける時のハードルを少し下げてもらえてよかったです！あと、イベント時の小道具貸してもらえて助かりましたし、企画の壁打ち役になってくれたおかげで途中で挫折せずに済みました。

承認までの時間をもう少し早くできるような仕組みをとってもらえると大変助かります。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



● 新生活応援フリーマーケット (Flea market to support your new life) (24022A)

T-ACT プランナー 田中 大輔 (システム情報工学研究科サービス工学学位プログラム2年)

活動目的

リサイクル・リユースの促進及び創作活動の支援、新年度での生活を豊かにすることを目的とし、フリーマーケットという自由な売買交流の場を学生に提供します。

卒業や引っ越しの際に処分するであろう古着・古本、小物雑貨類などを収集し、新生活の準備が必要な新入生や留学生の負担を少しでも減らせるようにと春休み頃の開催を目標としています。また、自主制作を行っている方には、年度末の集大成として作品やハンドメイド雑貨を出品してもらいたいです。

主に以下のことに取り組みたいと考えています。

- ・卒業生や留学生、在学生向けの古着・古本、小物雑貨類などの回収と出店
- ・自主制作の作品の販売（学類問わず）
- ・地域の農作物の販売
- ・演奏、ダンス等のパフォーマンス

昨年のドイツ留学中に留学生としての困難を経験し、これからつくばに来る留学生の力になりたいと考え始めたことが本企画のきっかけです。もし興味がある方がいましたらお気軽にご連絡ください。

具体的な活動計画

フリーマーケット開催日：

3/29（土）、予備日 3/30（日）

→ 雨のため、3月30日（日）に開催することになりました！

イベント開催までの流れ：

- | | |
|-------|---|
| 1 月内 | SNS アカウント・出店者募集ポスター制作、運営募集 |
| 2 月上旬 | フリーマーケットに参加したい出店者を募集、イベントポスター制作 |
| 2 月下旬 | 場所の決定、テント 5 張使用予約（学生生活課）、その他の物品予約（T-ACT）、再度出店者募集・イベント宣伝 |
| 3 月 | 出店者募集締切、設営準備 |

イベント当日の流れ：

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 08時 | 運営メンバーによる設営準備開始、(出展者) 搬入開始 |
| 10時 | (参加者) 受付開始 |
| 16時 | (参加者) 受付終了、(出展者) 搬出開始、運営メンバーによる設営撤収開始 |
| 17時 | イベント終了 |

※出店希望者は、備考の「新生活応援フリーマーケット出店要項」をよくご確認の上、参加申込みを行ってください。

※イベント参加希望者は、備考の「新生活応援フリーマーケット参加にあたってのお願い・注意事項等」をよくご確認の上、参加申込みを行ってください。

活動場所

運営メンバーの打合せ、事前準備：オンラインまたは学内教室（予定）

イベント開催場所：石の広場（予定）

活動期間

2025/01/20～2025/03/30

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：星野文香（国際総合学類 3 年）

堀口達葵（システム情報工学研究科社会工学学位プログラム 2 年）

P：和田健太郎 准教授（システム情報系）

備考

参加方法：出店、参加ともに Google フォームに記入する形で申し込みを行っていただく予定です。公式 SNS 等でお知らせします。

【新生活応援フリーマーケット出店要項】

「新生活応援フリーマーケット」に関する禁止事項及び注意事項等です。出店希望者は、当日トラブルがないよう熟読の上お申込み・ご参加ください。

出店対象者：出店者は本学（大学院を含む）の学生、教職員、研究者のいずれかであること。

（１）出店お申込み

本要項に同意された方のみ申込みを受付けます。ブースの又貸し等、申込者と出店者が異なる場合は、出店をお断りさせていただきます。また、虚偽の内容で申込みされていたことが発覚した場合、出店を取り消すことがあります。出店場所に関してのご希望はお受けできません。

出店者の都合によるお申込みの変更・キャンセルがあった場合は速やかにプランナーにご連絡ください。出展申込の際にご連絡頂く個人情報については、新生活応援フリーマーケットの出店管理・コロナウイルス感染症感染拡大防止の為に連絡時等に使用させていただきます。

新生活応援フリーマーケット運営からの連絡は、基本的に T-ACT 企画ページ、メール、公式 SNS より行います。登録した連絡先（メールアドレス等）に変更があった場合には必ずプランナーへご連絡ください。メール未着等によるトラブルについては、運営は一切責任を負いません。

（２）出店に関して

搬入について：

3月29日（土）8:00～搬入作業を開始可能。参加者受付が始まる10時までに原則搬入作業を完了させてください。

搬出について：

3月29日（土）17:00までに搬出作業を完了させること。※出店の際に出たゴミは各自でお持ち帰りください。販売禁止品目：

1. コピー商品（著作権侵害物）、商標権（キャラクター等）や著作権を侵害した作品
※著作物については版權所有者に確認をとった上でご使用ください。
2. 盗品や法律で禁じられている物品
3. 風船、動物、医薬品、嗜好品、飲食物（ペットフードを含む、飲食物全般）・刃物・エアガン・アダルト関連商品・金券・教科書や授業内容を書き記したノート・汚れ破損した衣類、自作の化粧品（身体に使用する石鹸・香水など）等
4. 日本での所持、販売、譲渡が法律で禁じられている物品
5. 新生活応援フリーマーケット運営が販売に対して不適当と判断した作品
※新生活応援フリーマーケット運営スタッフが会場内を巡回し出店内容の確認を行ないます。上記販売品目を見つけた場合、撤去していただきます。

禁止行為：

1. 危険物の持込及び火気・発電機の使用
2. 社会通念上不適当と思われるもの、及び法律・関係諸条例に抵触する物品の持ち込み、販売、及び行為
3. 周囲の美観を損ねたり風紀を乱す行為および他の出店者の出展の妨げとなる行為
4. 『PR』『勧誘』『布教』『契約行為』を目的とした出店
5. 偽ブランドや海賊版・コピー商品などの違法商品、盗品、危険物、生き物、飲食品全般（新生活応援フリーマーケット運営が認めた場合を除く）、医薬品、嗜好品の場内への持ち込み、及び販売。また射幸心をあおるくじ引き類や、掛け売り行為など
6. 学内は全面禁煙のため喫煙不可
7. ブース外でのチラシの配布および客引き
8. 会場の床面にガムテープ等を貼る行為（剥せるテープ、養生テープ等は可）
9. 拡声器の使用
10. 会場内での調理
11. 開催時間前の物品・金銭のやり取り。また会期中の場内で他の出展者から購入した物を自分の出展場所で販売すること。
12. 新生活応援フリーマーケット運営が不適当であると判断した行為
※禁止行為を見つけた場合、退出していただく場合があります。

その他注意事項：

1. 出店品の返品や交換については出展者の責任において対応願います
 2. 出店品が完売した場合には、早閉まいを認めます
 3. 出店の際に出たゴミは各自でお持ち帰りください
 4. 大声での呼び込みなど周辺からクレームが出ないように販売してください
 5. 会場内では両替が出来ませんので、十分なつり銭をご用意ください
 6. 会場内での盗難や事故に関しては、新生活応援フリーマーケット運営では一切の責任を負いません
 7. 出展品の販売価格設定は各出展者に委ねます
 8. 天災等不可抗力原因（盗難・紛失・火災・地震等）による損失または損害に関して新生活応援フリーマーケット運営は一切責任を負いません
 9. 会場内での新生活応援フリーマーケット運営による撮影及び録画にご協力をお願いします（写真の使用権は新生活応援フリーマーケット運営・T-ACT に属します）
- ※本要項は、2023年3月に学内で実施された「ITF フリーマーケット」（T-ACT 企画承認番号：22016A）を基に新生活応援フリーマーケット運営が作成したものです。本企画に参加する者は上記の条件を全て満たしている必要があります。

【新生活応援フリーマーケット参加にあたってのお願い・注意事項等】

「新生活応援フリーマーケット」に関する禁止事項及び注意事項等です。本イベントの参加希望者は、当日トラブルがないよう熟読の上お申込み・ご参加ください。

イベント参加対象者：どなたでも参加いただけます。（未成年者の参加には保護者の同意が必要です。）

（１）参加お申込み

本参加にあたってのお願い・注意事項等に同意された方のみ参加いただけます。申込の際にご連絡頂く個人情報については、新生活応援フリーマーケットの出店管理の為に連絡時等に使用させていただきます。

新生活応援フリーマーケット運営からの連絡は、基本的に T-ACT 企画ページ、メール、公式 SNS より行います。登録した連絡先（メールアドレス等）に変更があった場合には必ずプランナーへご連絡ください。メール未着等によるトラブルについては、新生活応援フリーマーケット運営は一切責任を負いません。

（２）禁止行為

1. 危険物の持込及び火気・発電機の使用
 2. 社会通念上不適当と思われるもの、及び法律・関係諸条例に抵触する物品の持ち込み
 3. 周囲の美観を損ねたり風紀を乱す行為および他の出展者の出展の妨げとなる行為
 4. 『PR』『勧誘』『布教』『契約行為』
 5. 学内は全面禁煙のため喫煙不可
 6. 本イベントに関係のないチラシ配布および広報活動
 7. 拡声器の使用
 8. 会場内での調理
 9. 開催時間前の物品・金銭のやり取り。また会期中の場内で出展者から購入した物を会場内で販売すること
 10. 新生活応援フリーマーケット運営が不適当と判断した行為
- ※禁止行為を見つけた場合、退出していただく場合があります。

（３）その他注意事項：

1. 出展品の返品や交換については出展者の責任において対応致します
2. ゴミは各自でお持ち帰りください
3. 会場内では両替が出来ませんのでご注意ください
4. 会場内での盗難や事故に関しては、新生活応援フリーマーケット運営では一切の責任を負いません
5. 出展品の販売価格設定は各出展者に委ねておりますため、新生活応援フリーマーケット運営では値段交渉等の管理は致しません
6. 天災等不可抗力原因（盗難・紛失・火災・地震等）による損失または損害に関して新生活応援フリーマーケット運営は一切責任を負いません
7. 会場内での新生活応援フリーマーケット運営による撮影及び録画にご協力をお願いします（写真の使用権は新生活応援フリーマーケット運営・T-ACT に属します）

活動報告

実際の活動内容

2025年3月30日（日）に10時から16時の間で筑波大学石の広場を利用してフリーマーケットを開催しました。運営メンバーは私を含む3名、出店者は15団体参加していただくことができました。出店内容は、古着・古本、自主制作による焼き物、絵やキーホルダー、アクセサリ、規格外の野菜販売、DJによる演奏など多様なものとなりました。また、お客さんは出店者の友達や筑波大学新入生、在学生、卒業生、教員のほかに、在学生の家族など年代も様々な約50名以上の方々が参加されました。

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒80%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

本日は3月29日土曜日に実施予定でしたが、雨天のため延期することといたしました。結果延期した30日は晴天の中行うことができましたが、29日ならば出店できた方やお客さんとして来られていた方がいたことは残念でした。

解決をどのように図ったか、困ったことを解決できたか

まず悪天候時でも対応できるよう延期日を設けていたところは良かったと思います。加えて1週間前から天気予報を確認し、雨の恐れがあったので延期の可能性があることを前もって出店者さんに伝えていました。28日金曜日に最終的な延期の判断を行い、テント設営など雨天時に対応した状態にできたところも良かったと思います。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

ポジティブな面とネガティブな面があります。ポジティブな面としては無事にイベントを終えられてホッとしていること、延期した中でも出店者がほぼ（1団体は延期日での参加ができませんでした）出店していただいたり、お客さんが50名以上来場して下さったことに感謝していることです。今回初めてのイベント開催でそのような経験や出店者のつながりがゼロであったことからのスタートでした。そのため、何からやればいいのか、どのようなスケジュールで進めていくかも暗中模索のような状況でした。結果として過去にT-ACTでフリマを開催していた方に相談することができ、進めていくことができました。また、延期という状況の中でも対応していただいた出店者の方々には本当に頭が上がりません。準備や片付けなど自分だけの力では不可能でした。

ネガティブな面としては、広報活動をもっと上手くやれば良かったという後悔です。今回Xを用いて広報活動を行っていました。結果フォロワーは20人とあまり多くの人に伝えることができなかったです。動画や自分のフリマ開催における思いなどを発信することも効果的であったかなと今となっては思います。もし今度開催する際にはそのような点も考慮して頑張っていきたいと思います。

このような後悔はありますが、ドイツ留学をきっかけにしてフリマ開催を思い立ち、実行までやり切れたことは自分の中で大きな自信になっています。



参加者への影響

今回のフリマのメンバーは様々な学類の方々や留学生によって構成されていました。私が目指していた、芸祭フリマ（学園祭で芸術専門学類の方々によるフリーマーケット）とは異なり、様々な学類の方が参加できるフリマを作るという目的は達成されたかなと思います。メンバーと話していた時に、今回のような誰でも参加可能なフリマを来年も実施したいという声をいただき、嬉しく思います。また、新入生がお客さんとして来られた時に、メンバーがとても胸を熱くしていることにも感動しました。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

もし来年度もこのようなフリーマーケットを実施したい方がいましたらぜひメールなどで連絡ください。できる限りアドバイスやサポートなどでできればと思います。T-ACTは自分の「やりたい」を一緒に考えて周りに広げてくださる場所です。些細なアイデアでも良いのでぜひ相談してみてくださいね。応援しています！

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

様々な相談に親身になって答えてくださり本当に力になりました。物品等も貸し出ししていただき、ありがとうございました。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒5

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒5



写真展「2021-2025」(24024A)

T-ACT プランナー 久保 陽太郎 (人文学類4年)

活動目的

大学生として過ごす期間は、多くの人にとって、自身を取り巻く環境を容易に変えていくことができ、時間的な制約が少ないなど、人生のほかの時期と比べて自身の生活を自由に設計できるという特徴を持っている。そういった高い自由度の中で私たちは写真という趣味を継続して行ってきた。そのより詳細な内容は単に個人個人で異なるだけでなく、時期によっても変動し、撮影者のその時々志向を反映している。

大学生活のもう一つの特質として、他地域からつくばに来ている場合は特に、人生の前後の時期と明確に区切られ、隔絶されているということがある。その終端を迎えるにあたり、私はこの期間における写真活動について、展示という形でまとめようと考えた。

展示の観覧者としては、私たちと同じような大学生と、地域住民の方々の双方を想定している。前者に対しては自身がおかれた環境に意識を向けてもらうことを、後者に対しては地域におけるある種の異物である大学生という存在とその視点について知ってもらうことをそれぞれ企図するとともに、私たちが愛用する写真という媒体の魅力を広めることを目指している。

なお、参加者のうち2名は現3年生であるが、前掲の性質は大学生活の途中にあっても共通して存在するものであり、また、来年度も本展示と類似したコンセプトで展示を実施する構想がある。

具体的な活動計画

- 作品制作
各自実施 2月20日頃まで
- 進捗報告・意見交換ミーティング
週1回開催 1月30日実施、次回2月5日
- 会場確保
つくば市民ギャラリー 本予約済
- 広報
ポスター製作中 2月14日頃開始
学内 (T-ACT の支援を活用予定)・学外 (つくば美術館展覧会案内コーナー ほか)・SNS (各自)
- 展示実施
2月26日(水)～2月28日(金)
9:00(初日は13:00) 開場、17:00(最終日は15:00) 閉場

活動場所

つくば市民ギャラリー
1C104暗室

活動期間

2025/01/16～2025/02/28

対象

学生・教職員・学外者

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O: 美濃部玄喜 (芸術専門学群4年)
岩田悠佑 (生物学類3年)
二村祥太 (医学類3年)
P: 和田尚明 先生 (人文社会系)



活動報告

実際の活動内容

●展示実施

つくば市民ギャラリー

2月26日（水）～2月28日（金）

9:00～17:00（初日は13:00～、最終日は～15:00）

企画申請時の計画に対して、目標達成度は何%ぐらいですか？⇒80%

実施中の困難と解決策

実施中に困ったこと

特に思いつかない。

活動の体験について

自分にとってどんな体験であったか

4年間の振り返りを行いそれを外に提示するという目的はおおむね達成することができ、満足している。また、それぞれに割り当てた空間が壁一面ずつ+αと広く、それぞれの展示の全体構成を高い自由度をもって構想することができたという点もよい経験となった。

参加者への影響

他の参加者の展示を見ることは私にとってもその人について知ったり、より知ろうとしたりするきっかけとなった。このようなことが一般来場者の方々においても起きていれうれしく思うし、実際ある程度期待してよいだろうと考える。

未来のプランナーに伝えたいことがあればご自由にどうぞ

特に思いつかない。

T-ACT を利用して良かったと感じられたことや要望などを教えてください

ポスターの掲示を簡単に行うことができたことや、一部の作品の制作に T-ACT の設備を利用することができたことは非常にありがたかった。

自分はどのくらい成長できたと感じますか？⇒4

やりたいことができた充実感がありましたか？⇒4



学内の放置自転車を一緒に減らそう!プロジェクト vol.3 (3~4月) (23020V)

受入団体名: 筑波大学事業・リレーション推進室 (23008G)

活動内容

3/30に平砂宿舎に集積されている修理済み自転車を一の矢宿舎駐車場に運びました。学生ボランティア 2名、職員ボランティア11名で350台を運搬しました。

4/2 4/3 4/4 学生ボランティアが延べ5名、その他、学生交流課・グローバルcommons・事業・リレーション推進室、その他 T-ACT 以外の学生ボランティアが数名で自転車利用の申し込みがあった学生に引き渡し作業を行いました。

活動日・活動場所

活動のスケジュール

自転車の搬入日

①2024年3月30日(土) 場所: 平砂学生宿舎共用棟食堂

自転車の引渡し日

②2024年4月2日(火) 場所: 一の矢学生宿舎共用棟裏駐車場テニスコート脇

③2024年4月3日(水) 場所: 一の矢学生宿舎共用棟裏駐車場テニスコート脇

④2024年4月4日(木) 場所: 一の矢学生宿舎共用棟裏駐車場テニスコート脇

参加学生

T-ACT ボランティア: 5人(延べ人数)

活動報告

●受入団体担当者

これまで学生と接する業務に携わったことがほとんどなく、ボランティアを行っている学生と関わったことも初めてでした。参加者と話をして感じたのだが、各々参加の目的は違うのかもしれませんが、自分の参加できる範囲でよりよい環境づくりをという気持ちを感じられました。ボランティアに積極的に参加してくれる学生がいるということが、大学職員として嬉しく感じました。

●学生参加者: 桑原 侑(国際総合学類3年)

活動の成果

事業開発推進室の職員方とともに、平砂宿舎エリアの自転車を一の矢宿舎エリアの集積場所へ運搬しました。他のボランティア学生や職員方と交流し、様々な知見を得られたと思います。



つくばの森づくり 森林保全ボランティア体験！参加者募集（24007V）

受入団体名：つくばの森づくり（23009G）

活動内容

つくば市の市有林（高崎自然の森、筑波山・四季の道）と民有林（山口地区、臼井地区）の間伐、枝打ち、下草刈り、剪定、植樹などを行います。

森林保全整備をすることによって、光合成を促し、植生に栄養を与え、新たな植生の芽生えにつながり、森を元気にする活動です。

活動期間

2024年4月～2025年3月

参加学生

T-ACT ボランティア：2人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

筑波山四季の道に於いて活動を行いました。森林保全ボランティアの意義のレクチャーや、ノコギリ、剪定鋏を用いて枝払いや剪定、刈り払い機を用いての下草刈りをしました。また、活動地の散策もしました。

●学生参加者：匿名希望

活動の成果

森林保全の意義を学んだ後、刈り払機やのこぎりで草を刈ったり小枝を切ったりする体験をしたりチェーンソーを使っているところを見学したりしました。森林保全活動において下草刈りや間引きの重要性を実感するとともに、具体的な活動方法を知ることが出来ました。また、刈り払機を使ったことがなかったので、使い方を学ぶことが出来ました。

今後の課題

時間が短かったため、作業の体験は少ししかすることが出来なかったです。

●学生参加者：匿名希望

活動の成果

森林がどのように保全されているのかを実際に体験してみて感じる事ができました。

今後の課題

森林についての知識が浅かったため、より知識を身に付け、どの保全方法が適しているのかを自分で見極められるようになりたいです。



つくばの街で外遊び&居場所づくりをしよう！(24008V)

受入団体名：つくば de プレイパークひろめ隊 (23012G)

活動内容

「プレイパークをあちこちにつくって地域みんなの居場所にするこ」を目標に、プレイパーク、地域協働イベントを開催しています。

<つくいち de プレイパーク>

開催日時：通年毎月第2日曜10～13時前後（夏期は9時頃～）つくば市中央公園

<きつつきプレイパーク>

開催日時：通年毎月第4日曜15時～17時冬期は日没まで）研究学園駅前公園

活動期間

2024年6月～2025年3月

参加学生

T-ACT ボランティア：5人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

「きつつきプレイパーク」という放課後の外遊びの居場所で地域の幼児～小学生、保護者と共に約2時間ほど遊び過ごしました。プレイパークの理念である「自分の責任で自由に遊ぶ」についても事前に理解を深めていただいていたようで参加者への接し方も素晴らしかったです。参加者もとても楽しかったようで帰り際いつもよりも帰りがたい様子が見られたほどでした。

●学生参加者：島田 音（芸術専門学群2年）

活動の成果

子供達が自然の中で遊ぶ補助をすることで、外遊びと居場所づくりができました。

今後の課題

参加者とボランティア両方の人数を増やしていく必要があると考えます。



チャリティーサンタつくば支部 運営スタッフ募集 (24009V)

受入団体名：NPO 法人 チャリティーサンタつくば支部 (18005G)

活動内容

クリスマスイブ当日に、依頼されたご家庭にサンタクロースとして訪問し、プレゼントと親御さんから預かった子どもたちへのメッセージを届けます。子どもたちと一緒にクリスマスの思い出を作れる、素敵な活動です。また、年間を通して子ども食堂でパネルシアターなどのイベントを行っています。

活動期間

2024年6月～2025年3月

参加学生

T-ACT ボランティア：24人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

2024年9月よりサンタ訪問活動のための準備が開始しました。運営スタッフの学生さんには、応募されたご家庭や、ボランティアの方とのやり取り、支部からのプレゼントの作成、当日ボランティアの説明会・講習会の開催に取り組んでもらいました。それぞれが、自分の役割を全うしてくれました。また、2024年10月に子ども食堂にてパネルシアターとダンス、工作のイベントを開催し、子どもたちと楽しく関わりながらイベントを成功させました。

当日ボランティアの学生さんは、ボランティア説明会・講習会に参加していただき、サンタ訪問の練習を行いました。訪問当日の12月24日は、ボランティア同士の交流のためのアイスブレイクを行ったり、訪問前の最終確認とサンタ服の確認などをしたりしました。各グループに分かれての訪問では、それぞれ笑顔の写真を残しました。

●学生参加者：井上 もえな（社会・国際学群国際総合学類2年）

活動の成果

〈SNS 広報・刊行物〉より多くの方に自分たちの活動や困っている子供たちの存在を知ってもらいたいと思い、どうしたら多くの人の目にとまるのかを意識しながら広報を作成していました。具体的にはチャリティーサンタつくば支部のイベントに関するポスターを作成し、お店やイベントで置かせて貰いました。実際に自分の作ったポスターが他の方の手元に渡って興味を持ってくれたときは作ってよかったな、と達成感を感じました。

〈10月のイベント〉竹園土曜広場にて主に未就学児を対象とする子供向けイベントを開催し、その運営に携わりました。具体的には、イベントの内容（人間関係探し、工作、ダンス）を考え、その実行や会場準備・片付けをしました。子供たちにダンスを教えつつ、自分も一緒に踊ったり、子供たちが思いおもいに絵を描いて楽しんでくれているのをみてとてもうれしくなりました。工作の時間にはご家族が楽しめるように必要な物を用意したり、お写真を撮ったりしました。

〈12月24日〉チャリティーサンタのメインのイベントです。イブ当日にサンタクロース役の方とサンタクロースをサポートするサポートサンタの二人で、依頼のあったご家庭に出向き、子供たちにプレゼントを渡します。私はサポートサンタとして参加しました。ご家庭について、インターホンで鳴らし、サンタさんからのお手紙（サンタさんが来ることが書いてある）を子供たちと読み、サンタさんと呼びました。サンタさんが登場した後は、ご家庭のおうちにお邪魔し、サンタさんから子供たちが一年間がんばったことを褒めたり、来年がんばってほしいこと（これらはご家庭の保護者の方から事前に内容をもらっています）を伝えます。サポートサンタの私は、びっくりしているお子さんを動かしたり、サンタさんの手助けをしたり、ご家庭のお写真を撮ったりしました。また、行く道中や帰った後にご家庭に案内のメールを送りました。

今後の課題

団体の認知度が低いことです。



池の水を抜いて守ろう！生態系再生大作戦！（24013V）

受入団体名：一般社団法人 古河青年会議所（24012G）

活動内容

本事業は、茨城県古河市内の小学生を対象に、古河公方公園の池の水を抜き、外来種と在来種の選別、駆除を行うことで、池の生態系を回復させ、次世代の自然保護活動の担い手を育むことを目的としています。

当日は学生ボランティアを地域の高校生、大学生、ボランティア団体から募集をして主催者である古河青年会議所、テレビ東京スタッフ、公園スタッフ、学生ボランティアにて運営を行いました。

活動日・活動場所

- ・2024年9月8日
- ・古河公方公園

参加学生

T-ACT ボランティア：3人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

かいばりの補助を中心に事業全体にご尽力頂き、大変助かりました。とても真面目に取り組んでいる姿に我々メンバーも刺激を頂きました。3名の学生ボランティアのお陰で無事に事業を終えることができました。ありがとうございます。

●学生参加者：匿名希望

活動の成果

古河公方公園内の池の水抜きを行い、外来種の駆除とともに、子供たちが自然と触れ合う機会でした。

今後の課題

猛暑が続く熱中症の危険があるとして、途中魚の運搬が中断されました。人手で運ぶだけでは限界があると感じました。また、高校生ボランティアとの仕事の連携不足も感じました。事前に具体的な仕事説明があると、よりスムーズに動けたらと感じました。



ゴールドリボン 啓発イベント in つくば2024 (24014V)

受入団体名：HiStar'Snow Tsukuba (23014G)

活動内容

世界的な小児がんの啓発月間の9月に、つくばセンター広場にランタンでゴールドリボンを作り、小児がんと向き合うの人をみんなで応援するイベントを実施しました。

【イベント内容】

- ・映画「神様待ってお花が咲くから」上映会&トークショー
- ・小児がん支援のためのレモネードスタンド（チャリティー呼びかけ）
- ・ゴールドリボンランタンアート作成&点灯（オーケストラ演奏と共に）

【ボランティア内容】

- ・イベント準備（テント設営やランタン設置位置決め、映画上映会場の準備等）
- ・映画上映の誘導
- ・レモネードスタンドでの販売補助
- ・ランタン作成
- ・イベントに参加する子どもたちの見守り
- ・イベント趣旨の声掛け
- ・その他、イベント開催補助作業など

活動日・活動場所

2024年9月8日・つくばセンター広場

参加学生

T-ACT ボランティア：4人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

会場設営と撤収作業・レモネード販売補助・来場者の案内、映画鑑賞、ランタン制作と設置等を行いました。今後もレモネードスタンドに参加していただきたいので、一通り経験していただきました。みなさん最初は緊張しながらでしたが、暑い中、いろんな場を転々と動いてくれたおかげで無事イベントを開催することができました。事故や怪我もなく終えることができたことにも感謝です。

●学生参加者：小倉 瑞生（医学群看護学類4年）

活動の成果

レモネードの販売やランタンづくりの補助作業を行いました。これらの活動を通して、多くの人たちに小児がんの患児やその家族に向けた支援の必要性を伝えるきっかけになったのではないかと思います。自身も活動に参加したことで小児がんについての理解が深まり、対象の支援のニーズから具体的な支援方法についても見出すことができました。

今後の課題

イベントは主に屋外での活動で、当日は気温が大変高く熱中症の危険と隣合わせであったため、こまめな水分補給など自身の体調管理に配慮すべきでした。



工作実験講座イベントのサポートスタッフ募集 (24018V)

受入団体名：茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンスツアーオフィス (13002G)

活動内容

市内の研究機関等を循環する「つくばサイエンスツアーバス」を利用して、研究展示館の見学と実験講座を合わせたイベントを開催しました。

科学の街つくばの特性を生かし、小学生を対象に市内の科学館の見学と簡単な工作や実験講座を通して、驚きや感動を提供し、科学に対する関心を高めてもらうことを目的としています。

活動日・イベント名・活動場所

- ・10月20日
おもしろ理科先生の色の魔術師
つくば市民センター / 筑波実験植物園
- ・11月24日
おもしろ理科先生の静電気で遊ぼう
つくば市民センターコリドイオ / 地図と測量の科学館

参加学生

T-ACT ボランティア：1人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

小学生と保護者を対象とした工作実験講座と市内研究所の常設展示施設を見学するイベントのサポートスタッフとして参加して頂き、講座の準備や片付け、参加児童の手助けや見学時の引率をお願いしました。講師や児童と積極的にコミュニケーションをとり一緒に楽しんで活動して下さり、おかげさまでイベントがスムーズに運営できました。

参加学生さんからは普段できない経験が出来ました。つくばの研究展示施設を初めて訪問したがとても充実していて、科学の街を感じられ参加してよかったです。今度は自分で他の施設もまわってみたいとの感想をいただきました。

●学生参加者：川岸 翼（理工学群応用理工学類2年）

活動の成果

11月24日に開催された「おもしろ理科先生の静電気で遊ぼう」にて、実験企画のサポートと、国土地理院 地図と測量の記念館での引率を行いました。

今後の課題

小学校低学年が参加児童の中心であり、大学生スタッフとして威圧感のない、安心できるコミュニケーションが取れていたかどうか不安が残りました。



つくばの魅力探究★まちなかキャンプ in 研究学園 (24020V)

受入団体名：つくば市谷田部地区区会連合会・研究学園支部 (24013G)

活動内容

研究学園のまちなかにあるテーダマツ保存緑地で「まちなかキャンプ」を開催しました。

2005年のまち開きからいよいよ20年を迎える研究学園エリアですが、新しい？意外に年月が経っている？！というように感じ方は様々あると思います。そのようななか「TX 沿線のまちがこれからも魅力的であること」＝「これからもまちのひとたちが身近な地域に愛着をもつこと」として「まちなかキャンプ」の社会実験を行いました。

活動期間・活動場所

2024年11月9日～11月17日・テーダ松 保存緑地

参加学生

T-ACT ボランティア：6人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

学群学生には、企画に関わる対話をすることで、本催事の意義を理解いただき、積極性・主体性をもって参加していただきました。また本人が他の場で従事されている科学・ロボット教室での子供の見守り等の経験も活かしていただきました。対話、寄り添い等により来場者の主体性をも引き出し、子供参加の企画のサポートにもご尽力いただきました。こうした関わり方を通して、学生ご本人にとっても、普段なかなか接しない地域の住民層の方たちにも受け入れられ楽しんで参加いただいていた様子がみてとれました。

博士後期の学生は、様々な社会スキルがあり、自身の研究のなかでも地域との接点を考えられているなかで、つくば市民と広くコミュニケーションが取れた時間をたのしんでいた様子であり、また、催事中の歓談の中で、参加動機や感想などもフィードバックをしていただき、有意義な対話が出来ました。

●学生参加者：吉田 智美（社会工学学位プログラム博士後期課程 4年）

活動の成果

つくば市谷田部地区研究学園支部の活動に参加をしました。活動は11月9日～17日まで行われており、私が参加したのは16日です。この日は消防署から3名の消防士の方にきていただき AED 講習がありました。またスタッフによる参加者と焼き芋をしながらの火の扱いに関する講義がありました。これらの準備のお手伝いや参加者とのコミュニケーションを行いました。雑談しながらこの地域のことを教えていただき、楽しみながらまちづくりを学べました。

今後の課題

地域の活動ですので、なかなか継続して私に関わることはできないのですが、今回知り合いになれた方とまた会える機会があればと思いました。



常陸 LEAPDAY 2024 ～動き、動かせ～ (24021V)

受入団体名：一般社団法人 常陸 frogs (24015G)

活動内容

常陸 LEAPDAY は、学生向け次世代リーダー育成プログラム「常陸 frogs (ひたちふろっぐす)」の最終成果発表の場として、2019年からスタートしました。イベントを通して、年齢 / 立場 / 国籍を超えたつながりを生み出すこと、地域の未来を共に創ろうとする地域共創コミュニティを創出することを目的としています。

【イベント内容】

- ・常陸 frogs6期生や IBARAKI ドリーム・パス2024採択者の学生による、社会課題解決サービスのプレゼンピッチ
- ・県内外で活躍する起業家や、茨城県立高校の民間出身校長によるトークセッション
- ・frogs プログラム卒業生によるビフォーアフタトーク
- ・茨城を拠点にチャレンジしている学生団体や企業によるブースゾーン

【ボランティア内容】

- ・会場設営・撤収作業
- ・会場でのお客様誘導・案内
- ・来場者やゲストとのコミュニケーション
- ・受付業務
- ・荷物の運搬、出店者誘導など
- ・タイムキーパーや配信補助などの進行サポート
- ・広報活動（来場者や登壇者へのインタビュー）
- ・常陸 frogs 公式 SNS アカウントでの情報発信

活動日・活動場所

2024年12月8日・イーアスつくば2階（イーアスホール&サイバーダイナスタジオ）

参加学生

T-ACT ボランティア：5人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

イベントの当日スタッフとして、ブースゾーンのサポートを担当していただきました。

主に、株式会社 DEW が展開するサステナブルホームブランド『aq』ブースにて、来場者への案内やスタッフ不在時のブース番をしていただきました。

同じチームの学生やブース出展者、参加者と積極的に交流をしてくださりととても心強かったです。ありがとうございました。



令和6年度 茨城県警察大学生サポーター（24022V）

受入団体名：茨城県警察大学生サポーター（13005G）

活動内容

茨城県警察本部人身安全少年課少年サポートセンターと連携し、街頭での少年補導や学校等における非行防止教室及び非行少年等を対象とした立ち直り支援を行います。活動は勉学等に支障のない範囲で行い、活動によっては社会貢献することができ、また、御自身の成長にもつながります。

活動期間

2024年4月～2025年3月

参加学生

T-ACT ボランティア：3人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

立ち直り支援活動では、農場において、問題を抱えた少年と共に、さつまいもやピーマン等の野菜の苗植えや収穫を行いました。その他にも、少年と共に収穫した材料を切り、生地をこねるなどしてピザを焼き上げました。大学生サポーターの皆さんが少年らに優しく声をかけ、一緒に体験してくれたおかげで、少年やその家族から感謝の言葉をいただきました。年間を通し、積極的な活動をしてくださりありがとうございました。

茨城県警察大学生サポーター

募集!!



大学生サポーターを募集します。
警察と一緒に活動してみませんか!!



第3回 みんなで向き合うガンロコモウォーク (24024V)

受入団体名：HiStar'Snow Tsukuba (23014G)

活動内容

2月4日の世界対がんデー、2月15日国際小児がんデーに合わせて、がんに対する正しい理解と温かい支援の輪を広げるための啓発イベントを開催しました。

大人も子どもも病気や障害がある人もない人もみんなで一緒に歩き、いろんな人がいることを肌で感じて、いまがんと向き合っている人もこれからがんと向き合うかもしれない人もみんなで自分たちが出来ることへのがん予防のアクション（健康増進・早期発見・社会復帰）に繋がっていきます。がんと向き合う人たちが繋がり、共にエールを送り合うイベントです。

①一斉ウォーキング

つくば市中央公園～松見公園まで（ペDESTリアンデッキ約3km）を歩きながら、筑波大学附属病院やメディカルセンターで闘病中のがん患者や医療従事者の皆さんに向けてもエールを送る。

②講演会

AYA世代のリアルな現実や「ガンロコモ」について等

③ピアカフェ

がんと向き合う人（経験者、家族、遺族のみ参加）が、安げる楽しい場所を提供する。

活動日・活動場所

2024年2月8日・中央公園 ウォーキングコース：メディカル～筑波大学附属病院前

参加学生

T-ACT ボランティア：1人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

第三回 みんなで向き合うガンロコモウォーク内の“AYA世代のガンについての啓発ブース”にて、内容の説明や、啓発活動を行っていただきました。



「矢中の杜（旧矢中邸）」の保存活用（21002V）

受入団体名：NPO 法人「矢中の杜」の守り人（16008G）

活動内容

重要文化財「矢中の杜」の保存活用活動として、「矢中の杜（旧矢中家住宅）を千年保たせる」ためにさまざまな活動を実施しています。平成20年に旧矢中邸の所有者が変わったことをきっかけに、所有者や筑波大学の学生が中心となり邸宅の保存活用活動を開始、平成22年6月にNPO法人を設立しました。地域の文化財として保存活用活動を続け、令和5年9月、国の重要文化財に指定されました。毎週土曜日の邸宅公開では、公開時の邸宅の清掃、軽微な修繕、庭園の整備などを行います。

活動期間

2024年4月～2025年3月

参加学生

T-ACT ボランティア：42人（延べ人数）

活動報告

●受入団体担当者

矢中の杜の通常の邸宅公開や秋の特別公開のスタッフとして、公開準備から受付、ガイド、掃除や庭の手入れ作業まで一般のボランティアスタッフと一緒に活動していただきました。また、防災ワークショップや文化財の勉強会など、保存活用へのさまざまな活動に大変積極的に取り組んでいただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



2024 年度 実施状況報告

つくばアクションプロジェクト（以下、T-ACT）は、学生が自らの関心に基づく多種多様な自発的活動を、新たな人間関係を構築しながら実行するよう促進することで、学生の人間力を育成する筑波大学の人間力育成事業である（図1）。その始まりは、2008年度に文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」に採択された事業「共創的コミュニティ形成による学生支援—学生・教職員が一体となった新たな自主的活動の創生—」にある。学生支援GPが終了後も、筑波大学の人間力育成支援事業の一環として続けられている。

T-ACTには、学生が企画立案し展開するT-ACTアクション、教職員が企画立案し展開するT-ACTプラン、地域活動団体が実施する社会貢献活動に学生が自発的参加をするT-ACTボランティア（2012年度から開始）の3種類の活動がある。

T-ACTが支援する諸活動は、学生・教職員・地域による共創的コミュニティをベースに、半年以下の単発的・短期的活動であるため、アクティブな流動性をもつことを特徴としている。学生はそれらの活動を通して、様々な活動へ積極に加わる参加力、経験からより豊富な気持ちや教訓を感じ取る体験力、他者と関わり協調するコミュニケーション力、人をまとめ率いる統率力、ビジョンを具現化し創造する企画力といった「人間力」を養うことになり、自主性と社会性を備え、将来社会を担う人材として成長することができると期待されている。2018年度からは、T-ACTアクションの支援対象として、ビジネスにつながりうる活動も含めるようになった。すなわち、プレ的なビジネス体験を支援し、ビジネスに関するノウハウを体感しつつ、さらに発展的な支援につなげるという機能も担いつつある。

本報告では2024年度のT-ACTの支援活動についてのデータをまとめる。なお、データは2025年3月までにT-ACT推進室で把握できたものに限られる。その中でも過去10年分のデータを示すこととする。データの出自である学生からの活動報告等の資料は、提出されるタイミングが様々であるため、これまでの活動の全てが本報告の執筆時点で出揃っているわけではない。したがって、本報告のデータは今後更新されることがある。

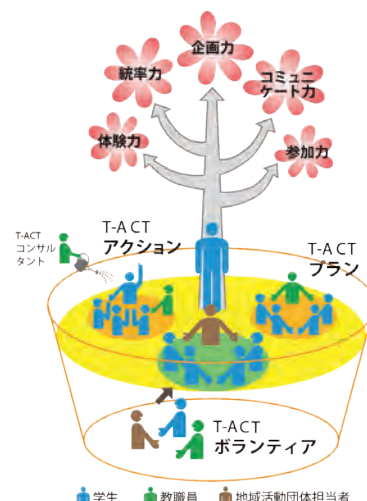


図1 共創的コミュニティ形によるT-ACTの展開と学生の成長

1. T-ACTで申請された企画等の状況

2024年度のT-ACTアクション・プランの企画申請数は50件（アクション46件、プラン4件）であり、そのうち35件（アクション31件、プラン4件）が承認された（図2）。また、2024年度までの累積承認企画数は1,067件となった。2024年度に申請された企画におけるプランナーは51名（重複者を除く実数は44名）であり、そのうち教職員のプランナーは5名であった（図3）。なお、プランナー数がアクション・プラン企画申請数よりも多いのは、前年度に申請された企画が次年度に承認される等によって、年度の申請数と認められる企画数が異なってくるからである。学生オーガナイザーは117名（実数は115名）、教職員パートナーは38名（実数は33名）であった（図4、図5）。T-ACTボランティアに登録されている団体数は39件であり、登録団体から申請され、募集が承認されたボランティア企画は26件であった（図6）。また、T-ACTボランティアに参加したことでボランティア団体から報告があった筑波大学生の実数は110名であった（図7）。

2024年度は、T-ACTアクションの活動やT-ACTという制度をメディアから取り上げられるなど、学内外からの関心が高まっていることを改めて実感した一年であった。在学生からのアクション企画申請に関する相談も

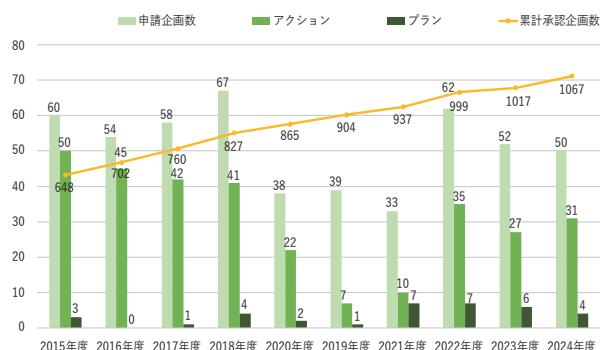


図2 アクション・プランの企画承認数の変遷

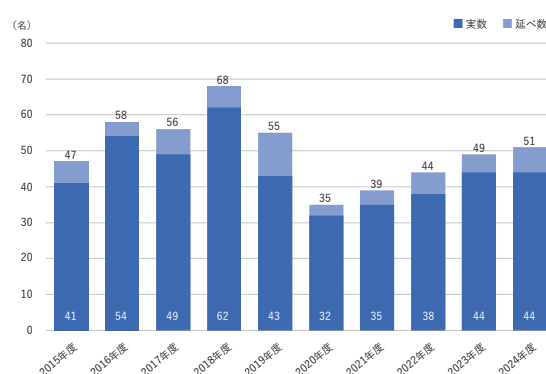


図3 プランナー数の変遷



図4 学生オーガナイザー数の変遷

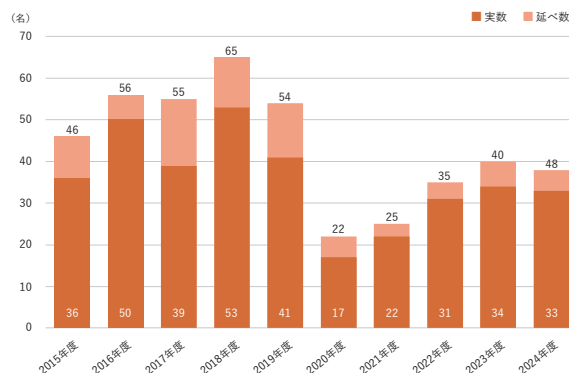


図5 教職員パートナー数の変遷

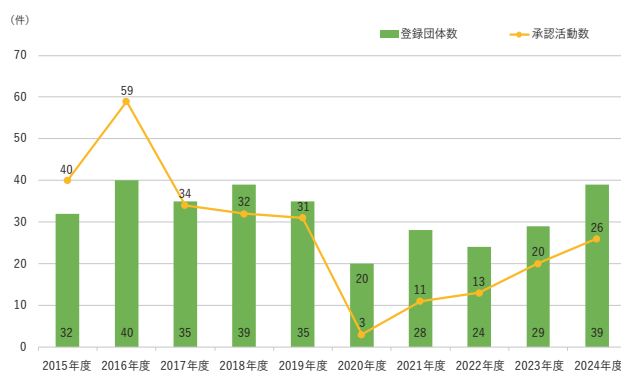


図6 T-ACT ボランティアの登録団体数と承認活動数の変遷

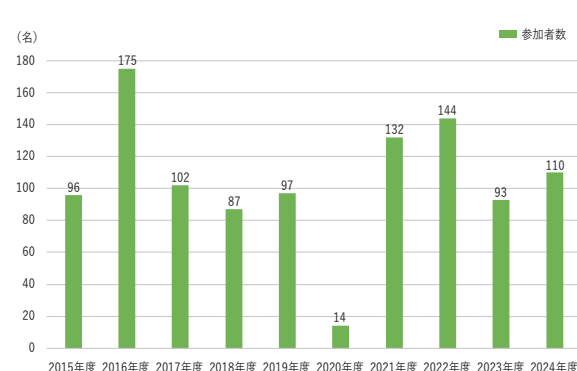


図7 T-ACT ボランティアに参加した学生数の変遷

増加し、企画申請まで至らなかった企画案や翌年度となる2025年度に申請された企画を含めると100件近くなるほど多くの相談があった。

T-ACT アクション・プランにおいては、交流の場を求めて企画立案された活動が多くみられた。まず、コロナ禍でなくなってしまったサークルを復活させたい思いから仲間を集めるために企画立案した活動が複数見られた。また、趣味といった共通の興味関心を持つ人々を集め交流を深めたいことで、個性のある交流イベントの企画が開催された。もうひとつの特徴として、多様な社会課題に対して議論しながら理解を深めていったり、アントレプレナーシップ教育に基づいたプログラムを開催したりするなど、規模や関心分野においても幅広い活動が見られた。さらに、国際交流を求める活動が継続して申請され、コロナ禍ではオンラインで開催した活動から対面で開催に切り替えて開催できた企画も見られた。このように、自ら交流の場を作り上げ、積極的にコミュニケーションを取る中で参加者間での交流を深めていき、そこから新たな価値を生み出している良い循環が生まれていたと評価できる。さらに、学内外の助成金を獲得したり、クラウドファンディング利用、及び企業からの協賛金を申請し獲得したりする等、自らの力で資金を集めて活動を計画通りに進めていく推進力が見られた企画も複数あり、プランナーとなって企画を進めている学生にとって、今後のキャリア形成においても高く評価できる経験となっているのではないかと考える。

T-ACT ボランティアは、地域団体から学生との交流を求める声が多い中、学生と団体の交流の場を少しでも増やすために行政機関及び自治体が主催するイベントに参加し、T-ACTのことを紹介する活動も積極的に行った。昨年度にはボランティア活動を希望する学生からの相談も増加したが、メールによる相談が多く、利用者数の集計には反映されておらず、さらに、参加後も報告が無かったり匿名を希望したりした参加者が複数いたことから、集計に反映されていない利用者も多くいる。

T-ACT ボランティア登録団体においては、コロナ禍で団体登録の更新を行わなかった団体が再び登録した件数が増え、さらに、設立してから活動期間が浅いがコロナ禍で活動しはじめた団体が新規登録をするなど、昨年度より10団体が増加した39団体が学生との交流を求めて登録された。特に、新規登録を希望する相談が多くあったが、学生が安心して活動できる団体を選別し学生へ周知できるよう、T-ACT ボランティア団体の登録基準を強化することとなり、社会福祉協議会との連携を深め、学生と団体を繋いで地域課題に取り組むことができる体制を整えられるきっかけにもなった。登録されたボランティア団体とその活動の特徴としては、子どもや高齢者等といった社会的弱者に対する支援や交流を行う活動、地域活性化に向けたイベント開催等、対面で交流しながら

ら行われる活動が多くみられた。また、参加学生は、長期的で継続的な参加を求める声が多い団体のニーズとは違って、単発的な活動参加によるボランティア活動へのニーズが増えている面が見られたが、参加した学生から出された報告書では、ボランティア活動を通じて相手の立場への理解が深まったり新たな気づきが得られたといった報告が多くみられていた。このことから、学生がひとつの団体で継続的に活動しながら団体の一員として関わっていく中で成長していく体験ができるようサポートすることが、T-ACT ボランティア及び参加学生の学びにおいて今後の発展につながるのではないかと考える。

2. T-ACT フォーラムの利用状況

T-ACT フォーラム来室者数の変遷を図 8 に示した。2024年度の延べ利用者数は475名であり、実利用者数は339名であった（図 8）。また、来室者（学生、教職員、地域団体からの来客など）の来室目的の割合を図 9 に示した。T-ACT アクションの新規申請に関する相談などの利用（A 新規）が20%、T-ACT アクションの運営のための相談や作業といった利用（A 継続）が40%、T-ACT プランの利用（P 新規・P 継続）が2%、T-ACT ボランティアに関する学生からの相談（V 学生）が6%、T-ACT ボランティアに関する地域団体からの相談（V 団体）が5%、T-ACT サポーターの来室（サポーター）が1%、その他の理由による利用（学生と学外者を含む）が17% であった。

ここで、実利用者数が延べ利用者数の 7 割近い数値であることは、T-ACT フォーラムを居場所として利用する学生の存在があげられる。毎年、プランナー及びオーガナイザーとして T-ACT を利用した学生が継続して T-ACT フォーラムを利用し、新規企画の申請のために来室した学生をサポートするといった T-ACT サポーターとしての機能が自然に行われている。コロナ以降、新たな T-ACT サポーターが中々いないことで、サポーター数が減少しているが、継続して企画を申請し活動しているプランナー及びオーガナイザーがサポーターとして機能できている。T-ACT への企画を申請し活動しながら T-ACT を利用する学生同士の間で交流が生まれ、共通の困り感について相談したり、複数の企画が協力して新たな活動を企画する等、フォーラムとしての T-ACT の機能が確認できた一年だったと評価している。このような状況は、T-ACT フォーラムの利用に対するニーズによって自然にみられていたが、このような交流がより活発に行われるよう T-ACT フォーラムのスタッフからもより積極的に働きかけることも必要であろう。

2024年度の利用状況のもうひとつの特徴として、新規企画に関する利用が前年度11%から20%へ、そして、ボランティアに関する相談が2%から6%へ増加した点をあげられる。ファストイヤーセミナーや活動報告会開催を通じて1年生への周知ができたことと、SNS からの情報発信を積極的に行ったことから、T-ACT の新規利用及び T-ACT ボランティアに関する相談を目的とした利用が増加したとも考えられる。

しかし、2024年度は前年度より利用者数が590名から475名へ減少しているが、その背景には T-ACT フォーラム内の運営状況による影響も考えられる。T-ACT フォーラム内の運営スタッフの減少により業務の効率化を図ったが、一方、スタッフ不在のため、適切な支援ができずに利用者数の減少という結果に繋がった可能性も考えられる。特に、新規企画申請に関連する利用者数の割合は増加したものの、新規利用者の実数は前年度に比べてほぼ半数近く減った数値であった。今後、T-ACT フォーラムに専任スタッフが不在であっても学生にとって利用しやすい支援体制への見直しや運営面での対応の仕方等を検討することは急務であると考えられる。既に T-ACT を利用したことがある学生は T-ACT フォーラムを居場所として積極的に利用しており、こういったフォーラムとしての機能がより多くの学生において活用できるよう、T-ACT の利用方法や関連情報の積極的な発信などの工夫が必要であるだろう。

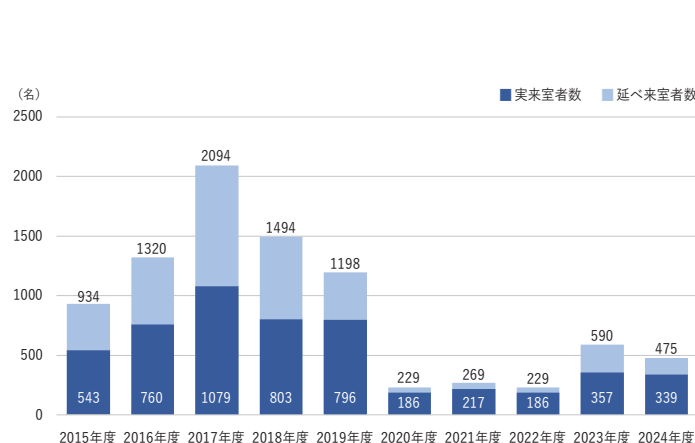


図 8 T-ACT フォーラム来室者数の変遷

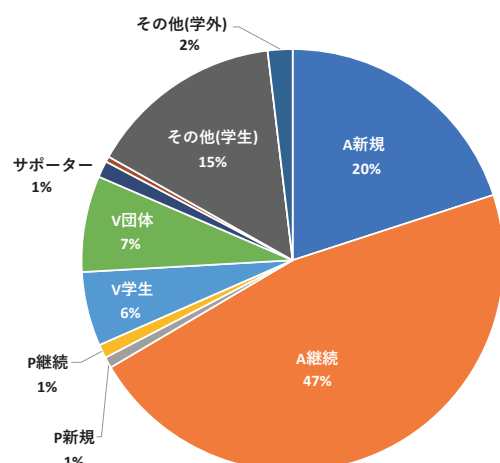


図 9 T-ACT フォーラム利用目的

3. T-ACT による人間力の成長

T-ACT アクション・プランの利用者の活動終了後の人間力の成長に関する調査を、Web アンケートで行っている。参加力、体験力、コミュニケーション力、統率力、企画力の5つを人間力の指標として想定し、それにくわえて体験を通じた自己理解の深まりについて、それぞれを測定する質問項目を定めている(表1)。

調査対象は T-ACT アクション・プランの活動を終えた学生もしくは教職員であった。活動中に表1の質問項目をどの程度感じたかを4件法で尋ねた。2024年度の調査対象は51名であり、そのうちプランナーが16名、オーガナイザーが23名、パティシパント12名であった。

全体の回答状況を見ると、「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合が100%となっており、T-ACTに参加した全学生から人間力の成長や自己理解の深まりを得たことが示された。T-ACTによる人間力の成長の変化については、例年の傾向からオーガナイザーとしての参加よりもプランナーとしての参加の方が、人間力の成長や自己理解の深まりを得られている傾向があるが、2024年度の結果では概ね類似な数値が見られており、加え

表1 人間力を測定する項目

参加力：積極的に活動に取り組む力
活動の実現に向けて自分なりに努力できた 活動に積極的に関わることができた 活動の実行に貢献することができた 活動にできるだけ多く参加できた 互いに協力し合いながら、活動を進めることができた
体験力：活動の中で感じとり考える力
活動を通して、新しいまたは忘れていた自分の長所に気づくことができた 活動を通して、自分の改善すべき点を知ることができた 活動を通して、喜怒哀楽を感じることができた 活動を通して、なんらかの新しい発想を得ることができた いろいろな出来事を見聞きできた 活動に参加して、いろいろと考えさせられる体験ができた
コミュニケーション力：他者と関わる力
他のメンバーに対して自分の意見を伝えることができた 他のメンバーと積極的に関わることができた 自分の気持ちを伝えることができた 他のメンバーの意見に耳を傾けることができた
統率力：メンバーをまとめる力
他のメンバーに対して公平に接することができた 孤立したメンバーがいなかどうが注意を払うことができた 指示を出し、効率よくメンバーを動かすことができた 活動の目的、あるいは目標を達成させることができた リーダーシップを発揮することができた
企画力：創造し計画し実現する力
活動に関して様々なアイデアを発想することができた 活動を実現するために適切な計画を立てられた 活動を実現する際に生じる問題点を予測しておくことができた ある程度計画通りに活動を遂行できた 活動に関係する情報を多く集めることができた
その他
自分について考えさせられる体験ができた

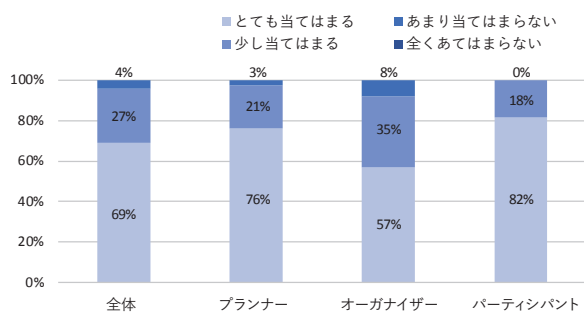


図10 T-ACT 参加時の役割と参加力の成長

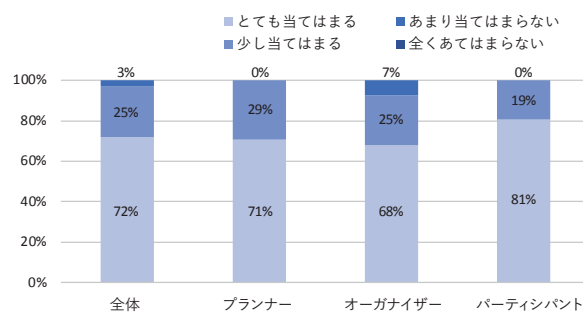


図11 T-ACT 参加時の役割と体験力の成長

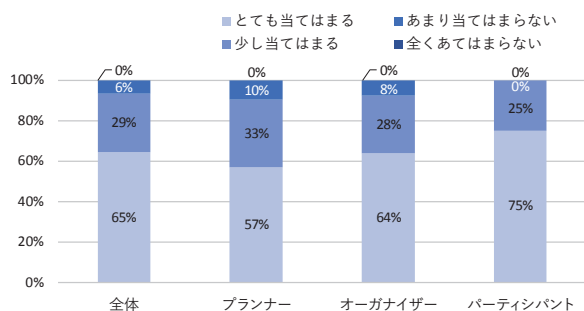


図12 T-ACT 参加時の役割とコミュニケーション力の成長

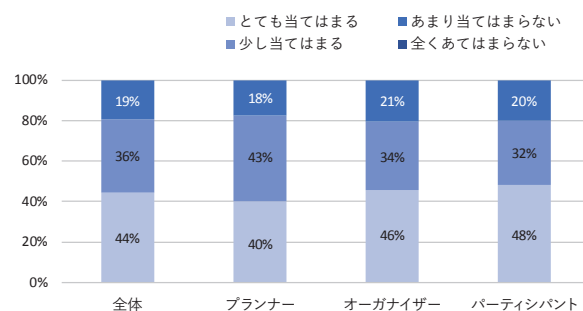


図13 T-ACT 参加時の役割と統率力の成長

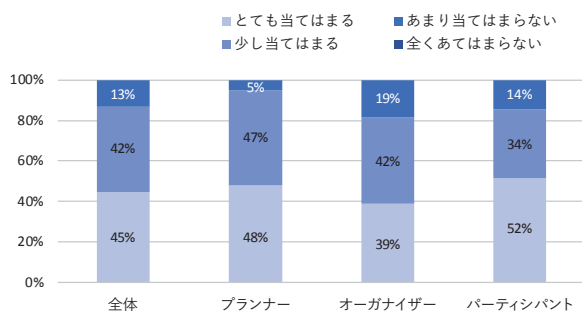


図14 T-ACT 参加時の役割と企画力の成長

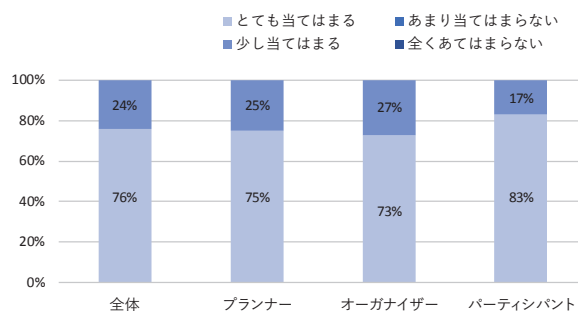


図15 T-ACT 参加時の役割と自分への評価

で、パーティシパントのほうが一番高い割合であることは興味深い。さらに、各々の人間力を見てみると、より高次の力であると定義されている統率力、企画力といった能力の方においても、プランナー、オーガナイザー、そして全体のほうより、オーガナイザーが「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合が高かった。特に、「参加力」「体験力」「コミュニケーション力」のほうで回答の割合が高い結果から、参加者（オーガナイザー）が活動に参加した際の満足度が高かったこととして解釈することもできるだろう。これに対して、「企画力」「統率力」に対して「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合が、プランナーのほうが一番低く、リーダーシップを取って企画を進めていくうえでの難しさを出した結果ではないかと考えられる。T-ACT フォーラムではプランナーの学生に直接接しながらサポートすることもあるが、今後、リーダーシップを取ってチームを取りまとめながら進めていけるようサポートすることをより意識して行う必要があるだろう。

最後に、本調査の今後の課題として、回答数の少なさがあげられる。コンサルタントがプランナーを通じてオーガナイザー及びパーティシパントへの協力を呼びかけていることから、一定の回答を集めることができた。しかし、活動企画数やそれに関わった方の人数を考慮すると、まだ低い回答率にとどまっているため、今後、アンケートへの回答率を上げるための努力をする必要があるだろう。

4. 活動報告会および企画表彰

本稿では、2024年度に開催した活動報告会とともに、本報告書に掲載された2024年度を中心に行われた活動企画の報告が行われた2025年度開催の活動報告会を合わせて報告する。ポストコロナで活動報告会が年に1回開催することとなったが、活動してから本報告書が発行されるまで2年ほどの期間が過ぎて掲載されていることを調整するために、2024年度と2025年度に開催した活動報告会を合わせて報告する。

まず、2024年度の活動報告会は、2022年度下半期から2023年度上半期及び下半期に行われた活動を対象に実施されたⁱ。前年度に引き続き、新入生を中心にT-ACTのことを周知させる目的を兼ねて「T-ACT Welcome Fest 2024—つくばアクションプロジェクト新入生歓迎会・活動報告会—」を、7月10日（水）（17:00～19:30）に筑波大学総合研究棟 B112講義室にて開催した。コロナ禍で活動中止となった企画を再開させ、卒業前の最後の活動として企画立案された学生が多かったため、活動報告会を行った7月には既に卒業されたプランナーが多数いた。そのため、卒業したOBOGの方が参加しやすくするためにハイブリッド形式で開催した。また、卒業したプランナー2名より、動画で活動報告をしてもらい、後輩へのメッセージも伝える等、プログラムの構成にも工夫し開催した。当日には、オンライン及び対面参加を合わせて、本学大学生97名、本学教職員23名、学外参加者27名の計147名が参加し、大盛況のうちに開催された。本会では、2023年度を中心に活動を行ったT-ACT アクション（学生中心の活動）6件とT-ACT ボランティア（地域団体中心の活動）1件の活動報告が行われた。また、卒業生から動画による活動報告2件が行われ、合計9件の活動が報告された。



i 2024年度下半期に行われた活動の一部は、2025年6月に開催した活動報告会より活動報告を行った。



次に、2025年度の活動報告会は、2023年度下半期から2024年度上半期及び下半期に行われた活動を対象に実施された。新入生を中心に T-ACT のことを周知させる目的を兼ねて、昨年度と同様、「T-ACT Welcome Fest 2025—つくばアクションプロジェクト新入生歓迎会・活動報告会」を、6月11日（水）（17:00～19:30）に筑波大学総合研究棟 B 112講義室にて対面形式のみで開催した。当日には、本学学生111名、教職員20名、学外参加者15名の計146名が参加し、本学の学生が多く参加した中で盛況のうちに開催することができた。本会では、2024年度に活動を行った企画の中から T-ACT アクション（学生中心の活動）10件と T-ACT ボランティア（地域団体中心の活動）1件の活動報告が行われ、合計11件の活動が報告された。

また、各回では、第2部となるポスター発表を兼ねた情報交換会・交流会の時間を設け、参加者間で気やかな交流ができるよう図った。学生や教職員だけでなく、自治体関係者及び地域活動団体の方々も参加され、発表を行った学生と参加者間とで積極的な質疑応答や交流が行われた。



T-ACT アクション・プランへの表彰（活動奨励を目的に、参加者の人間力をより高めたと評価される企画への賞の授与）は、活動報告会に参加し発表された企画をノミネート企画とし、活動報告会来場者の投票によって決定した。また、2024年度にはボランティア活動の報告を行った学生には表彰を行ったが、2025年度にはボランティア活動に対する表彰を行うことは活動の趣旨に合わないことから表彰は行わず、活動報告と共に、活動された団体の紹介をもらった。他にも、T-ACT アクション企画の活動を行う学生へのご支援を下された教職員ヘグッド・パートナー賞を、活動に参加した学生への教育的な配慮をしていただいたボランティア登録団体への感謝状を贈呈した。これらの表彰式や感謝状贈呈について、開催年度ごとにまとめて示す（表2～6）。

表 2 2024年度に表彰された企画

賞	承認番号	企画名
最優秀賞	23006A	「プレコンセプションケア - 「知る」ことは「守る」こと -」
優秀賞	23022A	新編入生お助け隊2024!! ～広大な学内にちらばる新編入生のみなさんへ～
奨励賞	23003A	筑波大学かぶき會 第三場（だいさんば）TSUKUBA DAIGAKU KABUKI-KAI DAISANBA ~The 3rd scene
	23020A	筑波大学かぶき會 第三場（だいさんば）（第一回自主公演） ～ TSUKUBA DAIGAKU KABUKI-KAI DAISANBA ～ The 3rd scene : The 1st independent performance ～～
	23011A	筑波大学お掃除大作戦！
	23013A	日韓みらいファクトリーアワード2023（令和5年度日韓青少年対話型交流事業）

表 3 2024年度に表彰されたボランティア参加者

T-ACT 推進室長表彰	23002V	茨城県のひきこもり支援を盛り上げよう（一般社団法人アイネット）
--------------	--------	---------------------------------

表 4 2024年度グッド・パートナー賞・ボランティア感謝状

グッド・パートナー賞	秋山 肇 先生 （人文社会系 助教）	23013A 日韓みらいファクトリーアワード2023 （令和5年度日韓青少年対話型交流事業）
	申 貞恩 先生 （人文社会系 助教）	23013A 日韓みらいファクトリーアワード2023 （令和5年度日韓青少年対話型交流事業）
	大倉 浩 先生 （人文社会系 教授）	23003A 筑波大学かぶき會 第三場（だいさんば） TSUKUBA DAIGAKU KABUKI-KAI DAISANBA ~ The 3rd scene ~ 23020A 筑波大学かぶき會 第三場（だいさんば）（第一回自主公演） ～ TSUKUBA DAIGAKU KABUKI-KAI DAISANBA ～ The 3rd scene : The 1st independent performance ～～
ボランティア感謝状	つくば市社会福祉協議会ボランティアセンター	

表 5 2025年度に表彰された企画

賞	承認番号	企画名
最優秀賞	24015A	「旧宿舎からの脱出」
優秀賞	24009A	筑波大学りんごの棚プロジェクト
	24013A	ちかん、盗撮、誰のせい？～ちかん対策ポスターを作り直そう～
	24022A	新生活応援フリーマーケット（Flea market to support your new life）
奨励賞	24003A	令和6年度日韓青少年対話型交流事業
	24007A	StartupWeekend つくば 12th
	24017A	StartupWeekend つくば 13th
	24019A	展示会を身近にしよう
	24020A	自分だけの紅茶タペストリーを作ろう！
	24021A	院生ひろば：大学院生同士がつながる場の模索
	24023A	新編入生お助け隊2025！！～広大な学内にちらばる新編入生のみなさんへ～

表 6 2025年度グッド・パートナー賞・ボランティア感謝状

グッド・パートナー賞	三盃 亜美 先生 (人間系 助教)	【24009A】筑波大学りんごの棚プロジェクト
	吉田 右子 先生 (図書館情報メディア系 教授)	【24009A】筑波大学りんごの棚プロジェクト
	鈴木 勉 先生 (システム情報系 教授)	【24014A】筑波大学開学50周年記念オリジナルヘッドマーク 車両で行く水海道車両基地見学
ボランティア感謝状	チャリティーサンタつくば支部	
	HiStar'SnowTsukuba	

5. 公開シンポジウムの開催中止

T-ACT 推進室は、学生のさらなる活動の発展と地域参画を促進するため、筑波大学内外に向けて学生の活動と T-ACT の成果を発信し、意見交換や交流による関連組織との連携を図るイベントとして、毎年、T-ACT 推進室主催で公開シンポジウムと活動報告会を開催してきた。特に公開シンポジウムにおいては、上記の目的以外にも T-ACT の支援体制を振り返り、今後の支援のあり方を考えるという目的も含まれる。しかし、2024年度には運営面における様々な課題が重なった結果、毎年行われてきた公開シンポジウムをやむを得ずに開催しないこととした。T-ACT プログラムが、学生のやってみたいことを応援し、そこから社会が求めている人材になるための力を身につける経験ができるプログラムとして、より効果的に活用されるようにするためには、組織としての運営の効率化を図りつつ、今日の社会や大学の教育方針及び、そして学生のニーズ等を反映し、それに合わせて変わっていくことも必要であろうし、支援の質の向上のために今後も努力し続けていくことが重要となるだろう。

編集後記

私事になりますが、T-ACT 推進室に着任して3年目になります。

学生たちを支援するなかで、ちょっとした興味や関心から「やってみたい」という思いを形にしていく学生たちの頑張りや成長を見るたびに、私自身も刺激を受け、日々学ばせていただいているように感じます。

T-ACT というのは、「やってみたい」を実現していく学生自身だけでなく、関わる周囲の人々—学生に限らず、教職員も含めて—にもポジティブな影響を与えており、その広がりがスパイラルのように大きくなっていくことを目にすることもあります。学生自身の生活がより良くなったり、地域や社会の課題に対して解決策を模索・実践するなかで、小さな変化が生まれることもありました。このような学生たちのエネルギーやアイデアが、大学全体、そして社会へとさらに繋がっていくように、今後も T-ACT を通して学生たちの活動を支援していきたいと考えています。

昨年度には、T-ACT の取り組みについて学内外から複数回のインタビューや取材を受けました。また、ある大学からは、T-ACT ホームページに掲載されている学生たちの生き生きとした活動の様子を見て、「その秘訣を知りたい」との質問を受けたこともあります。自分の「やってみたい」に真剣に取り組んでいる時こそ、学生が最も輝いている瞬間ではないかと思います。そして、その姿が多くの方々にも伝わったことを、とても嬉しく感じました。

今後も、学生の皆さんが T-ACT を通じてさらに光り輝けるように、そして、T-ACT 推進室が皆さんの成長や挑戦を支えられる場を提供できるよう、引き続きサポートしてまいります。

T-ACT コンサルタント

李 健實

2024 年度活動報告書をお読みいただきありがとうございます。今年度もエネルギッシュな活動が多く、編集作業をしながら改めて学生とボランティア団体のみなさんの活力に圧倒されました。

「IMAGINE THE FUTURE.」がスローガンである筑波大学は、自由にやりたいことができるような風潮があると感じております。学生が主体的に企画して活動を進められる「T-ACT」では、面白いプロジェクトが沢山立ち上げられていて、毎日ワクワクします。価値観の多様性、グローバル化の進展、技術の加速...変化し続ける時代で好きなことが定まらない学生が多いのではないのでしょうか。ふわふわした不安な気持ちにこそ、寄り添って自分探しのためにふらっと T-ACT フォーラムへお越しいただきたいです。筑波大学には、様々な分野のエキスパートが集まるため、T-ACT フォーラムにも様々な分野の企画が集まります。筑波大学にいるからには、国際色豊かで緑溢れる広大なキャンパスで、踏み込んだことない世界へ飛び込み、色んなことに挑戦してほしいです。そのためにボランティアの窓口として、学生とボランティア団体が互いにフラットに連携できるよう、自身の役割を果たしていきます。

引き続き、T-ACT フォーラムは、地域のみなさまとの繋がりを大切に、学生さんの皆さんに寄り添って行ける場所であることを目指し、サポートを続けてまいります。

T-ACT ボランティア担当職員

岡野 芽衣

2024 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属			職 名
室長	本間三和子		副学長（学生担当） 学生生活支援室長
副室長	加賀 信広	学生生活課	特命教授
副室長	杉江 征	人間系	教授
室員	土井 裕人	人文社会系	助教
	葛山 泰央	人文社会系	講師
	角替 敏昭	生命環境系	教授
	梅本 通孝	システム情報系	准教授
	後藤 嘉宏	図書館情報メディア系	教授
	尾花 望	医学医療系	助教
	澤江 幸則	体育系	准教授
	川島 史也	芸術系	助教
	水野 雅之	人間系	准教授
	唐木 清志	人間系	教授
	慶野 遥香	人間系	助教
	北原 祐理	人間系	助教
	李 健實	学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
	小野 健一	学生部学生生活課	課長

2025 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属			職 名
室長	唐木 清志	人間系	教授 学生生活支援室長
副室長	杉江 征	人間系	教授
室員	土井 裕人	人文社会系	助教
	葛山 泰央	人文社会系	講師
	角替 敏昭	生命環境系	教授
	梅本 通孝	システム情報系	准教授
	金 尚泰	図書館情報メディア系	教授
	尾花 望	医学医療系	助教
	澤江 幸則	体育系	准教授
	川島 史也	芸術系	助教
	水野 雅之	人間系	准教授
	慶野 遥香	人間系	助教
	北原 祐理	人間系	助教
	李 健實	学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
	小野 健一	学生部学生生活課	課長

つくばアクションプロジェクト活動報告書

2025 年 11 月発行

筑波大学 T-ACT 推進室
〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222 / 2269

